

男女共同参画社会に関する市民意識調査

平成 30 年 1 月

龍 ヶ 崎 市

目 次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的／2. 調査の内容／3. 調査の設計／4. 回収結果／5. 集計にあたって ／6. 回答者の属性	
II 調査結果の概要と考察	6
1. 男女共同参画社会について／2. 家庭生活について／3. 男女平等意識について 4. 人権問題について／5. 就労について／6. ワーク・ライフ・バランスについて 7. 女性の活躍推進について／8. 育児休暇と育児について／9. 少子化問題について 10. 性的マイノリティについて／11. 地域活動について 12. 男女共同参画社会の実現のための施策について	
III 調査結果の分析	10
1. 男女共同参画社会について	10
1-1 男女共同参画についてのイメージ (問1)	
1-2 男女共同参画の実現について (問2)	
1-3 法律や条例等の認知度 (問3)	
2. 家庭生活について	12
2-1 男女の役割 (問4)	
2-2 家庭のあるべき姿 (問5)	
2-3 家庭内での役割分担 (問6)	
3. 男女平等意識について	15
3-1 各分野における男女平等の評価 (問7)	
3-2 あらゆる分野での男女平等実現のための課題 (問8)	
4. 人権問題について	19
4-1 身近な身体的・精神的暴力 (DV) の見聞 (問9)	
4-2 性的嫌がらせの見聞 (問10)	
5. 就労について	23
5-1 女性の就労形態 (問11)	
5-2 女性の就労継続に対する課題 (問12)	
5-3 男女共に働きやすい就労環境の整備 (問13)	

6. ワーク・ライフ・バランスについて	25
6-1 ワーク・ライフ・バランスの理想と実際 (問 14)	
6-2 ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた課題 (問 15)	
7. 女性の活躍推進について	28
7-1 女性の職業生活の活躍に向けた課題 (問 16)	
8. 育児休暇と育児について	29
8-1 男性の育児休暇 (問 17)	
8-2 育児休暇の取得 (問 18)	
8-3 育児の実施に関する課題 (問 19)	
9. 少子化問題について	31
9-1 理想とする子どもの人数 (問 20)	
9-2 実際の子どもの人数 (問 21)	
9-3 子どもの数が理想より実際の方が少ない理由 (問 22)	
10. 性的マイノリティについて	33
10-1 性的マイノリティなどの用語の認識 (問 23)	
10-2 「性的マイノリティ」の人たちが暮らしやすい社会への取組 (問 24)	
11. 地域活動について	34
11-1 地域活動の参加状況 (問 25)	
12. 男女共同参画社会の実現のための施策について	38
12-1 行政施策への要望 (問 26)	
13. 自由回答	39
IV 資料編	58
1. 調査票	58
2. 集計結果表	70
3. 属性クロス集計表	92
4. 前回調査と今回調査の比較表	132
5. 企業意識調査の考察	139
6. 企業意識調査 調査票	153

I 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、龍ヶ崎市における男女共同参画についての市民の意識や、生活実態等を把握することによって、男女共同参画社会の実現に向けて、基礎的な資料を得ることを目的として実施したものである。

2. 調査の内容

- (1) 男女共同参画社会について
- (2) 家庭生活について
- (3) 男女平等意識について
- (4) 人権問題について
- (5) 就労について
- (6) ワーク・ライフ・バランスについて
- (7) 女性の活躍推進について
- (8) 育児休暇と育児について
- (9) 少子化問題について
- (10) 性的マイノリティについて
- (11) 地域活動について
- (12) 男女共同参画社会の実現のための施策について

3. 調査の設計

- (1) 調査対象地域：龍ヶ崎市全域
- (2) 調査対象：18歳以上の市民
- (3) 母集団：77965人（2017年9月1日現在：住民基本台帳）
- (4) 抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出
- (5) 調査方法：郵送による配布・回収
- (6) 調査期間：平成29年10月6日～26日

4. 回収結果

- (1) 配布数：3000票
- (2) 有効回収数：1100票
- (3) 有効回収率：36.7%

5. 集計にあたって

- (1) 表、グラフの中の「n」は各設問に対する回答者数を示している。
- (2) 百分率（%）の計算は、「n」を分母とし、小数第2位を四捨五入して表示している。
したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で%を足しあわせて100%にならない場合がある。

6. 回答者の属性

(1) 性別

回答者は、男性が484人(44.0%)、女性が609人(55.4%)となっており、女性の比率が高くなっている。本市の男女別構成では、男性が49.9%、女性が50.1%であることから、若干女性の意向が強いと思われる。(H29.9.01 住民基本台帳)

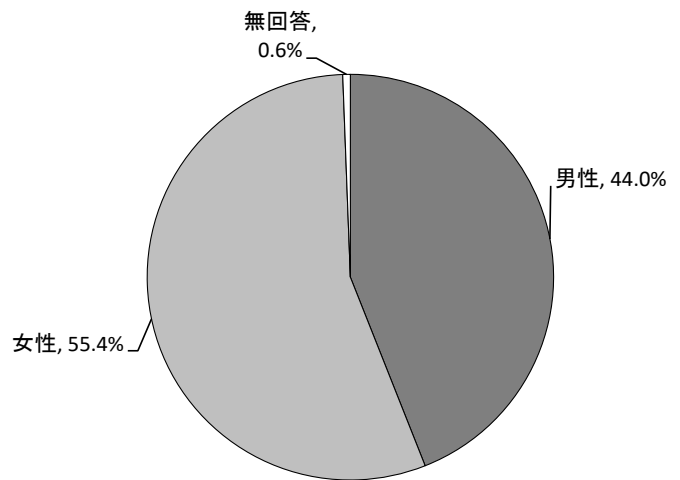
性別を年齢別にみると、男性は60歳代の人が最も多く3割を示し、50歳代、70歳代以上が続き、50歳以上で約7割を占めている。女性は60歳代が最も多く約3割を示し、40歳代、50歳代の順になっており、40歳代、50歳代、60歳代を合わせる6割を超えている。

性別を居住地域別にみると、男性女性共に馴染小学校区が最も多く約16%を示し、八原小学校区、龍ヶ崎小学校区の順になっている。

性別を就業状況別にみると、男性は無職が最も多く約3割となっており、次いで専門・技術職16.9%、労務・サービス業12.0%、経営・管理職が10.3%となっている。女性は専業主婦が4分の1を超え、次いで無職が14.0%となっている。

性別を既婚・未婚別にみると、男性女性共に既婚者が7割を超えている。

性別を家族構成別にみると、男性女性共に同じ傾向で、二世帯(親と子(未婚))が最も多く、4割を超えている。



(2) 年齢

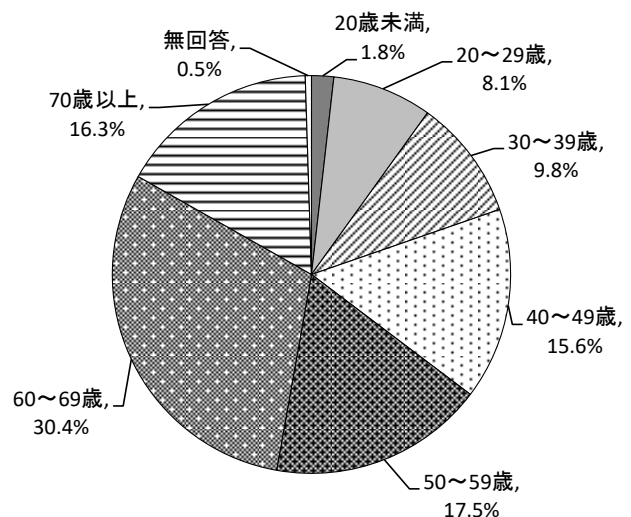
全体では、60歳代が30.4%と最も多く、次いで50歳代が17.5%、70歳代以上が16.3%、40歳代が15.6%となっている。

年齢を男女別にみると、20歳未満は男性の方が多くなっているが、それ以外の年代は、いずれも女性の方が多くなっている。特に20歳代では女性が3分の2を占める。

年齢を居住地域別にみると、20歳代と40歳代以上では、馴染小学校区が最も多く、20歳未満と30歳代は八原小学校区が最も多くなっている。

年齢を就業状況別にみると、30歳代では、自営業・勤め人が7割近くを占め、40~50歳代では6割近くを占めている。一方、60歳以上では無職が最も多くなっている。

年齢を既婚・未婚別にみると、30歳以上では既婚が未婚を上回っており、29歳以下では未婚が既婚を上回っている。



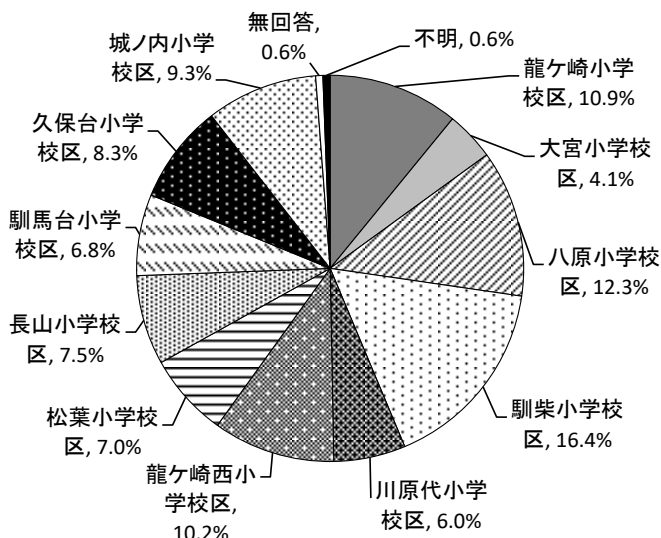
年齢を家族構成にみると、59歳以下では、二世帯（親と子（未婚））が最も多く、中でも20歳未満は7割を示している。60歳以上では、夫婦のみの世帯が最も多く、5割前後となっている。

（3）居住地

全体では、駒柴小学校区が16.4%で最も多く、次いで八原小学校区が12.3%、龍ヶ崎小学校区が10.9%、龍ヶ崎西小学校区が10.2%で続いている。

居住地を男女別にみると、いずれの地域も女性が男性よりも多くなっている。

居住地を年齢別にみると、いずれの地域も60歳代が最も多く、城ノ内小学校区では、40歳代、50歳代、60歳代がそれぞれ約2割となっている。川原代小学校区、龍ヶ崎西小学校区、松葉小学校区、長山小学校区、大宮小学校区では、70歳以上が2番目に多い。八原小学校区、駒柴小学校、龍ヶ崎小学校区、久保台小学校区では50歳代が2番目となっている。駒馬台小学校区では、40歳代が2番目となっている。



居住地を就業状況別にみると、大宮小学校区では、自営業・家族従業が最も多く20.0%、八原小学校区では、主婦（パート・内職）が最も多く17.0%、駒馬台小学校区では、専門・技術職が最も多く21.3%、久保台小学校区では、主婦（パート・内職）が最も多く17.6%となっている。それ以外では、無職が最も多くなっている。

居住地を既婚・未婚別にみると、いずれの地域も既婚が最も多くなっている。

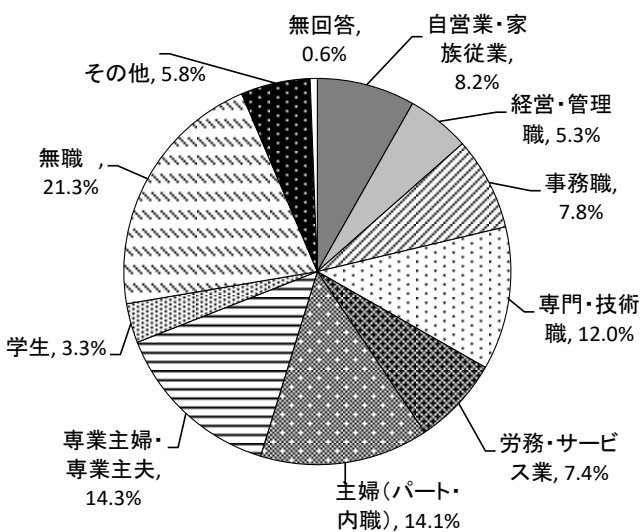
居住地を家族構成別にみると、松葉小学校区では夫婦のみの世帯が最も多く、それ以外では二世帯（親と子（未婚））の世帯が最も多くなっている。

（4）就業状況

全体では、自営業・勤め人が約4割、無職は約2割となっている。

就業状況を男女別にみると、「自営業」「経営・管理」「事務職」「専門・技術職」「労務・サービス」の内、事務職を除き、男性が女性を上回っている。無職についても、男性が女性を上回っている。

就業状況を年齢別にみると、自営業・家族従業、経営・管理職では、60歳代（3割）、事務職、専門・技術職では、40歳代（約3割）、労務・サービスでは、30歳代が（約3割）多くなっている。主婦（パート・内職）では50歳代が多く（約3割）、専業主婦・専業主夫では60歳代が最も多く



(5割) になっている。無職では、60歳代と70歳以上が多く(約9割) になっている。

就業状況を居住地別にみると、自営業・家族従業では、龍ヶ崎西小学校区が最も多く2割を示し、それ以外の就業状況では、馴染小学校区が最も多くなっている。

就業状況を既婚・未婚別にみると、学生以外では、いずれも既婚が最も多くなっている。

就業状況を家族構成別にみると、専業主婦・専業主夫、無職では夫婦のみの世帯が最も多く(4割)、それ以外の就業状況では、二世帯(親と子(未婚))が最も多くなっている。

(5) 未婚・結婚

全体では、既婚(配偶者あり)が73.6%、未婚が16.5%、既婚(離別・死別)が9.5%となっている。

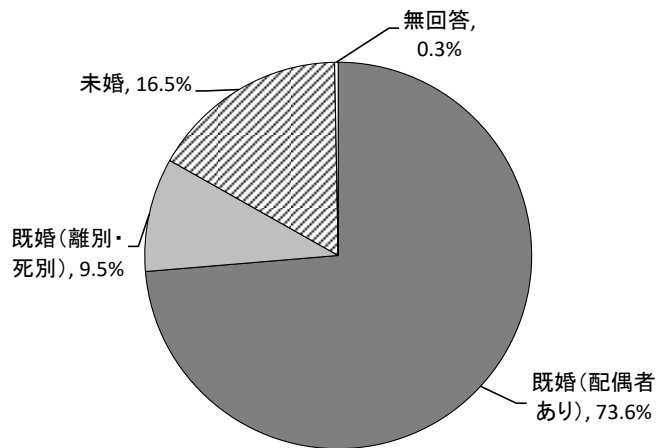
既婚・未婚を男女別にみると、いずれも女性が多くなっており、特に既婚(離別・死別)は女性のほうが多い。

既婚・未婚を年齢別にみると、既婚(配偶者あり)、既婚(離別・死別)共に、60歳代が最も多く3割を示し、未婚では20歳代が最も多く3割を示している。

既婚・未婚を居住地別にみると、既婚(配偶者あり)は馴染小学校区が最も多く、既婚(離別・死別)では、龍ヶ崎小学校区、未婚では、馴染小学校区が最も多くなっている。

既婚・未婚を就業状況別にみると、既婚(配偶者あり)では専業主婦・専業主夫が最も多く18.6%、既婚(離別・死別)では無職が多く40.0%、未婚では学生が最も多く19.8%となっている。

既婚・未婚を家族構成別にみると、いずれも二世帯(親と子(未婚))が最も多くなっている。



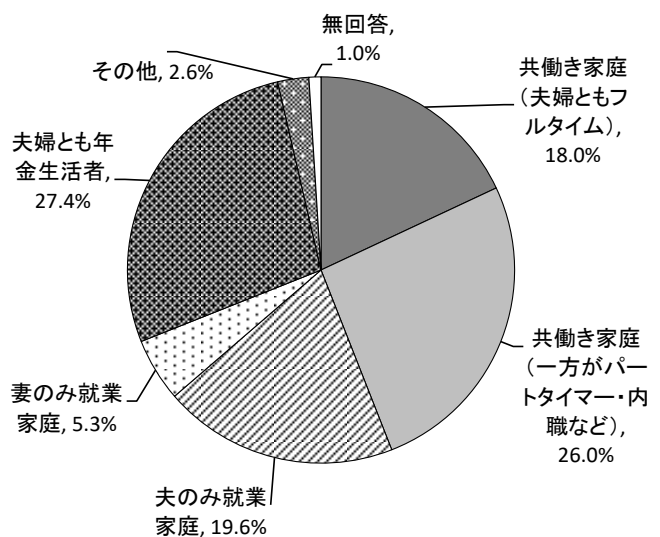
(6) 共働きか否か

既婚(配偶者あり)について、全体では、夫婦とも年金生活者が27.4%で最も多く、次いで、共働き家庭(一方がパートタイマー・内職など)が26.0%、夫のみ就業家庭が19.6%、共働き家庭(夫婦ともフルタイム)が18.0%となっている。

共働きか否かを男女別にみると、共働きをしている、していない、いずれも女性が男性を上回っているが、夫のみ就業家庭では、ほぼ同じ割合となっている。

共働きか否かを年齢別にみると、共働き家庭は40~50代、夫のみ、妻のみ就業家庭は60代、夫婦とも年金生活者は60歳以上での割合が高くなっている。

共働きか否かを居住地別にみると、共働き家庭(夫婦ともフルタイム)は馴染小学校区、共働き家



庭（一方がパートタイマー・内職など）は八原小学校区、夫のみ就業家庭は八原小学校区、馴染小学校区、妻のみ就業家庭、夫婦とも年金生活者は馴染小学校区の割合が最も高くなっている。

共働きか否かを就業状況別にみると、共働き家庭（夫婦ともフルタイム）では、「専門・技術職」が25.3%と最も高く、次いで「自営業・家族従業」が20.5%となっている。共働き家庭（一方がパートタイマー・内職など）では、「主婦（パート・内職）」が44.1%と最も多く、次いで「専門・技術職」が14.7%、「自営業・家族従業」が12.8%となっている。

共働きか否かを家族構成別にみると、共働き家庭、夫のみ就業家庭では二世帯（親と子（未婚））、妻のみ就業家庭、夫婦とも年金生活者では、夫婦のみの世帯の割合が高くなっている。

（7）家族構成

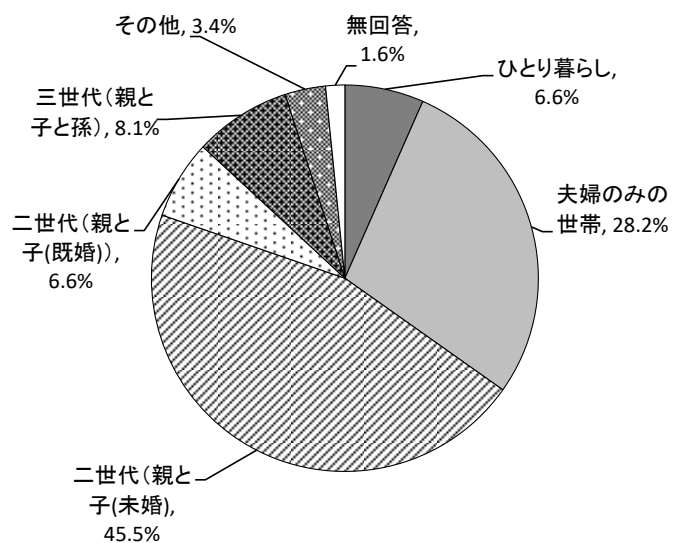
全体では、二世帯（親と子（未婚））が45.5%で最も多く、次いで、夫婦のみの世帯が28.2%、三世帯（親と子と孫）が8.1%となっている。

家族構成を男女別にみると、すべての世帯で女性が多くなっている。

家族構成を男女別にみると、二世帯（親と子（未婚））は50歳代が最も多く、それ以外の家族構成では60歳代が最も多くなっている。

家族構成を居住地別にみると、二世帯（親と子（既婚））では、龍ヶ崎小学校区、八原小学校区、三世帯（親と子と孫）では、龍ヶ崎西小学校区、それ以外の家族構成では馴染小学校区が最も多くなっている。

家族構成を就業状況別にみると、二世帯（親と子（未婚））では、主婦（パート・内職）が最も多く、二世帯（親と子（既婚））では、自営業・家族従業が最も多く、それ以外では無職が最も多くなっている。



Ⅱ 調査結果の概要と考察

1. 男女共同参画社会について

男女共同参画社会については、「公正な社会」「すべての人が尊重される社会」をイメージしている。また、「暮らしやすい社会」「活気がある社会」という地域づくりと関連する事項も指摘している。

男女共同参画社会の実現に向けた取り組みでは、男女共に半数以上が「男女の違いを認めたいうえでなら、実現に向けて取り組む必要があると思う」としている。

年齢別では、若い世代でも男女共同参画社会の実現を求めている。

法律や制度では、「男女雇用機会均等法」「育児・介護休業法」「DV防止法」が高く認知されている。

男女共同参画社会については、法律や制度による社会的な取り組みと共に、身近な環境（職場や地域）での推進が求められている。

2. 家庭生活について

男女の役割では、「男は仕事、女は家庭」という従来からの考え方に対して、「そうは思わない」が全体の6割を占めている。「そう思う」では、全体で約5%と低い割合を示しているが、その中でも20歳代が約1割と高い割合となっている。

家庭のあるべき姿では、「男性も女性も仕事をし、家事・育児も男性と女性で分担する」と半数以上が答えており、男性よりも女性の方が若干上回っている。

「実際にあなたの家庭ではどうなっていますか」という質問に対しては、「男性も女性も仕事をし、家事・育児も男性と女性で分担する」共同分担意識は15.0%と低くなっている。

家庭生活において、「男は仕事、女は家庭」と思わない考え方の割合（63.0%）よりも、共同分担意識の割合（55.3%）が低く、さらには、現実的な家庭内での共同分担意識（15.0%）が低くなっている。そのことから、男女共同参画を進めるためには、現実的な家庭内での男女共同分担意識に関する啓発や普及などが重要となる。

3. 男女平等意識について

男女平等の意識では、[家庭生活]の中で、平等感を持っているのは全体の3割強であり、半数以上は、男性が優遇されているという意識を持っている。

[職場]では、平等感が家庭生活よりも少なくなり、男性の優遇が指摘されている。

[教育の場]では、平等感が約7割を占め、高い割合を示している。ただし、女性の優遇が4.5%に過ぎず、男性の優遇の約2割と比較すると男性が優遇されている状況が伺える。

[社会活動]の場でも、男性の優遇が全体の半数を超えている。

[法律や制度上]は、平等感が41.6%と他と比較すると高いが、まだ男性の優遇が上回っている。

[政治の場]では、男性の優遇されている意識が約7割と高く、平等感は2割にとどまっている。

[しきたりや習慣]では、平等感が低く、男性の優遇が約8割を指摘している。

[社会全体]でも男性の優遇が高く、平等感は2割弱である。

[あらゆる分野での男女平等実現のための課題]では「男性の理解と協力」が約5割を占めている。

男女平等意識については、「教育の場」で圧倒的に高く意識されているものの、他の分野ではまだ男性が優遇されている状況にあり、今後の「教育の場」の波及効果が期待される。また、「政治の場」や「しきたりや習慣」「社会全体」など、女性自身の意識の向上とそれを支える社会制度の構築が求められている。

4. 人権問題について

身近な身体的・精神的暴力（DV）については、約9割が「受けたことがない」とし、「直接被害を受けたことがある」と約1割（7.5%）が答えている。また、「友人や知人など自分以外の人」がDVを受けたという見聞については、約3割が指摘しており、DVの問題は潜在的な課題であるともいえる。

相談の方法としては、「家族・親戚（31.7%）」「知人・友人（24.4%）」が高く占めており、また、「相談しなかった（28.0%）」「相談できなかった（17.1%）」なども高く、その理由として「相談しても無駄（57.1%）」「自分さえ我慢すればいい（40.0%）」としている。

性的嫌がらせ（セクハラ）についても、DVと同様に、約9割が「直接被害を受けたことはない」と答えているが、友人・知人など自分以外の人では、約3割が見聞している。

〔相談場所〕については、「上司・同僚」が35.9%である。一方で、「相談しなかった」が34.6%を示し、その理由についても「相談しても無駄」が約6割を占めている。

DVやセクハラに関しては、顕在化していない部分もあり、今後のきめ細かな対応が求められる。それらの被害については、人権が脅かされているのだという意識啓発が必要であり、社会的な支援（顕在化が可能な環境整備など）が求められる。

5. 就労について

女性の就労については、「子どもが生まれたら仕事をやめるが、子どもが成長したら、再び仕事につく」が最も多く約5割（49.3%）を占め、次いで「結婚し、子どもが生まれても仕事を続ける」が36.9%となっている。

女性の就労継続に支障を及ぼすものとして、「子育てとの両立」が7割を超えており、「夫が家庭のことについて非協力的なこと」が5割弱となっている。

男女平等のための就労環境の整備では、「働き方の実情に合った保育所や幼稚園の受け入れ体制の改善（57.3%）」「家庭内での家事労働や育児の分担（54.9%）」が半数を超えている。また、「育児休業制度など育児と両立できる支援体制の充実（43.0%）」「労働時間の短縮やフレックスタイム制の導入（37.4%）」が高くなっている。

特に女性の再雇用については、職種によっては正規雇用が難しく、非正規雇用としての就労が多いと推察されることから、働きたい女性の意向を踏まえながら、企業等との連携や協力を含めた取組が必要である。

6. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

ワーク・ライフ・バランスについて、「理想」として、「仕事に専念・優先したい」、「家庭生活・地域活動と仕事との両立したい」、「家庭生活・地域活動に専念・優先したい」がそれぞれ約3割と同じ割合を示している。

しかし、〔実際〕では、「家庭生活・地域活動と仕事を両立している（8.7%）」が少なく、「仕事に専念・優先している」を合わせると46.6%と高くなっている。また、男女別にみると、男性が「仕事に専念・優先している」が約6割と多くなっている。女性が「仕事に専念・優先している」と「家庭生活・地域活動に専念・優先している」では、それぞれ約3割と同じ割合を占めている。

ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた課題として、「フレックスタイムの導入（出勤・退勤時刻を従業員が決められる制度）」や「半日や時間単位の有給休暇」「在宅勤務（自宅にいながら、出勤して行

うのと同じ仕事をする勤務制度」などが指摘されている。

ワーク・ライフ・バランスの理想と現実では、「仕事」を優先せざるを得ない社会環境（労働環境）が根強いと言えるが、今後の取組としては「働き方改革」で示されているような多様な就労の形態を創出していくことと、それを実現するためには企業（就労の場）の協力と理解を得るための連携が必要である。

7. 女性の活躍推進について

「女性の職業生活の活躍に向けた課題」については、「出産・育児・介護があっても、仕事を継続できるようにする」が8割近くを占めている。また、「女性が働ける場を増やす」「同一労働同一賃金や均等・均衡待遇への取り組み」「女性自身の意識改革」などが指摘されている。

女性の活躍推進については、安心して仕事を継続するために、正規雇用と非正規雇用の格差是正など、今日的な課題解決が求められている。

8. 育児休暇と育児について

男性が育児休暇を取得することについては、「大いに賛成である」と「まあ賛成である」を合わせて約8割を占めている。育児休暇の取得については、「状況が許せば取るかもしれない」が44.5%と最も多く、約3割が「積極的に取る」と答えている。

男女別の育児休暇の取得に対する考え方では、「積極的に取る」は男性の18.4%に対して、女性は男性の2倍以上にあたる38.8%が答えている。

育児に関わろうとするとき、支障となるものとしては、「育児休暇などの制度が整っていないこと」が5割を超え、「仕事が忙しい」「育児に対する参加することに対する周囲の偏見」がそれぞれ3割を超えている。

男性の育児休暇の取得に関しては、取得に対する職場内の理解などの意識改革が必要であり、それを支える社会的な環境整備（啓発や制度の普及など）が求められている。

9. 少子化問題について

理想とする子どもの人数では、「2人(43.1%)」「3人(48.4%)」を合わせると9割を超えているが、実際の子どもの人数では、「2人(53.5%)」が5割を超えているが、「1人(16.3%)」「3人(17.8%)」を示しており、「1人」の増加と「3人」の減少がみられる。

子どもの人数が理想より実際の方が少ない理由は、「子育てのための経済的な負担が大きい」ことや「年齢的あるいは健康上の理由から」「仕事と子育ての両立が困難だから」と指摘している。

少子化の問題は、経済的な負担などの外発的な要因とともに、年齢的なことなど内発的な要因もあり、総合的な取組が必要である。

10. 性的マイノリティについて

性的マイノリティの用語については、5割以上が内容と共に用語を認識しているが、全体の1/4が「聞いたことがない」と答えている。

性的マイノリティの人たちが暮らしやすい環境への取組については、「同性婚を認めるなど社会制度の見直し」「教育現場での啓発活動」がそれぞれ4割強を示している。また、「専門の相談体制」「安心して集まれる場や機会の充実」についても3割強の人が指摘している。

性の多様性が唱えられている今日、社会的な制度がまだ未整備なこともあり、啓発や制度の確立等がこれからの課題と言える。

11. 地域活動について

〔自治会・町内会〕では、「参加して役員をしている／参加して役員をしたことがある（39.3%）」が高く、「参加している／参加したことがある」を含めると7割を超えている。

〔子ども会などの子どもに関する活動〕では、「参加したことがない」が4割弱であり、全体として、参加は少なくなっているものの「参加して役員をしている／したことがある」では2割を超えている。

〔PTAや保護者会などの活動〕では、「子ども会など子ども関連の活動」と同様に「参加したことがない」が4割を示しているが、「参加して役員をしている／したことがある」が3割弱を示して、積極的面を持っている。

〔福祉に関する活動〕については、「参加したことがない」が約7割を占めており、「参加している／参加したことがある」は2割弱にとどまっている。

〔環境に関する活動〕でも「参加したことがない」が5割強、「参加している／参加したことがある」が4割弱と他の分野と比較して高い割合を示している。

〔男女共同参画に関する活動〕では、「参加したことがない」が約9割を占めており、「参加している／参加したことがある」は3.8%に過ぎない。

〔まちづくりなどの活動〕では、「参加したことがない」が約7割を占めており、「参加している／参加したことがある」は2割弱にとどまっている。

〔趣味やスポーツ、学習などの活動〕では、「参加したことがない（45.2%）」、「参加している／参加したことがある（40.9%）」が4割を超えており、「参加して役員をしている／したことがある」が1割弱を示している。

〔行政主催の教室や講座など〕では、6割強が「参加したことはない」と答え、「参加している／したことがある」では3割弱にとどまっている。

最近では、子どもの育成会やPTAなどの分野で女性の進出が多くなっていることから、今後は、福祉やまちづくりなどあらゆる分野で女性の視点からの参加が求められている。さらには、女性の参加によって、地域活動が大きく展開することもあり、地域全体の取組みとして捉えることが重要である。

12. 男女共同参画社会の実現のための施策について

今後の男女共同参画社会の実現に向けての行政施策への要望については、「給与・労働条件の改善」「育児・保育施設の充実」がそれぞれ4割を超え、「職場における男女平等の促進」「高齢者や病人の介護制度や施設の充実」がそれぞれ3割を超えている。

男女共同参画社会の実現に向けて、行政の果たす役割は大きいですが、「給与・労働条件の改善」「就労機会の充実」など民間の参加も必要である。

Ⅲ 調査結果の分析

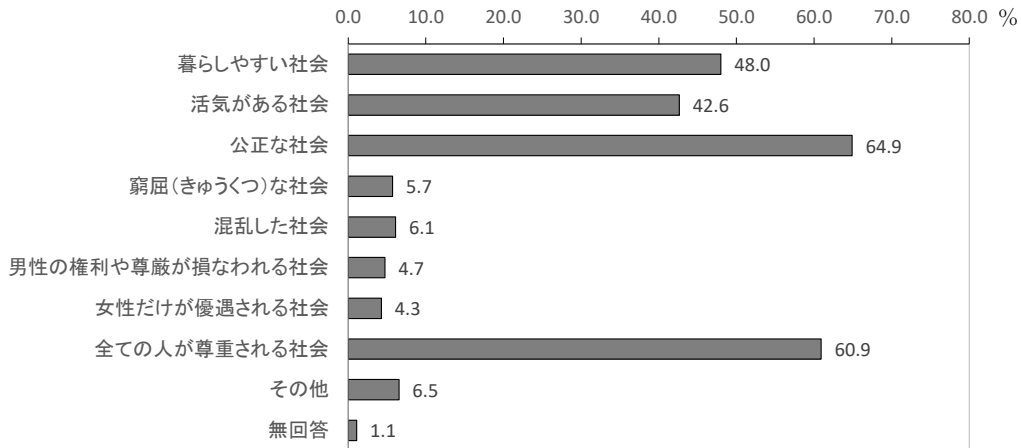
1 男女共同参画社会について

※クロス集計結果については資料編を参照

※前回調査：平成19年6月実施（今回調査：平成29年10月実施）

1-1 「男女共同参画社会」についてのイメージ（問1：複数回答）

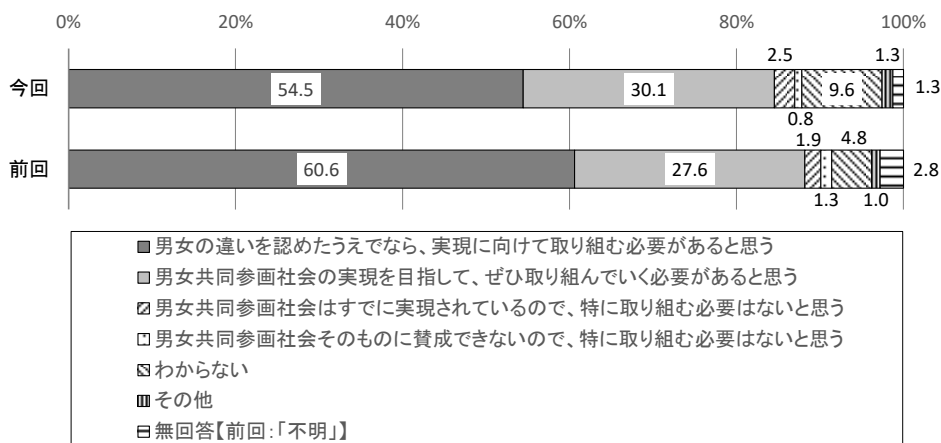
「男女共同参画社会」のイメージについては、「公正な社会」、「全ての人々が尊重される社会」がそれぞれ6割を超え、「暮らしやすい社会」が約5割、「活気がある社会」が約4割を占めている。



1-2 男女共同参画社会の実現について（問2：単数回答）

男女共同参画社会の実現については、「男女の違いを認めたらうえでなら、実現に向けて取り組む必要があると思う」が54.5%で最も多く、次いで「男女共同参画社会の実現を目指して、ぜひ取り組んでいく必要があると思う」が30.1%となっているが、「わからない」とする回答も9.6%ある。

全体として、男女共同参画社会への実現が強く指摘されている。

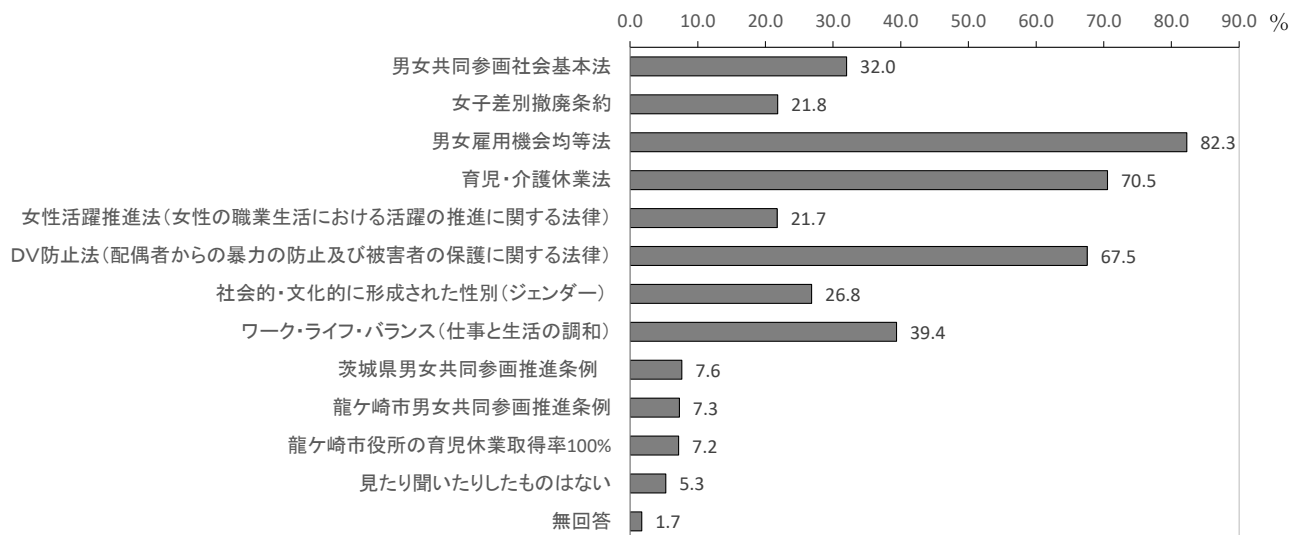


前回調査との比較では、最も高い「男女の違いを認めたらうえでなら、実現に向けて取り組む必要があると思う」が、前回調査60.6%から今回54.5%と減少し、「男女共同参画社会を目指して、ぜひ取り組んでいく必要があると思う」が、前回調査27.6%から今回30.1%と若干ではあるが増加している。男女についても同様な傾向がみられる。

1-3 法律や条例等の認知度（問3：複数回答）

法律や条例等の認知度については、「男女雇用機会均等法」が8割を超え、「育児・介護休業法」、「DV防止法」が7割前後を占めている。

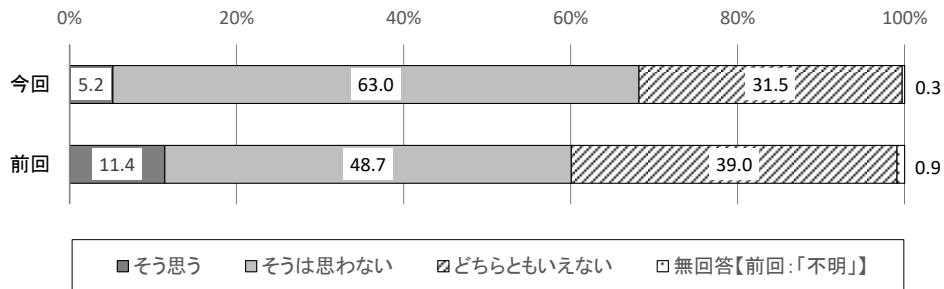
育児・介護やDVなど女性の置かれた状況に対する法律や条例への認知度が高いことがうかがえる。



2 家庭生活について

2-1 男女の役割（問4：単数回答）

「男は仕事、女は家庭」という考え方については、6割を超える市民が「そうは思わない」と答えている。「そう思う」が5%強であるが「どちらともいえない」「無回答」を合わせて3割強を示している。



男女別にみると全体的な傾向は変わらないが、男性が「そう思う（6.4%）」が女性より2.1%上回り、女性が「そうは思わない（64.7%）」で男性より4%上回っており、女性の意識の強さがうかがえる。

年齢別にみると「そう思う」では、20歳代が10.1%を示し、30歳代も8.3%となっている。

若い世代の20歳代では、「そう思う」と年齢別の中では10.1%と各年代の中で最も高くなっている。

前回調査との比較では、「そうは思わない」が前回調査は48.7%に対して、今回は63.0%と増加している。「どちらともいえない」が前回調査39.0%から今回31.5%と減少し、「そう思う」も前回調査11.4%に対して今回5.2%と減少している。

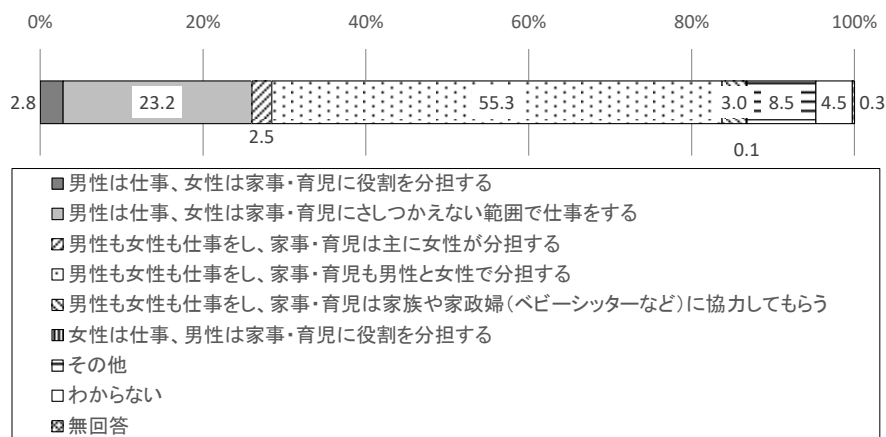
同様に男女別にみると、「そう思う」について男性が前回調査15.0%に対して、今回5.2%と約10%減少している。「そうは思わない」が、前回調査の男性43.3%、女性53.0%に対して、今回男性60.7%、女性64.7%と10%以上の増加を示している。

全体としては、従来の「男は仕事、女は家庭」という考え方から男女共同という意識が高まりつつあるといえる。

2-2 家庭のあるべき姿（問5：単数回答）

「男性も女性も仕事をし、家事・育児も分担する」が最も多く半数を超えている。次いで「男性は仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする」が2割を超えている。

全体としては、仕事と家事・育児に対する男女との分担の回答率が高いといえども55.3%であり、現実的にはまだまだ女性への負担が多いことがうかがえる。



男女別にみると「男性は仕事、女性は家事・育児に役割を分担する」「男性は仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする」「男性も女性も仕事をし、家事・育児は主に女性が分担する」では、男性が若干上回っているが、「男性も女性も仕事をし、家事・育児も男性と女性で分担する」では、女性が上回っていることから、男性の理解と協力が必要と思われる。

年齢別にみると、「男性も女性も仕事をし、家事・育児も男性と女性で分担する」では、20歳代が70.0%を占め、次いで50歳代が61.1%と多くなっている。「男性は仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする」は、60歳代、70歳以上に多い。

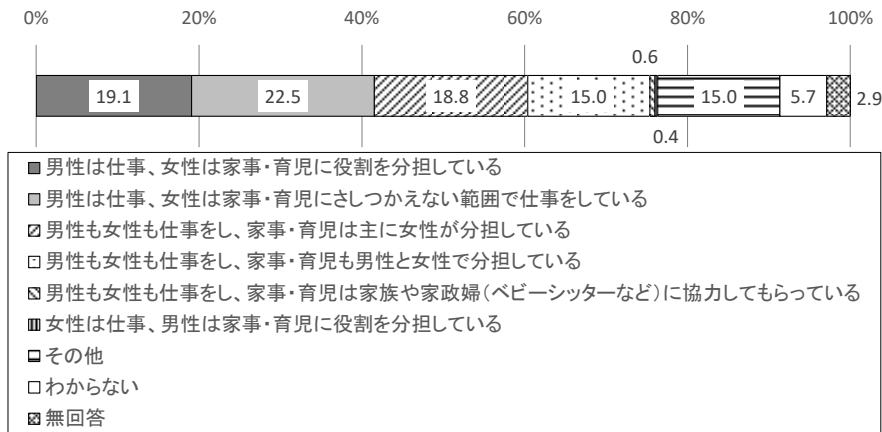
職業別に「男性も女性も仕事をし、家事・育児も分担する」をみると、「事務職」「労務・サービス業」「主婦(パート・内職)」「学生」が6割を超えている。

前回調査との比較では、「男性も女性も仕事をし、家事・育児も男性と女性で分担する」前回調査の43.9%から55.3%と11.4%増加している。男女別にみても、共に同様の傾向がみられ、10%以上の増加がみられる。また、「男性は仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする」については、前回調査と比較し、全体・男女別共に減少している。

2-3 家庭内での役割分担（問6：単数回答）

実際の家庭内での「家庭のあり方」については、「男性は仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をしている」が22.5%と最も多く、「男性は仕事、女性は家事・育児に役割を分担している」「男性も女性も仕事をし、家事・育児は主に女性が分担している」が2割弱、「男性も女性も仕事をし、家事・育児も男性と女性で分担している」が15.0%となっている。

実際の家庭内では、「あるべき姿」と比較して「男性は仕事、女性は家事・育児を分担している」が多く、「男性も女性も仕事をし、家事・育児も男性と女性で分担している」が低くなっていることから、より女性への負担が多くなっている。



男女別にみると、「男性は仕事、女性は家事・育児に役割を分担している」「男性も女性も仕事をし、家事・育児も男性と女性で分担している」で男性が多く、「男性は仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をしている」「男性も女性も仕事をし、家事・育児は主に女性が分担している」で女性が多くなっている。

年齢別にみると、「男性は仕事、女性は家事・育児に役割を分担している」では20歳未満と30歳代が25.0%と多く、「男性は仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をしている」では50歳代が30.1%、「男性も女性も仕事をし、家事・育児は主に女性が分担している」では20歳未満が35.0%、「男性も女性も仕事をし、家事も・育児も男性と女性で分担している」では20歳代が25.8%と最も高くなっている。

職業別にみると「男性は仕事、女性は家事・育児に役割を分担している」では「専業主婦・専業主夫」が42.0%、「男性は仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をしている」では「主婦（パート・内職）」が41.9%、「男性も女性も仕事をし、家事・育児は主に女性が分担している」では「自営業・家族従業」が33.3%、「男性も女性も仕事をし、家事・育児も男性と女性で分担している」では「労務・サービス業」が25.9%と高くなっている。

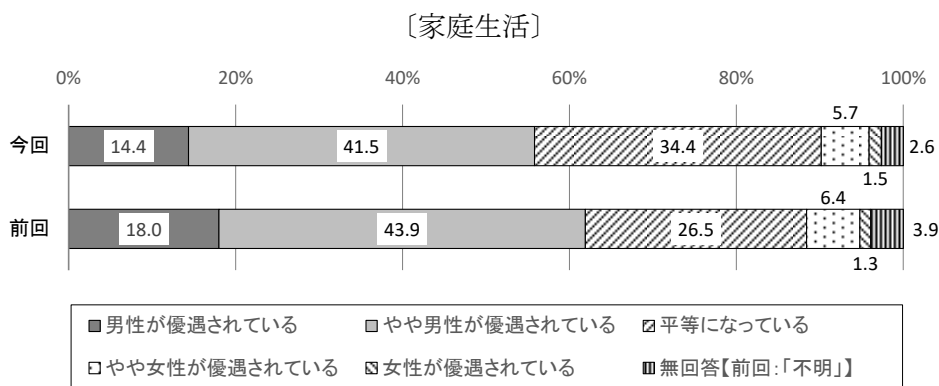
3 男女平等意識について

3-1 各分野における男女平等の評価（問7：単数回答）

男女平等に対する評価で、〔家庭生活〕では「やや男性が優遇」が4割を超えて最も多く、次いで「平等になっている」が34.4%で、「男性が優遇されている」「やや男性が優遇されている」を合わせると55.9%と半数を超えている。「女性がやや優遇されている」「女性が優遇されている」を合わせると7.2%となっている。

全体として、「女性が優遇」されていると比較して、「男性が優遇」されている傾向が強いといえる。

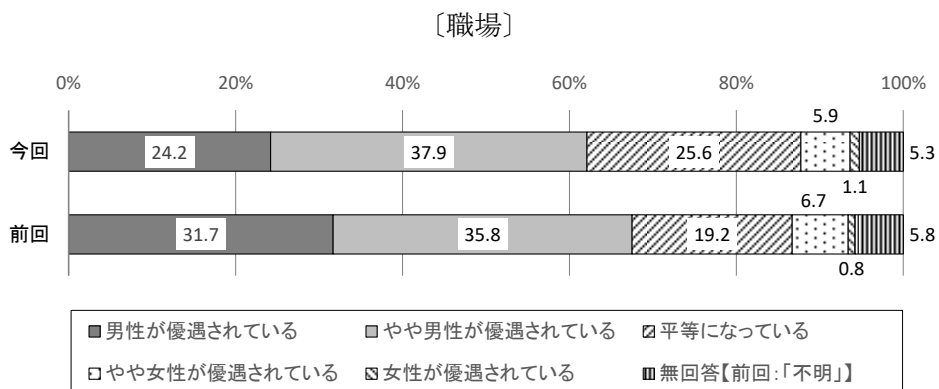
前回調査との比較では、「やや男性が優遇されている」が最も多いが、前回調査43.9%から今回41.5%と減少し、その反面、「平等になっている」では、前回調査男性が32.8%、女性が21.9%に対して、今回は男性41.7%、女性28.7%と増加しており、家庭内での平等意識が進んでいる。



〔職場〕では、〔家庭生活〕と全体の傾向は同様であるが、「男性が優遇されている」が24.2%と高く、「平等となっている」が25.6%と低くなっており、「男性が優遇」「やや男性が優遇」合わせて6割を超え、男性が優遇されている。

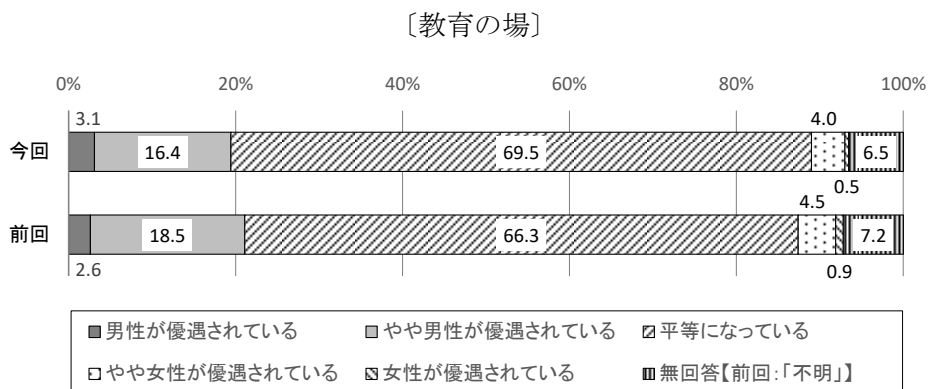
前回調査との比較では、「やや男性が優遇されている」が前回調査と今回共に最も高く、全体で前回調査35.8%、今回37.9%と若干ではあるが増加している。また、「男性が優遇されている」は、前回調査31.7%に対して今回は24.2%と7.5%減少している。しかし、「平等になっている」では、前回調査19.2%に対して今回25.6%と増加している。

全体的には、まだまだ男性が優遇されている状況ではあるが、職場における平等感も徐々に増えている。



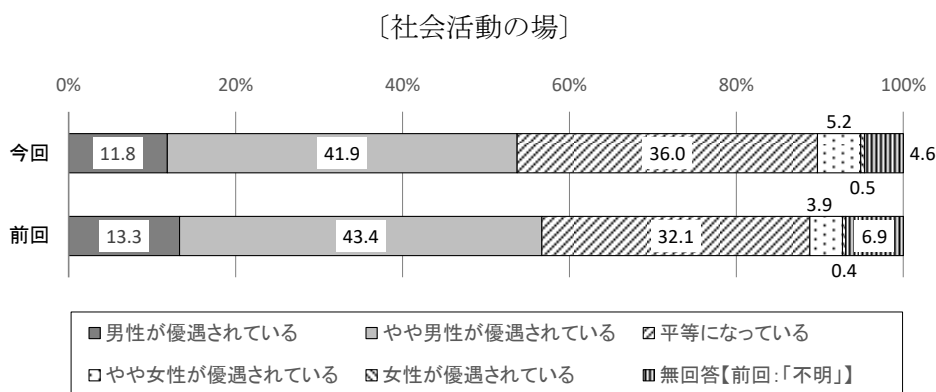
〔教育の場〕では、「平等となっている」が69.5%と約7割を占めており、一方「男性が優遇されている」「やや男性が優遇」合わせての19.5%に対して、「やや女性が優遇」「女性が優遇」は合わせて4.5%となっている。

前回調査との比較で、「平等になっている」が前回調査66.3%から今回69.5%とわずかではあるが増えている。特に男性が前回調査70.5%から今回77.3%と増えている。



〔社会活動の場〕では、「やや男性が優遇されている」が41.9%、次いで「平等になっている」が36.0%、「男性が優遇されている」が11.8%、女性が優遇されているという評価は「やや女性が優遇」「女性が優遇」を合わせて5.7%となっている。

前回調査との比較では、「やや男性が優遇されている」が前回調査43.4%から今回41.9%と減少し、「平等になっている」が前回調査32.1%から今回36.0%と増加している。男女別にみても共に同じ傾向を示している。

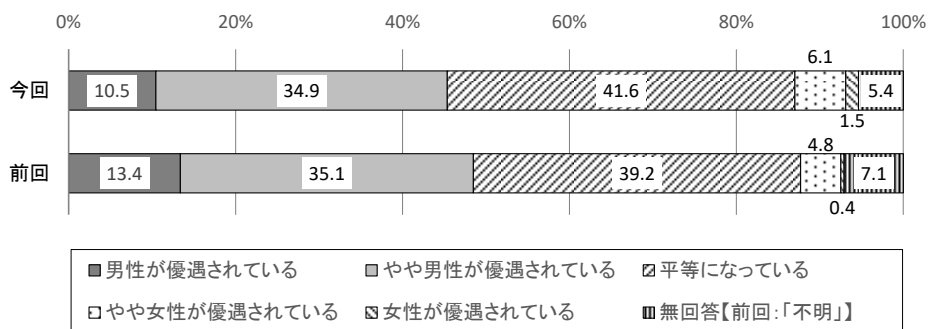


〔法律や制度上〕では、「平等になっている」が41.6%と高いが、「男性が優遇されている」「やや男性が優遇されている」を合わせて45.4%であり、「女性が優遇されている」「やや女性が優遇されている」を合わせて7.6%と、全体的に男性が優遇されているという意識が強い。

前回調査との比較では、「男性が優遇されている」が2.9%減少し、「やや男性が優遇されている」が0.2%減少とわずかながら減少し、その反面「平等になっている」は2.4%増加している。

男女別で「平等になっている」をみると、前回調査に対して男性が0.9%とわずかに減少しているものの女性が4.7%増加している。

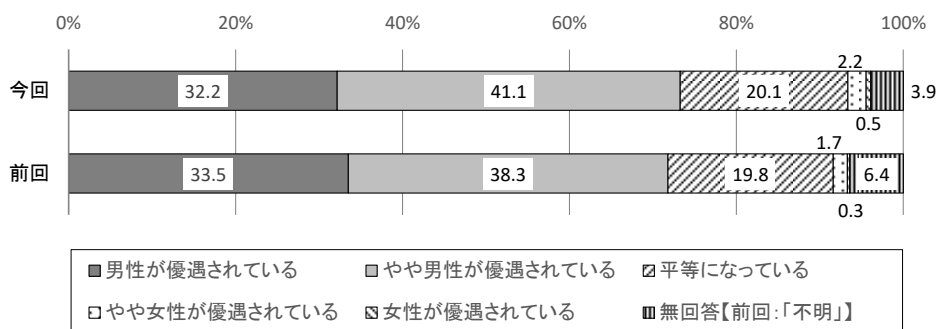
[法律や制度上]



〔政治の場〕では、「平等になっている」が20.1%、「男性が優遇されている」「やや男性が優遇されている」は合わせて73.3%を占めている。一方「やや女性が優遇されている」「女性が優遇されている」は合わせて2.7%と低くなっている。

前回調査との比較では、前回調査と今回で最も高い「やや男性が優遇されている」は前回調査38.3%が今回41.1%とわずかではあるが増えている。

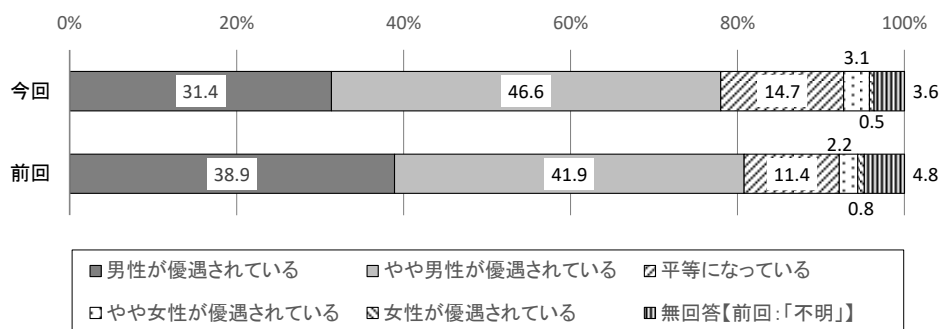
[政治の場]



〔しきたりや習慣〕では、「平等になっている」が14.7%で、「男性が優遇されている」「やや男性が優遇されている」は合わせて78.0%と8割近く占めており、「女性が優遇されている」「やや女性が優遇されている」は合わせて3.6%と低くなっている。

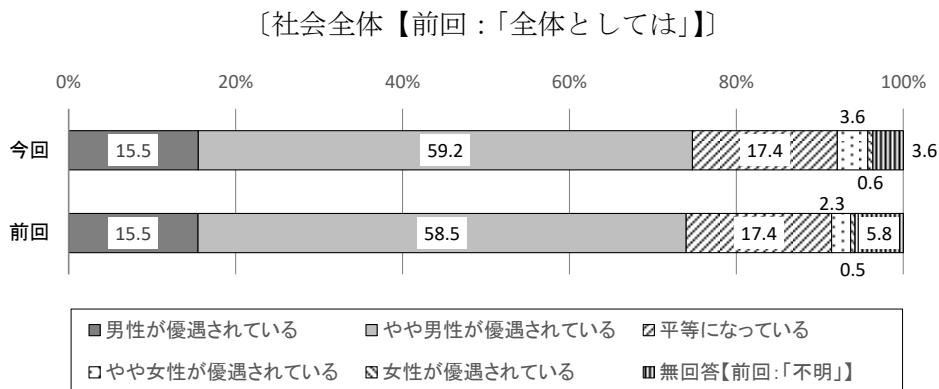
前回調査との比較では、全体的に男性が優遇されている傾向にあるが、「男性が優遇されている」が7.5%減少し、「やや男性が優遇されている」が4.7%増加している。「平等になっている」については前回調査と比べて今回では3.3%増加している。

[しきたりや習慣]



〔社会全体〕としては、「やや男性が優遇」が59.2%、「男性が優遇されている」が15.5%と合わせて74.7%を占め、「やや女性が優遇されている」「女性が優遇されている」は合わせて4.2%である。

前回調査との比較ではあまり変化はないが、「平等になっている」については、男性が今回20.5%で前回調査の24.5%より4.0%減少に対して、女性は今回14.9%前回調査12.0%で2.9%増加している。



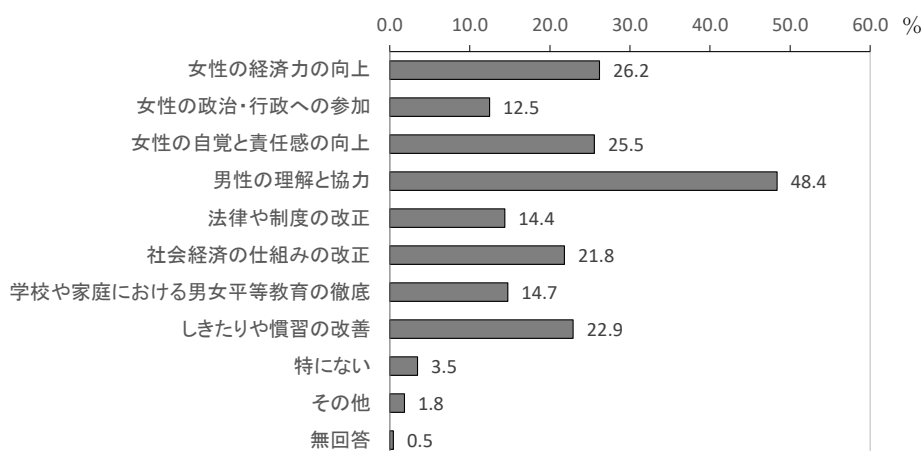
全体を通じて、男女の平等意識については、まだまだ「男性が優遇」されている状況にあり、「女性の優遇」されている意識は極めて低いといえる。

3-2 あらゆる分野での男女平等実現のための課題（問8：複数回答）

男女平等実現に向けた課題では、「男性の理解と協力」が48.4%と最も多い。他に「女性の経済力の向上」「女性の自覚と責任感の向上」「社会経済の仕組みの改正」「しきたりや習慣の改善」でそれぞれ2割を超えている。

前回調査との比較では、「男性の理解と協力」が前回調査50.6%から48.4%に、「女性の自覚と責任感の向上」が35.4%から25.5%に減少しているのに対して、「女性の経済力の向上」が18.4%から26.2%に、「社会経済の仕組みの改正」が15.3%から21.8%に増加している。

男性や女性固有の課題から経済力や社会経済の仕組み等社会的な課題に移行しつつあるといえる。



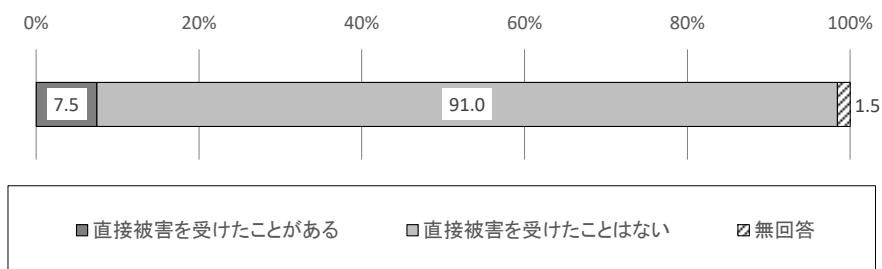
4 人権問題について

4-1 身近な身体的・精神的暴力（DV）の見聞（問9：単数回答）

配偶者や恋人からの身体的・精神的な暴力（DV）について、直接被害を受けることや、身近で見聞きしたことについて、〔自分自身〕は、91.0%が「受けたことがない」と答えているが、7.5%と1割近い市民が「直接被害を受けたことがある」と答えている。

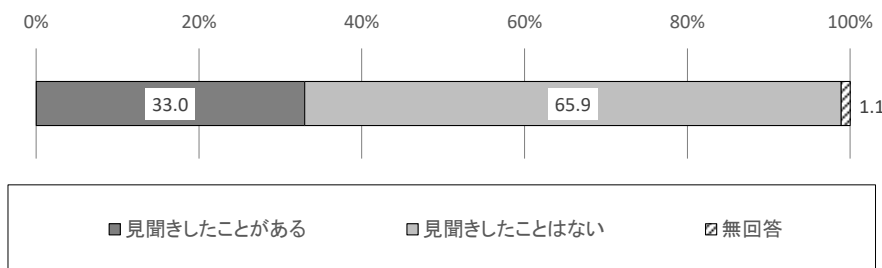
男女別で、女性の回答をみると、「直接被害を受けたことがある」が11.2%を示している（男性は2.9%）。女性の約1割は、龍ヶ崎市の女性の人口比でみると4,560人（平成30年1月1日）に該当し、その対策は今後の大きな課題である。

〔自分自身について〕



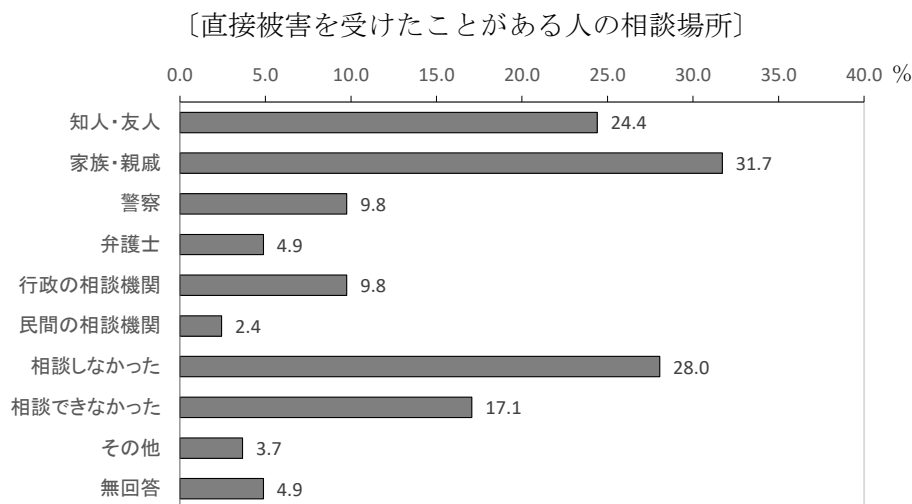
〔友人や知人など自分以外の人〕に対する見聞きは、33.0%が見聞したことがあると指摘しており、今後の対策が求められる。

〔友人や知人など自分以外の人の見聞〕

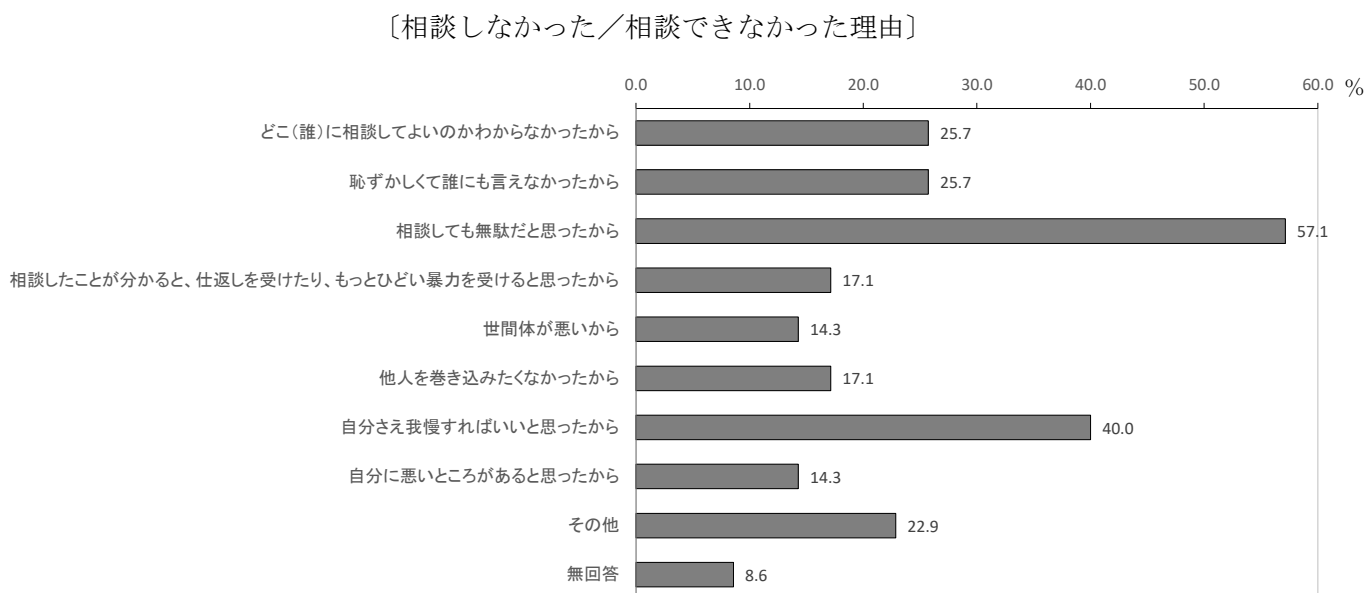


〔直接被害を受けたことがある〕を選んだ方の相談場所は、「家族・親戚」が3割を超えている。また、「知人・友人」は24.4%となっている。「警察」「行政の相談機関」は1割弱、「弁護士」は4.9%と低い。一方「相談しなかった」が28.0%、「相談できなかった」が17.1%となっている。

相談場所は、家族や親戚などの個人的な相談が多く、行政・警察・弁護士など社会的な組織への相談が少ないため、被害の実態が見えにくい要因となっている。



〔「相談しなかった」「相談できなかった」〕と答えた方の理由では、「相談しても無駄」が57.1%と6割近くを占めており、また、「自分さえ我慢すればいいと思ったから」が4割、「どこ（誰）に相談してよいかわからなかったから」「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が25.7%を示している。あきらめなどDV固有の表面化しにくい問題として課題になっている。

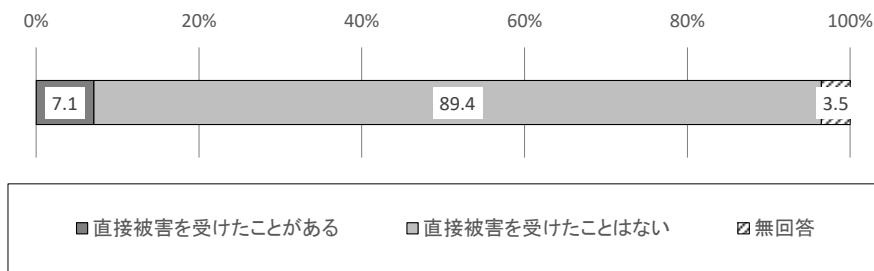


4-2 性的嫌がらせの見聞（問10：単数回答）

性的嫌がらせ（セクハラ）について【自分自身】では、9割近い市民が「直接被害を受けたことがない」と答えているが、1割近い7.1%（実数78人）が「受けたことがある」と答えている。

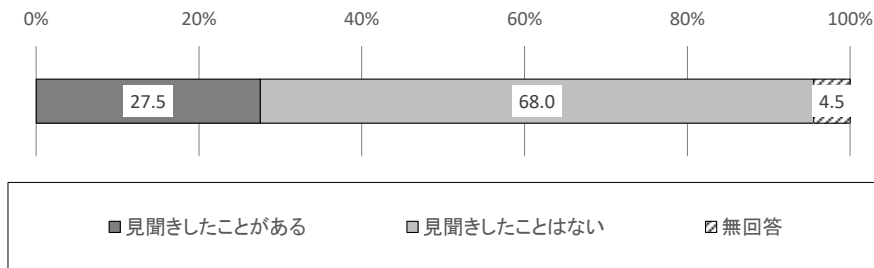
男女別で、女性の回答をみると、「直接受けたことがある」が11.7%である（男性は1.2%）。身体的・精神的暴力（DV）と同様に、約1割の回答があり、その対策も今後の大きな課題である。

〔自分自身による性的嫌がらせ（セクハラ）〕

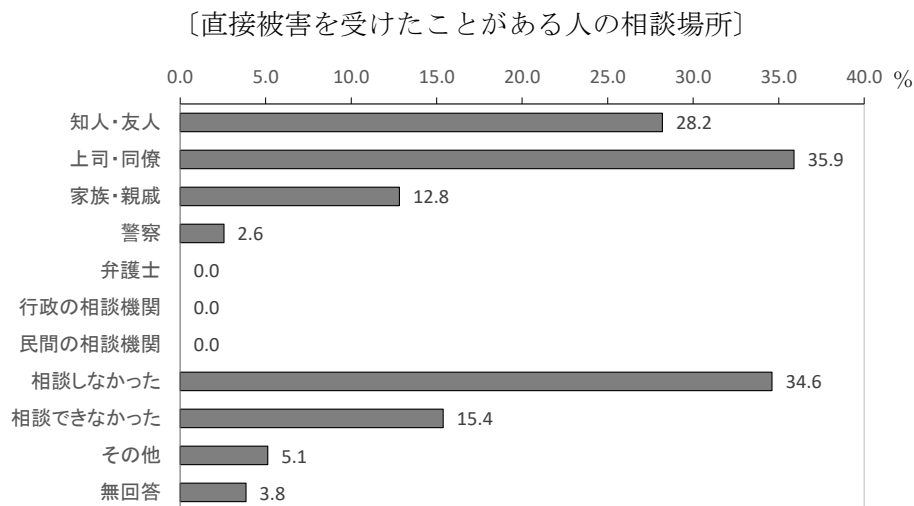


〔友人や知人など自分以外の人〕については、3割近い27.5%が「見聞きしたことがある」と答えている。

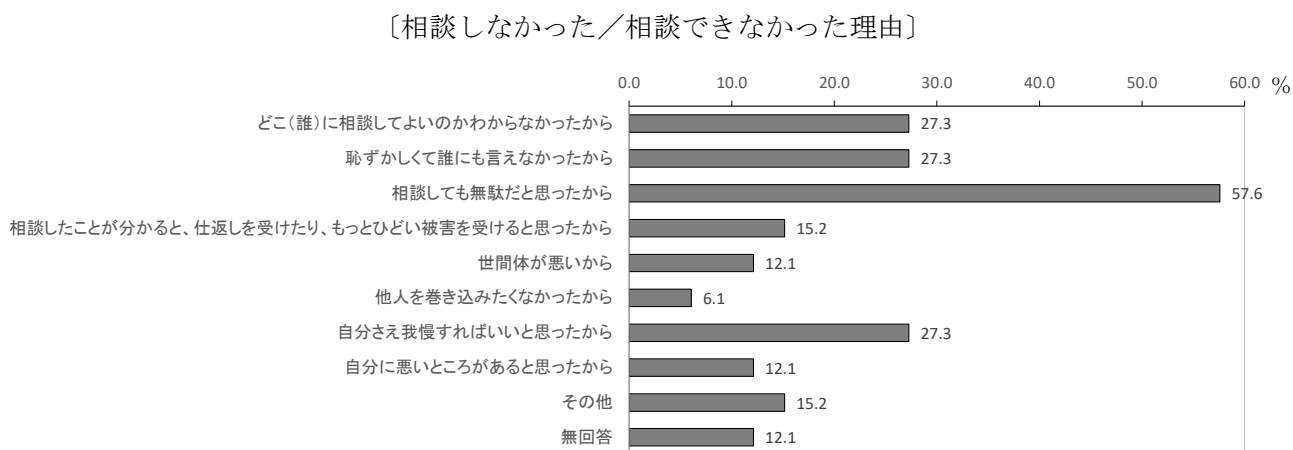
〔友人や知人など自分以外の人の見聞〕



〔直接被害を受けたことがある〕を選んだ人の相談場所については、「上司・同僚」が35.9%であり、「知人・友人」が28.2%である。また、「相談しなかった」が34.6%を示し、「相談できなかった」についても15.4%となっている。また、「弁護士」「行政の相談機関」「民間の相談機関」は0.0%であり、表面化しにくい要因となっている。



〔相談しなかった・相談できなかった〕と答えた理由は、「相談しても無駄だと思ったから」が6割近くを占め、「どこ（誰）に相談して良いのかわからなかったから」「恥ずかしくて誰にも相談できなかったから」「自分さえ我慢すればいいと思ったから」がそれぞれ27.3%を示しており、個人的に対処している（せざるを得ない）傾向がうかがえる。

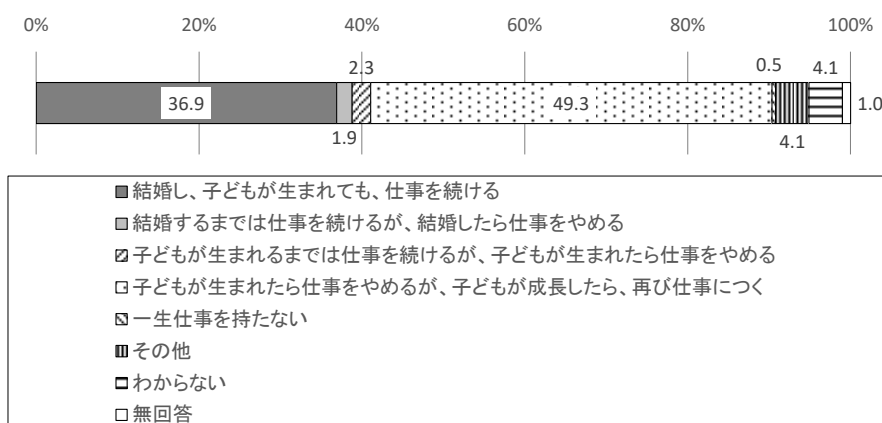


5 就労について

5-1 女性の就労形態（問11：単数回答）

理想的な女性の就労形態としては、「子どもが生まれてから仕事をやめるが、子どもが成長したら再び仕事につく」が49.3%と半数である。また、「結婚し、子どもが生まれても仕事を続ける」が36.9%となっている。「結婚するまでは仕事を続けるが、結婚したら仕事をやめる（1.9%）」や「子どもが生まれるまでは仕事を続けるが、子どもが生まれてから仕事をやめる（2.3%）」と、いずれ結婚や子どもが生まれてから仕事をやめると答えているのは、合わせて4.2%に過ぎない。

最も多い「子どもが生まれてから仕事をやめるが、子どもが成長したら再び仕事につく」については、再就労の環境を整備することも必要となる。



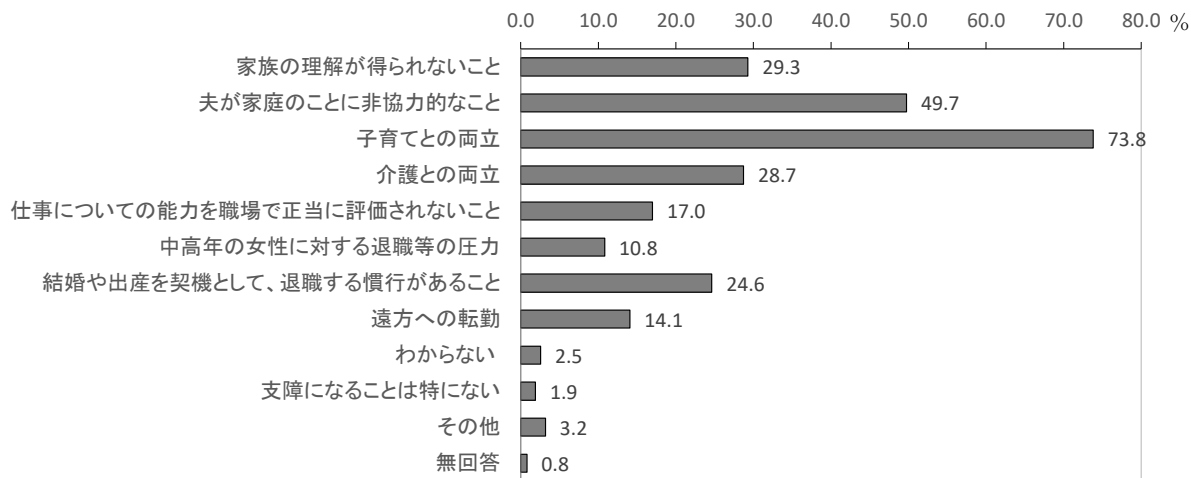
男女別にみると、男性では「子どもが生まれるまでは仕事を続けるが、子どもが生まれてから仕事をやめる」「子どもが生まれてから仕事をやめるが、子どもが成長したら再び仕事につく」が女性を上回っており、「結婚し子どもが生まれても仕事を続ける」「結婚するまでは仕事を続けるが、結婚をしたら仕事をやめる」は女性が上回っている。

年齢別にみると「子どもが生まれても仕事を続ける」では50歳代が43.0%と最も多い。「子どもが生まれてから仕事をやめるが、子どもが成長したら再び仕事につく」では70歳以上が多いが、30歳代も50.9%と半数を超えている。

職業別にみると、「結婚し子どもが生まれても仕事を続ける」では、事務職が51.2%と高く、「子どもが生まれてから仕事をやめるが、子どもが成長したら再び仕事につく」では「労務・サービス業」「主婦（パート・内職）」「専業主婦・専業主夫」がそれぞれ5割を超えている。

5-2 女性の就労継続に対する課題（問12：複数回答）

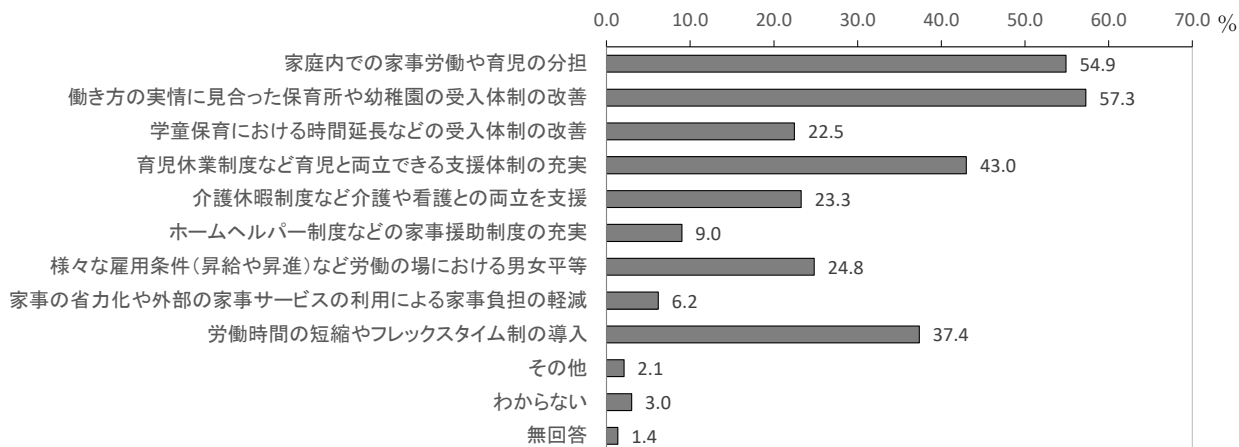
女性の就労継続に支障を及ぼすものとしては「子育ての両立」が73.8%を占めている。また、「夫が家庭に非協力的なこと」が半数に近い。「家族の理解」「介護との両立」が3割弱となっている。



5-3 男女共に働きやすい就労環境の整備（問13：複数回答）

男女共に働きやすい環境を作るための課題として「働き方の実情に見合った保育所や幼稚園の受入体制の改善（57.3%）」「家庭内での家事労働や育児の分担（54.9%）」が半数を超えている。

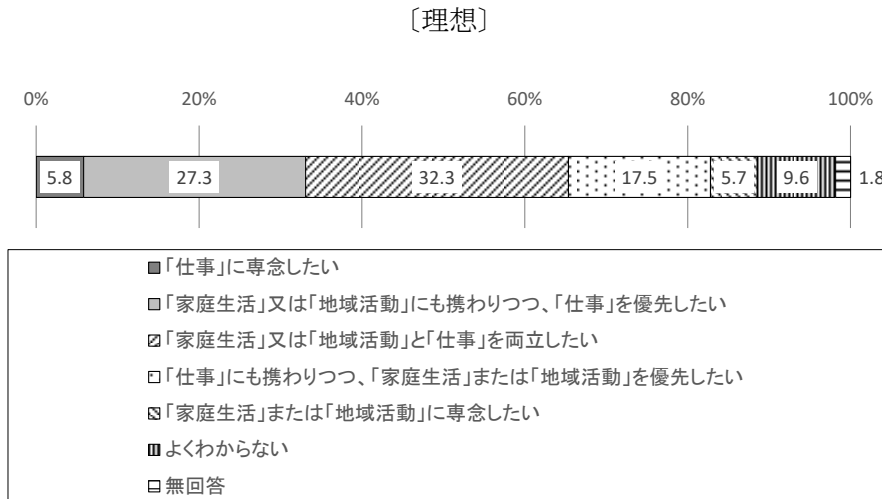
また、「育児休業制度など育児と両立できる支援体制の充実」が43.0%、「労働時間の短縮やフレックスタイム制の導入」が37.4%を占め、企業の制度面での支援体制づくりが求められている。



6 ワーク・ライフ・バランスについて

6-1 ワーク・ライフ・バランスの理想と実際（問 14:単数回答）

〔理想〕としての「ワーク・ライフ・バランス」の捉え方は、「家庭生活または地域活動と仕事を両立したい」が最も多く 32.3%となっており、「仕事に専念したい」「家庭生活または地域活動にも携わりつつ、仕事を優先したい」は、合わせると 33.1%と「家庭生活または地域活動と両立したい」を上回っている。また、「仕事にも携わりつつ、家庭生活または地域活動を優先したい」「家庭生活または地域活動に専念したい」を合わせると 23.2%となっている。

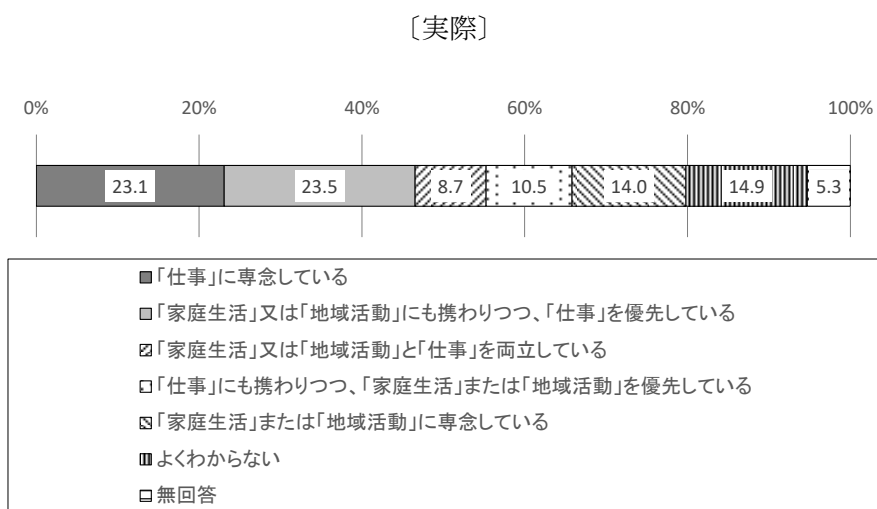


男女別にみると「仕事に専念したい」「家庭生活または地域活動にも携わりつつ、仕事を優先したい」を『仕事に専念・優先』、「仕事にも携わりつつ、家庭生活または地域活動を優先したい」「家庭生活または地域活動に専念したい」を『家庭生活・地域活動に専念・優先』と分類すると、前者の『仕事に専念・優先』では男性が、後者の『家庭生活・地域活動に専念・優先』では、女性が上回っている。「両立」については、男性が 30.4%、女性が 33.8%と男性を上回っている。

年齢別にみると、「仕事に専念したい」は 20 歳未満、20 歳代に多くそれぞれ 1 割となっている。「仕事を優先」では 50 歳代、70 歳以上が 3 割前後、「家庭生活または地域活動と仕事を両立したい」については、20 歳未満が 45.0%、40 歳代が 40.1%、50 歳代が 38.9%となっている。

職業別にみると、「家庭生活または地域活動にも携わりつつ、仕事を優先したい」では「自営業・家族従業」で 4 割を超え、「経営・管理職」「労務・サービス業」で 3 割を超えている。「家庭生活または地域活動と仕事を両立したい」では「事務職」「専門・技術職」が 4 割を超えている。

〔実際〕としては、「仕事に専念している」が23.1%、「家庭生活又は地域活動にも携わりつつ、仕事を優先している」が23.5%で合わせて46.6%と半数近くを占める。一方で、「家庭生活または地域活動と仕事を両立している」が8.7%と低く、理想と比較すると大きく割合を下げている。



男女別にみると「仕事に専念している」「家庭生活又は地域活動にも携わりつつ、仕事を優先している」は男性が多く、「仕事にも携わりつつ、家庭生活または地域活動を優先している」「家庭生活または地域活動に専念している」では女性が上回っている。「家庭生活または地域活動と仕事を両立している」については、男性が8.3%、女性が9.0%と女性が若干上回っているが、全体と比べて低い状況にある。

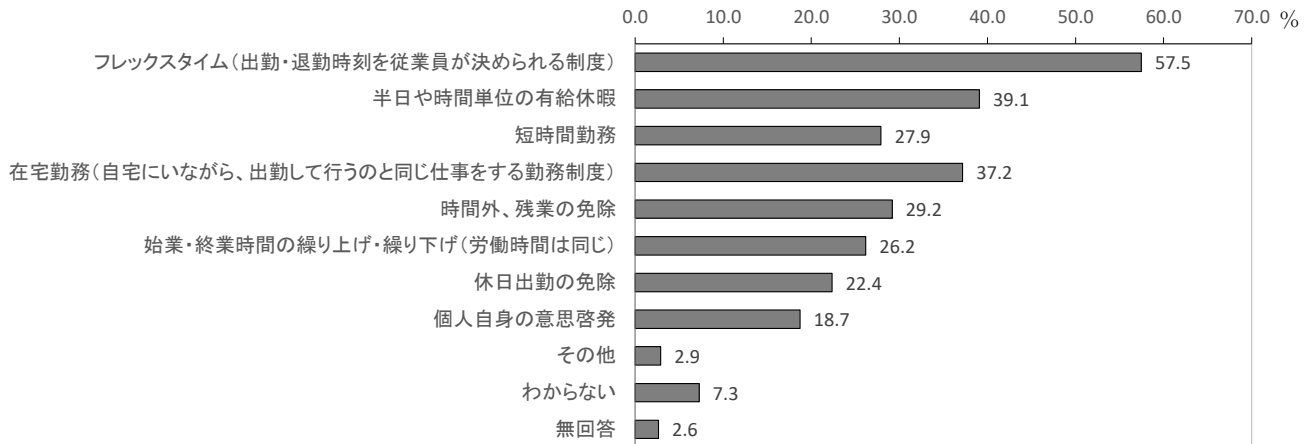
年齢別にみると、「仕事に専念している」では20歳代が42.7%と高く、「家庭生活又は地域活動にも携わりつつ、仕事を優先している」では20歳未満と50歳代が3割、「家庭生活または地域活動と仕事を両立している」では30歳代、40歳代、50歳代で約1割、「仕事にも携わりつつ、家庭生活または地域活動を優先している」では30歳代、40歳代が2割前後、「家庭生活または地域活動に専念している」では60歳代、70歳以上で2割を超えている。

職業別にみると、「仕事に専念している」では「労務・サービス業(43.2%)」、そして「家庭生活または地域活動にも携わりつつ、仕事を優先している」では「経営・管理職(41.4%)」「専門・技術職(43.2%)」が4割を超えている。「仕事にも携わりつつ、家庭生活または地域活動を優先している」では「主婦(パート・内職)」39.4%と4割に近く、「家庭生活または地域活動に専念している」では「専業主婦・専業主夫」が52.2%と半数を超えている。

6-2 ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた課題（問15：複数回答）

「ワーク・ライフ・バランス」の実現に向けた課題では、「フレックスタイム（出勤・退勤時刻を従業員が決められる制度）」の導入が約6割を占めており、「半日や時間単位の有給休暇」と「在宅勤務（自宅にいながら、出勤して行うのと同じ仕事をする勤務制度）」が4割弱、「時間外・残業の免除」「短時間勤務」が3割弱を示している。

様々な就労形態が求められている中で、『働き方』については今後の課題となっている。

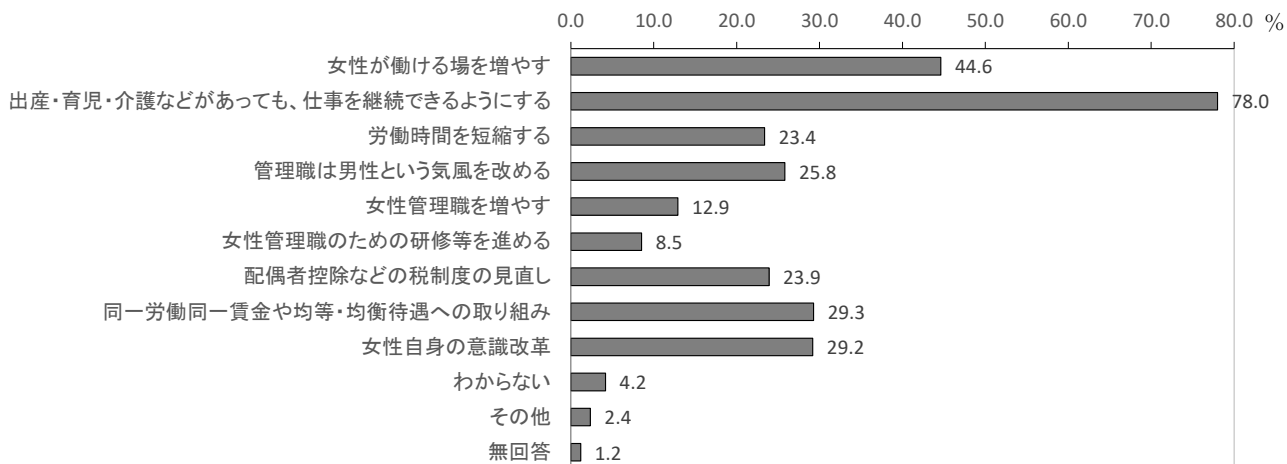


7 女性の活躍推進について

7-1 女性の職業生活の活躍に向けた課題（問16：複数回答）

女性が職業生活で活躍していくための課題としては、「出産・育児・介護があっても仕事を継続できるようにする」が、78.0%と8割弱を占めている。また、「女性が働ける場を増やす」が44.6%となっている。「同一労働同一賃金や均等・均衡待遇への取り組み」「女性自身の意識改革」が共に3割弱となっている。

出産・育児・介護という女性固有の課題への対応が求められている。



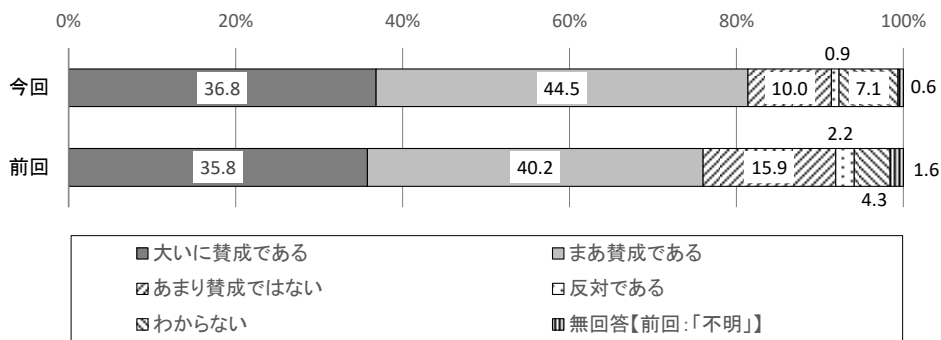
8 育児休暇と育児について

8-1 男性の育児休暇（問17：単数回答）

男性が育児休暇を取得することについては、「大いに賛成である」が36.8%、「まあ賛成である」が44.5%と賛同する意見が8割を占めており、一方、「あまり賛成ではない」が1割となっている。

全体としては、男性の育児休暇については賛同する市民の意向が高い傾向である。

前回調査との比較では、「大いに賛成である」が前回調査35.8%から今回36.8%に、「まあ賛成である」が前回調査40.2%から44.5%に増加しており、前回調査と比べて、賛成が増加し、反対が減少している。



男女別にみると全体の傾向は変わっていないが、「大いに賛成である」では女性が、「まあ賛成である」では男性が若干上回っている。また、「あまり賛成ではない」では男性が9.7%、女性が10.0%と若干ではあるが、女性が上回っている。

年齢別にみると、「大いに賛成である」では、20歳未満が55.0%、20歳代、30歳代、40歳代で4割を超えており、「まあ賛成である」では50歳代で52.8%、40歳代、60歳代、70歳以上で4割を超えている。

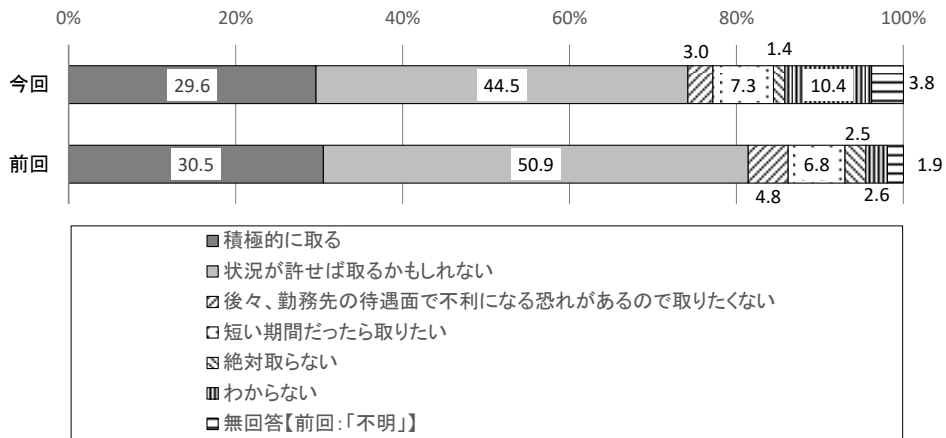
職業別にみると「あまり賛成ではない」では、「自営業・家族従業」が17.8%と全体と比較して高くなっている。

8-2 育児休暇の取得（問18：単数回答）

育児休暇の取得については、「状況が許せば取るかもしれない」が最も多く44.5%となっており、「積極的に取る」は29.6%と3割弱となっている。「後々、勤務先の待遇面で不利になる恐れがあるので取りたくない」と「絶対取らない」を合わせて4.4%と低くなっている。

育児休暇の取得については、まだまだ受け身的な状況がうかがえる。

前回調査と比較して、「積極的に取る」が前回調査30.5%から今回29.6%に、「状況が許せば取るかもしれない」が前回調査50.9%から今回44.5%に減少している。「絶対取らない」は前回調査2.5%から今回7.3%と増加している。



男女別にみると、「積極的に取る」については、男性の18.4%に対して、女性が38.8%と倍以上の比率となっている。「状況が許せば取るかもしれない」については、男性の52.9%に対して、女性は38.1%となっており、育児休暇の取得については女性が積極的であるといえる。一方で、制度や環境が整備されることで取得の促進につながると推察される。

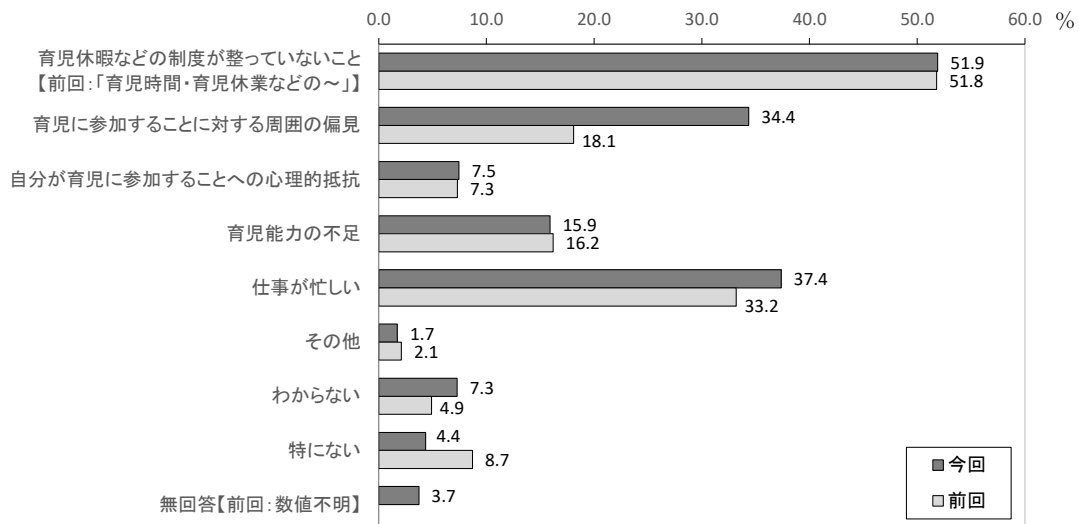
年齢別にみると、育児休暇を「積極的に取る」では、「20～29歳」が46.1%と最も高くなっている。「状況が許せば取るかもしれない」では、「20歳未満」「50～59歳」がそれぞれ約5割となっている。

職業別にみると、育児休暇を「積極的に取る」では、「専門・技術職」「主婦(パート・内職)」「専業主婦・専業主夫」はそれぞれ3割以上であり、「経営・管理職」は約20%と特に低くなっている。しかし、「状況が許せば取るかもしれない」では、「経営・管理職」「事務職」「労務サービス業」「学生」はそれぞれ半数以上を占めて、他の職業はそれぞれ4割を示している。

8-3 育児の実施に関する課題（問19：複数回答）

育児に関わろうとするとき、支障となる課題は、「育児休暇などの制度が整っていないこと」が51.9%と半数を超えている。また、「仕事が忙しい」「育児に参加することに対する周囲の偏見」が3割を超えている。育児参加に対しては、社会的な環境整備が必要である。

前回調査との比較では、「育児に参加することに対する偏見」が前回調査18.1%から今回34.4%と増加している。同様に「仕事が忙しい」が前回調査33.2%から今回37.4%とわずかながら増加している。



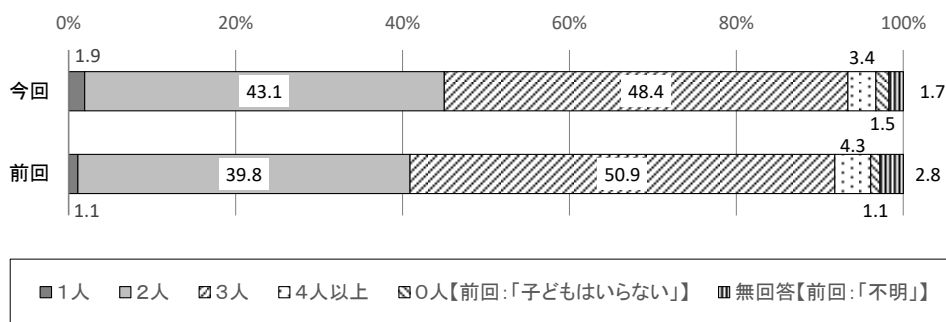
9 少子化問題について

9-1 理想とする子どもの人数（問 20：単数回答）

理想とする子どもの人数は、「2人」が43.1%、「3人」が48.4%で合わせて、9割を超える。

龍ヶ崎市の合計特殊出生率は、平成25（2013）年で1.29であり、推移をみると、1.3前後で増減を繰り返している（平成27年龍ヶ崎市人口ビジョンより）ことから考えれば、意向（理想）としては少子化の歯止めになる可能性がある。

前回調査との比較では、「3人」が前回調査50.9%から今回48.4%と減少し、「2人」が前回調査39.8%から43.1%と増加しており、「3人」から「2人」への移行がみられる。また、男女別を前回調査と比較すると、男性で「3人」の答えが6.4%減少し、女性では「3人」の答えが0.7%とわずかではあるが、増加している。「2人」については男女共に増加している。



男女別にみると、理想とする子どもの人数では「1人」「2人」で男性が、「3人」「4人以上」で女性が若干上回っている。「0人」では男女の差はない。

年齢別にみると、「2人」では、「20歳未満」が75.0%、「20歳代」が65.2%を示し、「3人」では、「60歳代」が55.7%、「70歳以上」が57.5%を示している

職業別にみると、「2人」では、「学生」が72.2%と高く、「3人」では、「主婦（パート・内職）」「専業主婦・専業主夫」が5割を超えている。

9-2 実際の子どもの人数（問 21：単数回答）

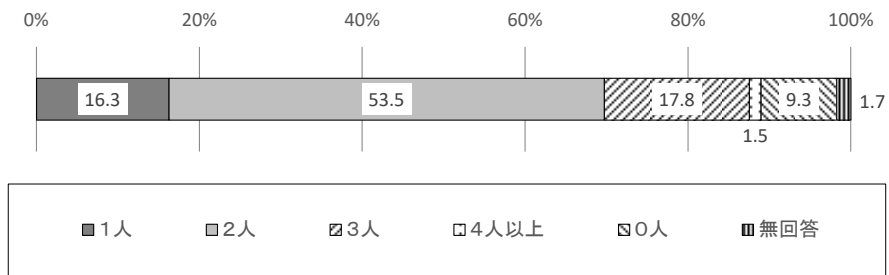
実際の子どもの人数では、「2人」が5割を超え、「1人」が16.3%、「3人」が17.8%を示している。また、前問の「理想」と比べて、「1人」「2人」の比率が増え、「3人」が減少している。さらに、比率は少ないが、「0人」が「理想」では1.9%が「実際」では、9.3%と増えている。

実際の子どもの人数が、理想とする人数よりも少なく少子化の傾向を示している。

男女別にみると、全体と比べて、「1人」について男性が上回り、「2人」「3人」「4人以上」で女性が上回っている。

年齢別にみると、全体と比べて、「1人」について「20歳未満」「20～29歳」「30～39歳」が上回り、「2人」では、「20歳未満」「60～69歳」「70歳以上」が上回っている。「3人」では、50歳以上が全体より上回っている。

実際の子どもの数では、全体的には、「2人」が多く占めているが、40歳以上の年齢層に「2人」が多く、20歳未満～39歳までの年齢層に「1人」が多いことから、少子化の傾向にあるといえよう。

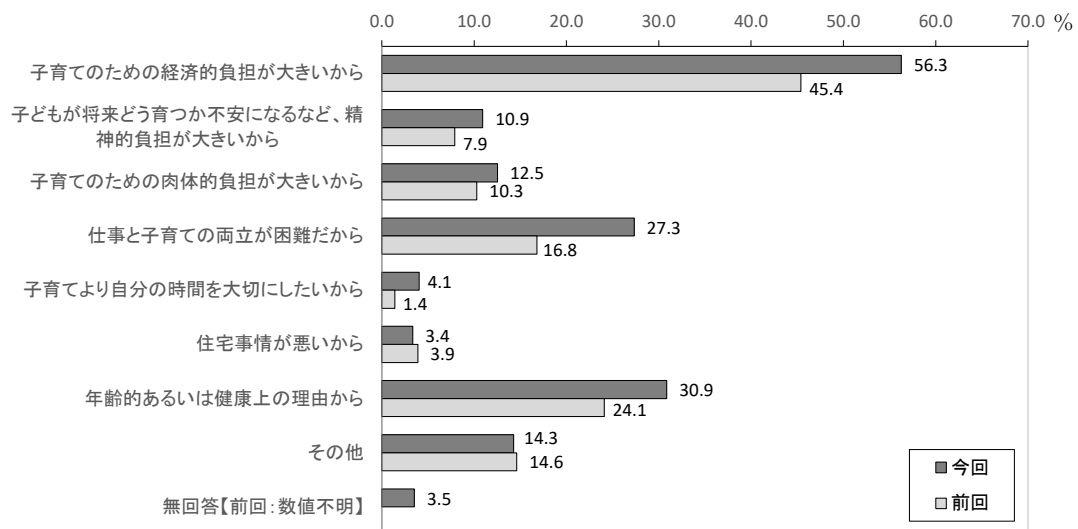


9-3 子どもの数が理想より実際の方が少ない理由（問 22:複数回答）

子どもが少ない理由は、「子育てのための経済的負担が大きいから」が56.3%を示している。また「仕事と子育ての両立が困難」「年齢的あるいは健康上の理由」が全体の約3割を示している。

少子化の課題は、家庭や家族などの内部的要因と経済などの外部的要因がある。

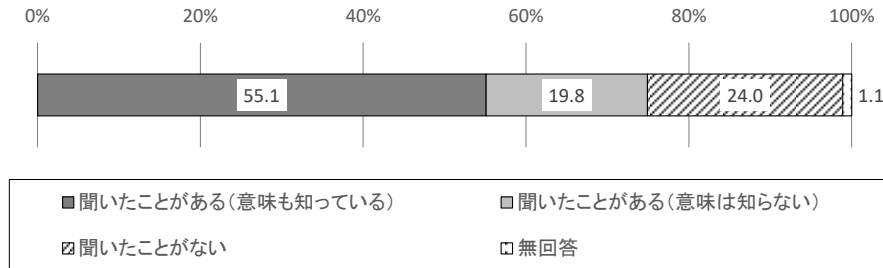
前回調査との比較では、「子育てのための経済的負担が大きいから」が前回調査45.4%から今回56.3%と増加している。同様に「年齢的あるいは健康上の理由から」は24.1%から30.9%に、「仕事と子育ての両立が困難だから」が前回調査16.8%から今回27.3%に増加している。



10 性的マイノリティについて

10-1 性的マイノリティなどの用語の認識（問 23：単数回答）

用語の理解については、半数以上の 55.1%の市民が理解している。一方、「聞いたことがない」が 24.0%で全体の約 1 / 4 を占めている。今後の啓発が必要である。

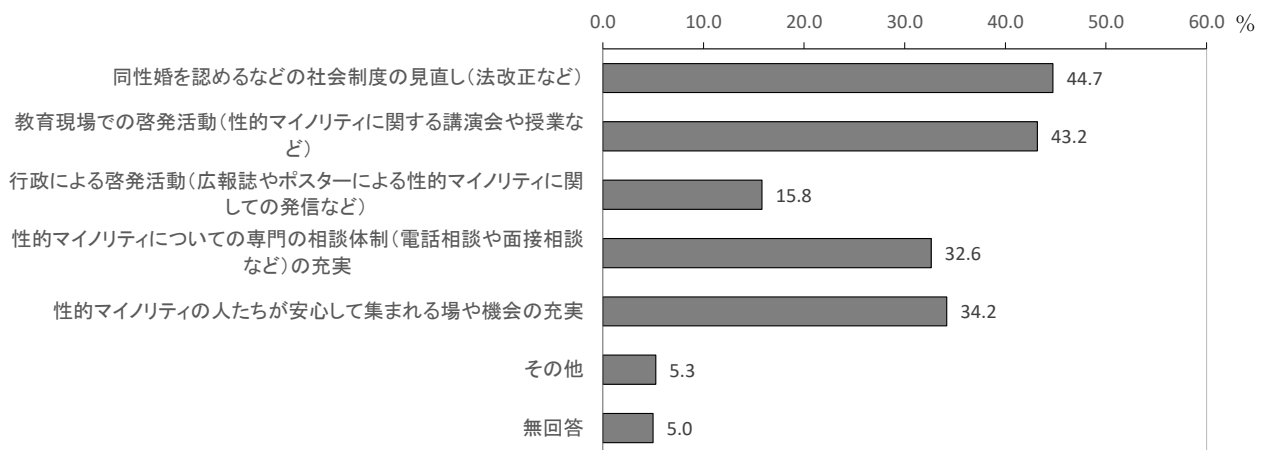


男女別にみると、全体のあまり違いは見られないが、「聞いたことがない」について、男性が 22.5% に対して、女性が 25.5%と若干ではあるが上回っている。

10-2 「性的マイノリティ」の人たちが暮らしやすい社会への取組（問 24:複数回答）

暮らしやすい社会への取組としては、「同性婚を認めるなどの社会制度の見直し（法改正など）」「教育現場での啓発活動（性的マイノリティに関する講演会や授業など）」が共に 4 割を超えている。また、「専門の相談体制」や「安心して集まれる場や機会の充実」が 3 割を超えている。

今後の取組みとして、制度改善や啓発、相談体制の充実など社会的な対応が求められている。



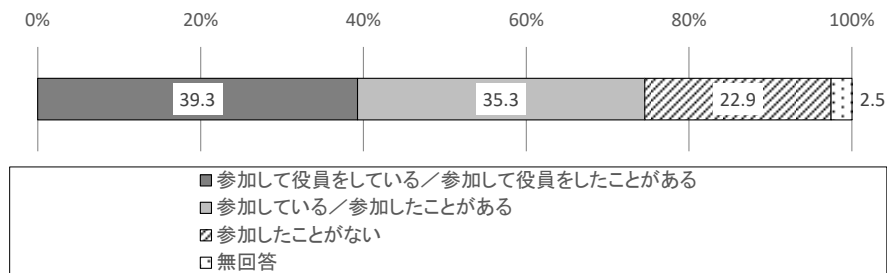
11 地域活動について

11-1 地域活動の参加状況（問 25：単数回答）

地域活動への参加状況では、〔自治会・町内会〕などでは、「参加して役員をしている／参加して役員をしたことがある」が約4割を示している。また、「参加している／参加したことがある」が35.3%で、「参加して役員をしている／参加して役員をしたことがある」と合わせて7割を超えている。

男女別にみると、「参加して役員をしている／参加して役員をしたことがある」では男性が、「参加している／したことがある」では女性が若干上回っている。

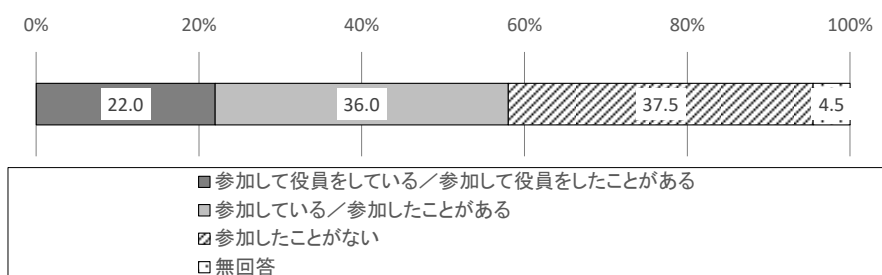
年齢別にみると、「参加して役員をしている／参加して役員をしたことがある」では、50歳代と60歳代がそれぞれ50%を超えている。



〔子ども会など子ども関連の活動〕については、「参加したことがない」が37.5%と「自治会・町内会」と比較すると高くなっている。

男女別にみると、「参加して役員をしている／参加して役員をしたことがある」が男性の10.3%に対して、女性は30.9%と大きく上回っている。一方「参加したことがない」では男性が47.1%となっている。

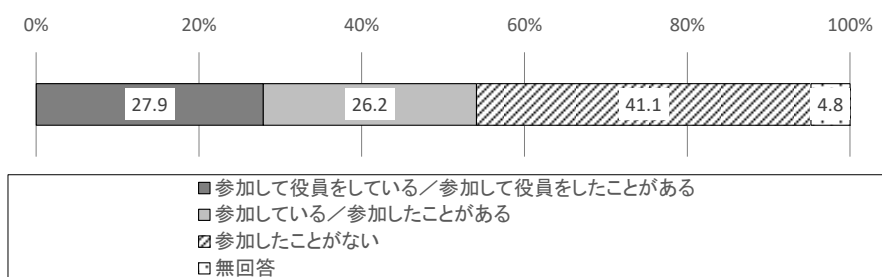
年齢別にみると、「参加して役員をしている／参加して役員をしたことがある」で50歳代が37.8%と多く、「参加している／参加したことがある」では、20歳代が42.7%と多い。



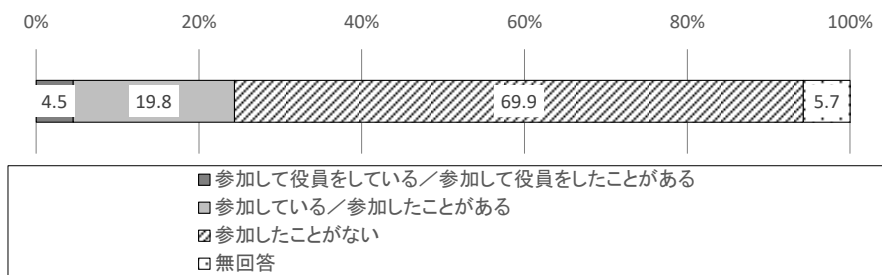
〔PTAや保護者会などの活動〕についても、「子ども会など子どもの関連の活動」と同様に「参加したことがない」が高く、4割を超えている。

男女別にみると、「子ども会など子どもの関連の活動」と同様に「参加して役員をしている／参加して役員をしたことがある」で女性が40.7%であるのに対して男性は11.6%となっている。また、「参加したことがない」では男性が57.2%と半数を超えている。

年齢別にみると、「参加して役員をしている／参加して役員をしたことがある」では40歳代と50歳代が4割を超えている。

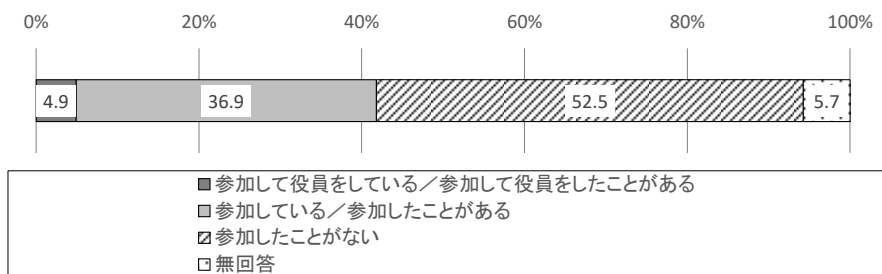


〔福祉に関する活動〕では、「参加したことがない」が69.9%と約7割を占めている。

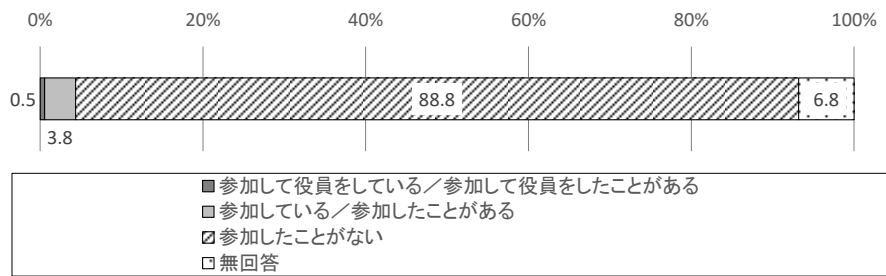


〔環境に関する活動〕では、「参加している／参加したことがある」が36.9%と比較的高い割合となっているが、「参加したことがない」の52.5%と比較すると低くなっている。

年齢別にみると、60歳代では「参加している／参加したことがある」が40.4%と答えている。

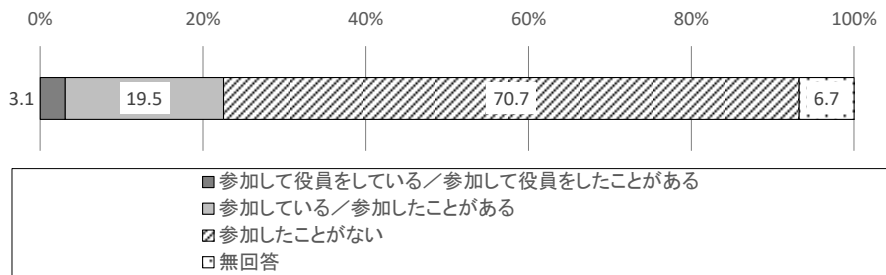


〔男女共同参画に関する活動〕では、「参加したことがない」が88.8%と約9割と高い割合になっている。男女共同参画に関する活動への参加は、今後の課題と言える。



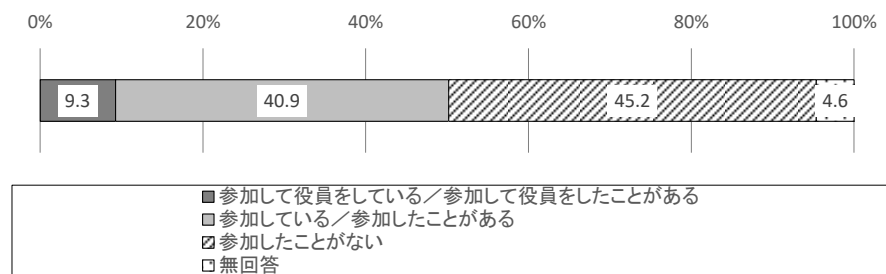
〔まちづくりなどの活動〕については、「参加している／参加したことがある」の約2割に対して、「参加したことがない」が7割と高い割合を占めている。

男女別にみると「参加している／参加したことがある」で、男性の24.4%に対して、女性が15.6%と低い。



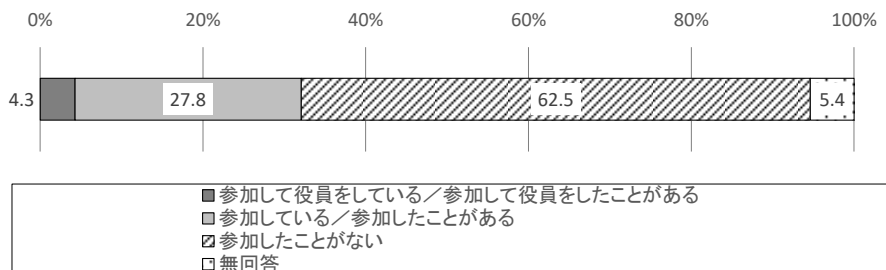
〔趣味やスポーツ、学習などの活動〕では、「参加している／参加したことがある」と「参加したことがない」が共に4割を超えている。また、「参加して役員をしている／参加して役員をしたことがある」が約1割となっている。

男女別にみると、「参加して役員をしている／参加したことがある」「参加している／参加したことがある」が共に女性が多く、「参加したことがない」は男性が多い。



〔行政主催の教室や講座など〕は、約6割が「参加したことがない」としているが、「参加して役員をしている／参加して役員をしたことがある」が4.3%、「参加している／参加したことがある」が27.8%と合わせて、約3割が関わりを持っている。

男女別にみると、「参加している／参加したことがある」では女性が34.2%に対して、男性は19.8%である。「参加したことがない」では、女性が55.5%に対して男性が71.7%である。

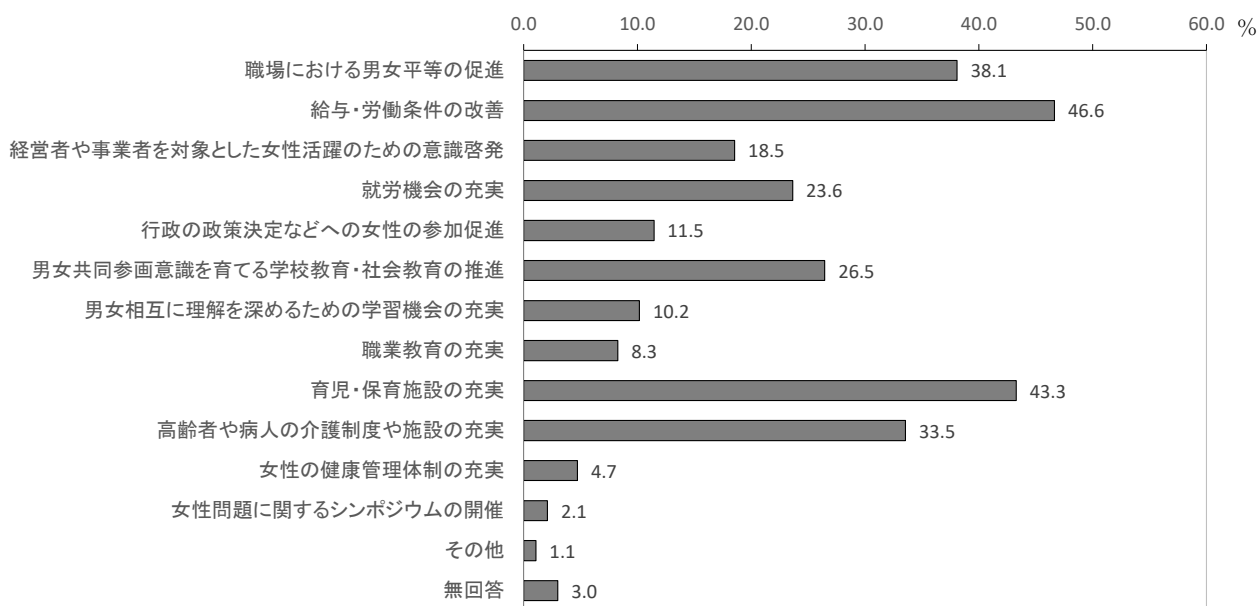


12 男女共同参画社会の実現のための施策について

12-1 行政施策への要望（問26：複数回答）

今後の男女共同参画社会の実現に向けての行政施策への要望については、「給与・労働条件の改善」が46.6%、「育児・保育施設の充実」が43.3%と4割を超えている。また、「職場における男女平等の促進」が38.1%、「高齢者や病人の介護制度や施設の充実」が33.5%と3割を超えている。

男女共同参画社会の実現に向けて、行政の果たす役割は大きいですが、「給与・労働条件の改善」「就労機会の充実」など企業の関わりも重要である。



13. 自由回答

(原文のまま)

1. 就労条件や職場の理解に関すること	20歳未満	女性	-	子どもを産んだ後仕事に復帰したいと思っても不安を抱き戻れない人が多くいると考えます。女性の場合産後うつ病になる人が多く精神的にもとても不安定な時期でもあるので、そういった不安を抱えた人のために子どもを産んで仕事に復帰した人や同じ悩みを抱えた人達が集まれる場を市が計画してはどうでしょうか。	
	20歳代	男性	共働き	女性も男性もそれぞれの有利なものを活かして、同じ位の給料を稼げるようになるべき全く同じ仕事をさせるのではなく、女性にしか出来ない男性にしか出来ない事をきちんと企業が理解し、仕事を分担させることが大事だと思う。	
		女性	夫のみ就業	子供が小さい時や子守りをしてくれる人がいない家庭では、パートをしていても熱を出して早退や欠勤時に風当たりがまだまだ多く、理解が難しいと思う。	
	30歳代	男性	共働き	-	働く場所がありません。よくわかりません。
				-	一緒に職場に入ってるのに男は正社員なのに女は社員のまま。平等じゃない。
		女性	共働き	-	男女共同参画社会について、今の現状として女性が出産、子育てをしてからの社会復帰がとても困難で、龍ヶ崎市の待機児童問題もその1つに上げられると思います。一時保育も色々条件もあり、万全に預けられるわけでもない。牛久市などは、復帰が決まってる女性に対し、保育園の予約が出来る制度もあり、とてもいいと思う。また、保育園が、確保できず、会社にも育児休暇前と同じ条件で戻る事が出来ず、どうにもならないのが実際にあり、女性の方が出産、子育てに対するリスクがまだまだあると思う。龍ヶ崎市では、他の市でも取り入れをしている復帰のお母さんが保育園を予約でき、安心して育休が出来るようにしてほしい。また、保母さんが減少していて、0、1歳児の受入が困難であるなら、保母さんの賃金を上げるべきだと思う。男女共同参画社会の取り組みについて、課題だらけだと思う。
				-	主婦は夫の扶養から出て仕事をしたいので、保険料が高く、家事子育てもあるため扶養を出ても手取りの収入を上げるにはパートだととても働かなければならない。年収130万以内の壁を150~160万程にあげて貰えたら、扶養内で十分に働けて助かります。働きたいのに扶養から出るため働けないことが困っています。小さい子供がいて働く時間が限られていても職場も人が足りず、働く130万以上になってしまいます。ひかれる金額が多く悪循環な状況です。
				-	男女が共同かつ平等で生活するためには、共働き世帯へのサポートが必要だと思われる。女性がフルタイムで働くには、申し訳ないが働きにくい環境である。フルタイムで働いていると子供の習い事に行かせる時間が作れず、子供の事を考えると仕事を続けるべきか考えてしまう。例えば、各学校のルームから習い事の場所へ送迎してくれるバスを走らせるなど。(人気の習い事への送迎や、少年団など)有料でもいいと思います。行きはバス、帰りは自分達でなど。あとは月一回でもいいので、市役所の受付等の処理を土日に行うなど。牛久で行ってるやつ。書類の受付等の業務。仕事が忙しいと、半日休みを取るのも大変ですし、子育てとの両立ともなると、残業も出来ないのも、半日休みとるのも難しい時があります。是非、考えてください。
				-	母子家庭なので市から手当を受けています。とても助かり、感謝しています。女性も男性と同じくらい稼げるような体制があればいいなと思います。パートだと子育てのためどうしても勤務時間が短くなり手取りも少ないです。もっと稼ぎたいな一と思っています。
				-	数合わせで能力のない女性も役職にするとかはやめる。男女同数でなく、きちんと個人の能力で活躍できるようにすべき。育児もできるように労働の負担を軽減できるよう、業務を減らす。
-					

1. 就労条件 や職場の理 解に関するこ と	40歳代	男性	-	男女お互いに能力を補える職場環境が増えると良いと思う。	
		女性	共働き	大企業や国家公務員であれば女性の優遇等があるが、中小企業ではほとんどありえない。中小企業でも大企業と同じ制度が行われる様にしてもらいたい。そうする事で金銭的、子育ての面でも制度が改善されれば子供を産もうと思うし、仕事を退職しないで続けられるのでは？以前学童保育の預かり時間を19時までにしてほしいという意見を通してもらえなかったが、一人でも要望があれば、それにこたえる体制を考えるべきと思う。利用者が少ないからとか言ってるようでは行政に希望も持てない。龍ヶ崎に住む意味あるか？と思う。だから子供をこれ以上は無理と思う。ちなみに牛久は19時まで預かってくれる。遠方に仕事に行っているのだから18時30分ありえない。皆、地元で働いている人だけでない。地元中心で考えないでほしい。だから田舎は嫌だ。かなり遅れている。考え方が古い。医療費も子供は無料という所が多いなか、マル福600円取のもどうなのか。 行政だけ計画しても、民間企業にもやってもらわないと、何も変わらないと思う。市長が育児休暇を取ってた事があったけど。うちは取れないから、むかついただけだった。	
			夫のみ 就業	男女雇用均等法の廃止。身体的能力(体力、体格差)が男女で違うので、男性と同様の仕事内容を求められる。家庭の都合で同等に働けない女性は大勢いる。社会や家庭が男女共同参画社会になっていないのだから、現状女性が仕事と家庭を両立することはほとんど無理である。正社員としての身分を保ちつつ本人のライフスタイルにあった就業形態が選択できるような法整備を望みます。 男女平等という社会を考えるとまだまだ沢山の問題があると思います。学校行事や地域の活動など強制的にやらざるを得ないものがたくさんあり、仕事を持っているとその度に出席、休みをとらなければいけなくなり、フルタイムの仕事をしたくても先伸ばしになってしまう現状があります。知人はもう何十年も同じ職場で仕事をしていましたが、男女平等で転勤があり、子供のこともあり、結局会社を辞めざるをえなくなってしまいました。やはり女性が男性と同じかという点では女性は仕事の事ではあきらめなくてはいけない事は多々ある様な気がします。男性が育休を取るのとはすばらしい事だと思いますが女性が男性と同じ仕事をするとと言われるとどうしようもない事がたくさんあると思います。	
			-	女性の給料が多くないという活動出来ない。そして男性の意識も足りないと思う。仕事を週4日にし、休日を増やし他の活動をする事で社員数を増やせば良いと思う。	
		50歳代	男性	共働き	①龍ヶ崎市内で働く場所の確保。②生産人口の増加。以上なくして男女共同参画はない。 契約社員の「5年雇用」を「無期雇用」へ、全ての会社や事業所で実行して欲しい。子育てが終わり、再び労働に就くことの難しさに加え、有期雇用という制度が、安心して働く場を得るのを疎外しているように思えます。今の若い世代は「お互いの協力の元で、結婚後も働くという」意志も固まり、会社も制度を整えつつあるが、一度何らかの理由で職を離れると、ぶつかる問題です。若い世代が安心して子供を育てるために、制度を考えて欲しい。
			女性	共働き	共働きしながら、育児、介護を行うには、有給休暇の取りやすさが重要になってくると思います。以前より有給休暇が取りやすくなったとはいえ、職種においてはなかなか取りづらい現状があります。有給休暇が取りやすく、半日や時間単位でも取れる職場が増える事を望んでいます。 出産後の仕事復帰を諦める人も多くいる。子育てをしながら働ける環境を整えてほしいと思う。まずは保育所、学童保育の充実を。大手企業などは取り入れているが、育児休業の延長や時短勤務、看護休暇(子供の病気時)等が皆取れるようになれば、女性はキャリアを捨てずに積めると思う。それが当たり前の社会になって欲しいと思う。
	その他			現実問題として、育児休暇(父親側)が大幅に取得できる職場は限られているのではないかと。誰でも気がねなくとれるようになるだろうか。お互いが、できる立場で助け合い、楽しい社会となってほしい。	
	その他			育児や本人の体調等によって仕事が困難で身近な人のサポートが受けられない人には行政が暖かくサポートしてくれるようであって欲しいです。また、働きたい人が思う様に働けるよう保育所や短時間サポートしてもらえるシステムとかの充実を願っています。誰もが安心して子育てしながら無理なく働ける社会(これは男の人にも言えると思う)が実現できたらと思います。	

1. 就労条件 や職場の理 解に関するこ と	60歳代	男性	共働き	85制定の「男女雇用一」以降、男女共同参画社会は多方面で叫ばれていま す。特に女性が結婚して、且つ出産も経験しても、職場の環境や周りの方々の 意識に配慮しつつ仕事が続けられればベストですが。もう37年も法整備されて るのにまだまだ困難なことばかりです。これはやはり「意識改革」に他ならないこ とと思います。
			夫のみ 就業	町の活気を促す様な催し等に魅力を感じる物がなく、町内の若者の減少等が 多く感じられる。働く環境の場があっても働いても希望の持てる職場環境があ れば若者も町に戻って来るのでは！
			夫婦とも 年金生 活者	定期的に検証し、成果を上げている事業所に対する表彰制度を設けたらどうか …
			-	男女雇用機会均等法は30年以上も前に制定されているのに今だに賃金格差 は大きいと思います。母子家庭は生活も子供の進学も大変と考えます。
	女性	夫婦とも 年金生 活者	仕事を通じて人と人のコミュニケーションで「年齢を問わず」楽しんで働ける場所 を提示することを積極的に考えて頂ければと思います。	
		-	私は、本市が「男女共同参画社会」に取り組んでいる事を知りませんでした。ま だ男性の方が働きやすい社会なのかなあとと思います。最近、義父の病気で介護 制度、施設のありがたさを実感しました。94歳の父ですが、もっと体が自由に動 く時に利用できたら良かったと思いました。ある年に達したら、施設が利用できる ようになると思います。長生きしてもまわりに友達がいなくなります。 同じ仕事をしているので女子の方が安い給料というのは良く見ますが、今後人 口が減ってきたら、男だからとか女だからなんてのん気な事は言っていられなく なると思います。少しづつでも本当に平等になっていくと思います。そういう時代 がきつと来ると思います。こんな事しか書けませんがお役にたてればと思いま す。	
	70歳以上	男性	夫婦とも 年金生 活者	8年間も本計画推進ご苦労様です。残念ながら、何をどのようにするか、全然わ からない。根深くある、男性社会のしがらみ、風習に、結構押し流されているの ではと思う。又、当地域で、労働環境として、メーカーではなく二次製造業が主 男女共同参画社会は健常者のみで構築されるものではなく、行政は身体及び 精神障害者の特性を把握し、長期に仕事が継続できる職場の開発と支援体制 を現状以上に整備をお願いしたい。 男女の平等を尊重する事により、新たに男女共同参画を重要視する必要はな い。仕事をしやすい環境にすることにより、男性女性の差別は無くなると思う。各 自自分自身の立場を理解する事が重要である。世の中の流れが人を変えて行 くと思われる。 職種によっては平等に近い男女参画の社会は可能と思われるが、現実には無 理な職種もあり、最初から職種をはっきり分けて、共同参画社会を目指すのが 本当の共同参画で総ての社会の職種について、共同参画社会にはほんの一 部の女性のみで、そのためにも、女性の意識改革が一番必要なことで年月をか けて推進していくことが必要ではないのか。意見だけを言うのは共同参画社会 ではないと思う。実行を伴わないでは？
			その他	男女共同参画社会の実現について龍ヶ崎市においては、ある程度までは行わ れていると思えますが、もっと女性に対する働きながら楽に育児が出来、差別の ない職場を作してほしい。

2. 教育や学習に関すること	20歳代	男性	-	・市民一人一人が自身の働き先の雇用契約に関心を持つことが必要。・働く際に不当な対応を受ける等の場面において当事者はどのような権利を持ち、行使できるのかを教育で市民に教えるべき。・行政が変わっても市民の意識が変わりがなければ多数の人が現状維持の選択をし、なにも変わらない。先ずは意識改革を学校から始めて市民一人一人の権利、選挙権獲得の歴史を知らしめ、平等の実現を考える力を付けてから行政を変えるべきだ。
	40歳代	男性	共働き	男女ではなく、人が自由に働けるようにするため、教育の中で、男女の相互理解を深めるような体制を考えてほしい。年齢がある程度上になると、考えを変えるのはむずかしい。金銭的に余裕があると、考え方にも、理解できる余裕が生まれるので、経済的な活動が、合せて重要と思う。 ※返信用の封筒が小さすぎます。 ・調査内容をどうやって反映するのか、具体的な形で広報などで知らせると思いますが市民に分かり易く取り入れてほしい。・パラハラ、セクハラ等ハラスメント意識が年代によって様々、特に50、60代にはないと考えます。市民講座等の学習会で市職員の有資格者や外部講師に依頼し、学習の場を増やす事が必要ではないでしょうか。他の市町村では市民大学の一環として最近はカリキュラムに取り入れている。
			夫のみ就業	1.男女ではない、人はいろんなカテゴリーがある。だから「ダイバーシティ」が良い。 2.女性は働きたい人もいれば子育てに専念したい人もいるだろう。つまり、働かなくても良い社会を作るのが良いのでは…。夫婦で働いて子供はどーなるのか？家に親がいたほうが良いに決まっているだろう。親がいないのがそんなに良い社会なのか？そんなに社会で好き勝手やら自己実現の幻想にひたりたいのなら子供なんか作るなよ。よくばりすぎだろう。子供の立場になって考えてやれよ！すくなくとも10才くらいまでは、ママやらパパやらが学校から帰ったら話聞いてやらないとき。イジメとかにあつてるかもしらねーし。
	50歳代	女性	共働き	男として女として違う所があることは何か意味のあることで、人が1人1人違うことが基本で、すべてが平等とは思いませんが、違いを認め合えるように、違いを受け入れられるようなことが理解できる環境や体験を通して学習できるような場所があったらいいと思います。男の人が力強さ、女の人の柔らかさみたいな1人にしても持っている物が違って、そういう所を理解し、共同して出来たら良いと思います。
	60歳代	女性	夫のみ就業	行政が立体的に男女共同参画社会の実現に向けて動くことはとても良いと思います。教育を通じて男女共同参画社会の意識作りをすることで、社会的な意識改革を促して欲しい。
			夫婦とも年金生活者	子育てには、両親共に子に愛情を持って育てることが第一です。現代社会には産んでも育てる力が金銭面と共に愛情が不足していると思います。何とか、教育の面での力不足は教育者達が頑張らなくて欲しいと思います。今の社会は皆無責任です。言うばかりではだめです。自己責任について、もっとよく考えて欲しいと思います。そんな教育を望みます。 情報が氾濫している時代、子供達に正しい知識を伝えてほしいです。「教育」が一番大切です。男女を越えて一人の人間としての自分の存在価値を肯定できるよう、教育現場、家庭、地域は見守らなければなりません。昨今の事件を見るにつけ痛感している65歳おばちゃんです。
		-	・小学校、中学、高校、大学で男女平等の啓蒙活動する・大人は職場でも男女平等の意識の啓発に取り組む・性別やLGBTで差別しない活動を徹底する	
	70歳以上	男性	妻のみ就業	74歳男性ですが、大勢の女性と働いてきました。又、採用もして来ました(800人位)がどうしても女性特有の性格があるので平等と考えてはいますが、その差を良く理解していないと不平や不満が生まれてきます。色々なレベルの社会共同参画が有るのでしょうか、急に机上で考えると特に女性は偉くなったと勘違いする人が沢山います。混乱したり、間違えた主張をしたりする人が出てきます。私が思うにはそれなりの土壌が無いと着いて来れない人が目立ってきます。そのように感想として体験しています。土壌造りは義務教育にあると思います。

3. しきたりや慣習に関すること	20歳代	女性	共働き	男女平等社会になった事による未婚率の上昇、若者と年配の考え方の違いが気になります。女性が男性のお金に頼るとい選択から、選択の自由が増えたことは良い事だと思います。しかし、若者の経済的余裕が無い所に男女平等参画社会を行ってしまうと、若者は更に未婚率が上がってしまうと考えています。その欠点の改善策を立てて下さい。そして、年配の方への男女平等教育の徹底をしてください。若者よりも、年配の方の考え方が男女共同参画社会からかけ離れています。私より年上の方が考えたことなのに、その方々が男女共同参画社会についてわかっていないなんて、面白いですね。
			-	役職などは結局、男の人がなるイメージが強い。女性は結婚したら仕事を辞職というイメージが強い。都内と比較して地方は男性社会がまだ根付いている。
	30歳代	女性	共働き	男女共同参画社会というものを進めて行く人が女性を低い位置に置いて生活しているようでは変わらないと思う。今の社会は今までそうだった「男性の体力、精神、考え方」で成り立っているため、女性が働く(活躍する)には「男の様な女」になることが必要だということが問題。男性にも女性にも得意とする分野をもう一度見直し、仕事内容は違うけど、価値は同じだということにかけて行くと良いと思う。また、看護師がいなければ医者も成り立たない。保育士がいなければ、少子化は免れない。どうして低い位置に置き続けるのか。昔とは違うのに。
			-	年配の方に理解してもらおうが大変。最近の若い人は男女平等だったり、男性の育児参加など協力的だと思うが、考え方が昔の人に対しては難しいものがある。
	40歳代	男性	夫のみ就業	田舎の風土では実現するのは非常に困難だと思う。高齢者の意識改革から始めないと何も進まないと思う。色々なしがらみが多すぎる。
	60歳代	男性	共働き	しきたりや慣習の改善が急務と考える。その為に教育現場や地域での男女平等について教育の徹底をすべきと思う。市役所内での女性管理職の増加をお願いします。
			夫のみ就業	基本的には夫婦別姓の法制化が望ましい。段階的には選択的別姓でも良いと思うが、男女共同というのに、婚姻すると、女子が男子の姓を名の方が多いとあり、言い方は悪いが附属的な感じがする。意識改革の基本には別夫婦別姓があるように、私個人は思います。
		女性	夫婦とも年金生活者	私の若い時の時代は、男(夫)は外で働き、家族を養う、妻は家事、子育て、すべてやり、それがあたえいまえでした。今の時代は、夫だけの給料だけでは、食べて行けないまま大げさですが、夫婦共働きが普通です。家事、育児も共同でそれぞれ分担してやっていますね。子供の小さい時は、共同でやっても大変です。色々サポートが出来る。利用できる所があると良いですね。
			-	私は男性が女性に対する意識改革まだまだ男性は、家事は女性がするものだと考えている事が多いように思われますので、男性は、根本的から変えるべきであると考えます。
	70歳以上	男性	夫婦とも年金生活者	社会を運営する人々の大半は男優先を無意識に考える習慣があるので、それを是正させるには法律しかない。どんなに男女平等を口で訴えても日本人のDNAはそれを否定するので、それを実現する為には法をもって厳しく組み込まないと、世の中は変化しないと老人は思っています。 社会、経済の仕組み、慣習など男優先の社会が現実であり、育児、家事を主に女性が分担している。男女が対等で公正な活気ある社会とするには育児を中心とした女性の負担を軽減する事が重要であるが、更に強制的に均等化を目指した法律や制度を改正しないと改善が進まないと思う。雇用機会均等法の強化等で男女の採用比を50%に近づけることの強制等を実施すべきと思う。市会議員の定員を男女50%づつにしてみるのもいいのではないかと。
			妻のみ就業	人権問題について精神的暴力は目に見えないので自分さえ我慢すればいいと思っている人が大勢いると思う。私も被害を受けた人を知っていますが、暴力をしている方は自覚が無い、自分が全て正しいと思っている人が多いのも事実です。女は家で子育てをしていれば良いと言った考えや「給料は俺のもの」「俺が食わせてやっている」といった言葉を口に出す人達もいるのです。
	70歳以上	女性	夫婦とも年金生活者	私は70歳を過ぎてますので、このアンケートには？です。私の時代は、子育てはほとんど家庭を守って主人の言う事にさかかわらず過ごしてきました。問9の精神的な暴力(DV)などは普通かもしれない今の若い方は、子どもが生まれれば保育所(0歳児)にあずけ、母親に見てもらい、(母親だって体調が悪いのです)そんな話を聞きました。時代が違うのですから男女共同参画社会となるのでしょうか、3歳ぐらいまでは、ママと一緒に暮らすのが理想です。「しつけ」が出来ない子ども達が多すぎる、自分勝手、すぐ切れる、「がまん」ができない。事件が多すぎ。まとまりの無い文で失礼しました。人間が優しい社会、協力しあう社会になって欲しいです。男女共同参画がうまく行くと良いですね。

4. 人々の意識や考えに関すること	20歳代	男性	-	男女の平等を意識しすぎるがゆえに、平等から遠ざかってしまっているように感じる。 男女共同参画社会という言葉を知ると女性をどうしても雇用しなければならぬという圧力を感じてしまいます。本当に大事なことは男女関係なく共に働ける人材を発掘するようなニュアンスを感じられるような言葉が必要だと思います。
		女性	-	東京で仕事をしていると、残念ながら、龍ヶ崎は遅れていると感じます。それは、行政の施策が…ではなく、周囲の理解と意識です。学校でいくら教育をしても、会社や家庭で今、中心となって動かしている世代の協力が得られないと、全く意味を成し得ません。今から子育てをしていく年代と、現在、上司もしくは、親世代との意識の違いを埋めない限り、せつかくの行政のさまざまな施策も活かされないように思います。
	30歳代	男性	共働き	女性の地位の引き上げ等、社会的待遇の向上は共同参画社会において不可欠であると思うが、女性ばかりがクローズアップされ、平等以上に女性上位、女性優位になっている風潮に疑問と懸念を持つ。龍ヶ崎においては、そうならないよう取り組んでもらいたい。
			夫のみ就業	男性が考える男女平等と女性が考える男女平等は全く違うものだと思います。なので、本当の意味での平等は今までは実現不可能だと思っている。私は男性なので、女性の今現在感じている差別というものを頭でわかっているつもりでも女性からしたらそれはまた違うものだと感じているかもしれません。相手の立場にたって考えたところで、私は女性じゃないですし、女性が言っている平等も何のかわかりません。お互いに意識を変えて頑張った分だけ認められる社会が出来る事を望んでいます。
		女性	-	男女差を認めた上での対等を掲げるなら24時間の仕事内容をグラフ化して視認するところからするべき能力差もある。全て明らかにした上で認めることの否定や批判が出るうちは理想実行不可。制度や法整備等その後でいい。実生活に即影響するから改善、行動すること。
	50歳代	男性	共働き	かけ声ばかりで実際にはあまり実現していない、もしくは有益となっていないことが多いように思います。行政に頼るばかりでも実際には動かないと思うので、どのようにしていけば改善するかをみなで考える機会を市レベルなどの身近な環境でも行えばいいと思います。 男女共同参画については、年代により考え方が異なる場合が多いので、年代別に意見を聴く等を行い、参考にした方が良く考えます。市議会議員の女性比率や市役所の女性管理職数等を教えて頂きたい。
		女性	共働き	・男女共同参画社会を深く考えなければいけない社会はおかしいと思う。・男の人と女の人の役割は違うと思う子育てはしっかり母親を中心として自分でやるべきです。・保育所を増やすのではなく、家で子供を育てられる環境を整えるべきです。・働く(外で)ことばかりではなく、節約して夫、一人の稼ぎで子供が小学校を卒業するくらいまでがんばってほしいです。・私は子供が中学に入るまで仕事をせず頑張りました。一人の稼ぎで暮らすのは大変だったけど、3人の息子を一人で育てたことをほこりに思っているし、自慢です。
	60歳代	男性	夫婦とも年金生活者	親子三世代が住んでいた時代は、住宅が大家族用に造られ、隣近所の方々とお茶飲み等の交流が多く、和気あいあい感がありました。現在自治会の役員をしております。特に、ニュータウン住まいは、親子二世代、老世帯、独居世帯が多く、お茶飲みできるような住宅造りではなく、「隣の人は何者」という感じのような、お付き合いを感じました。子育て、老後、介護、仕事等を含め、男女それぞれが特徴を生かした取り組み方が必要になっています。自分自身は大切ですが、一人でも多くの方が、他人のため、地域のためを思って行動すれば、住み良い地域になるものと思っております。とにかく、男女平等、共同の意識改革が必要だと思います。
				市民は共同参画社会の実現をどの程度望んでいるか。そもそも、どんな社会かが見えてこない。多くの女性が、男性と対等に仕事し社会で活躍したいと思っているのか？この点は私もまだ理解不足である。性別に関係なく、意識能力に基づいて待遇されるべき。男女均等に処遇されることが平等ではないと思う。
	70歳代	女性	夫婦とも年金生活者	男女共同して、地域のために、住みやすい町作りをぜひ取り上げてほしいと思います。60才まで働き(パート)しました。その時の仕事での事で記入しました。毎日の生活の中で、決まりだけをやるのではなく、少し気配り等、あったら良い町になると思います。じょうずに書けなくて大変申し訳ありません。
			-	・その人の生き方、考え方を持つこと。・結婚する時点で左記を意識すれば、離婚も少なくなるのではないかと？・男女共同参画社会になるためには、やはり、人としての勉強？
	無回答	無回答	-	弱者をイタワル気持ちの義務 →但し、行きすぎると、逆効果 弱者が弱者であることを強調して、甘えを助長しているのは残念。(ほんの1部と思うが、広がりが見られる)

5. 育児休暇 や育児環境 に関すること	20歳代	男性	共働き	保育園の充実と保育時間の延長、共働き夫婦の暮らしやすい市にしてください。
		女性	共働き	ホームページでは待機児童「0」なのに、保育園申し込みをしたら、結局は待機児童ばかり…。一時保育で2人あずけてるけどたつのご助成も1人年間3万まで…もう今年分は3万越えたので10月～の利用分は返ってきません。これじゃ働いてる意味がありません。離婚してシングルにでもなれば保育園入れますか？税金も払いたくても、こんなじゃ払えません。(生活きびしいので)このアンケートに関係ないことですが こども課に行ってもろくに聞いてもらえないので 書かせていただきました。
			-	子供が具合悪くなった時にでも預かってくれる所や親子で参加できるたつの子教室を定期で充実させてほしい。
	30歳代	男性	共働き	保育園や学童保育にもっと入りやすくなってほしい。母親が働くことにより、実家の両親に負担がかかる場合があり、それを考えると、自分達の親に迷惑をかけてまで働くべきか？と思う。実家に頼ることなく、共働きを実現するには、もっと子供を預ける場を充実させるべきではないでしょうか。条件が多く、難しい。子育て日本一をめざしているならば、こういうこともぜひ取り上げていただきたい。育児をする為に龍ヶ崎を越して来ましたという人が増えるといいですね。未だに道の駅が駅名変更などの20年前に流行した政策でどうにかなる訳はないと皆気付いているはず。徹底した社会保障への投資を近隣自治体にどれだけ先がけて出来るかが勝負だと思います。つくば、守谷に負けないように頑張ってくださいね。
			夫のみ就業	龍ヶ崎市は子育て支援に力を入れている点はとても良い全てはそこから始まると思います。
		女性	共働き	現在、子育てをしながら正職員として仕事をしています。職場では男性も女性も平等に認められる職場ですが、その分帰宅時間が遅くなる事も多く、子育てに十分時間がかけられません。夫も協力的ではありますが、やはり女性である自分に家事、親類のお付き合い等の負担が大きいのが現状です。ホームヘルパーさんの様な方に気軽に家事育児、食事の買物など依頼できるシステムがあると本当に助かります。私よりも上の世代の母親はそれをこなしてきたのかもしれないですが、自分は限界を感じます。職場の女性の同僚も仕事と子育ての両立に困難を感じるスタッフばかりです。助けて下さい。ぜひ、家事、育児を協力して下さる様なサービスを作って下さい。お願いします。
夫のみ就業	実家が遠方などの子育てしている家庭は、皆さん本当に大変だと思います。待機児童ゼロと言っているが実際は入れている子供周りにたくさんいて、働きたいのに働けない母親も沢山います。改善する為にも、保育施設を充実させたり、短時間パートを受け入れてくれる職場を増やして欲しいです。先日「たつのごそだて」の冊子が配られました、あれは誰に見せる為の物なのですか？すでに市に住んでいる世帯に配布しても、意味が無いし、お金のムダだと思います。大きな公園がある事を伝えていましたが、子育て世代が一番助かるのは、学校や園から帰宅後に行ける自宅から近い所に安全な公園がある事だと思います。あのようなものを作るお金があるならば、各地域、自治体に1つ子供達が遊べる公園を作って欲しいです。公園が無く自宅付近で親が見守りながら遊ばせていても、近所の方から声などクレームが来てしまい、子供の遊ぶ場所がなく本当に困っています。警察沙汰にまでなり困っています。公園を作って下さい。以前、市長へのメールでも同じ事を伝えましたが四街区公園で遊んで欲しいと返信が来ました。実際にその公園を見られたのでしょうか。とても子供達が安全に遊べるような場所ではありません。新しい住宅には小さな子供達が沢山います。人口の増加に合わせて子供達の住み良い街を作って欲しいです。とても子育て環境日本一ではないと思います。			

5. 育児休暇や育児環境に関すること	40歳代	女性	共働き	<p>龍ヶ崎市は、子育てしやすいようにいろいろなサービスがあり、とても恵まれていると感謝しております。また、いろいろなイベントや講座もたくさん、参加しやすい費用で実施して下さい、ありがたいです。夫婦共働きで子供が3人いるため、流動的な預かりの場など(急遽・単発など)が小学生でもあるとありがたいと思います。(習い事の送迎などは、どうしても女性中心になってしまうと思うので送迎サービスなどもあるといいなと思います)また預かりの場での行事の充実(体験活動など)があると嬉しいです。これからももっと子育てしやすく、また老後も過ごしやすい龍ヶ崎市となってくれることを願います。</p> <p>子育てに専念したい、働き続けてキャリアを積みたい、地域活動に参加してボランティアしたいなど、色々な人がいろいろな考えがあって良いと思いますが、育児は何よりも大切な仕事であるという意識を両親が持てるような社会を望みます。子の健全な成長なしでは、これからの社会形成、地域の発展的な未来は望めません。また、子育てが一段落して仕事をしたいと思っても、介護をしなければならぬ状況にある場合も耳に入ります。結局のところ、一度家庭に入ってしまうと、なかなか外で自分の能力を発揮して働き、収入を得ることができる女性はまだまだ少ないと思います。しかし、「働く」ことのみが、共同参画社会ではないと思うので、女性の子育てや介護の経験を、もっと地域社会の中から、知らせて市でも汲み取り吸い上げて「負担を減らす」ことを第一ではなく「経験を生かす」ことから、よりよい形を整えて、次の世代へつないでいていただけたらと思います。</p> <p>学童保育については、利用者が安心して、仕事ができるような体制を整えてほしいです。</p> <p>子供達を育てている若い世代の家庭を応援してほしい。子供が小学生のうちぐらいは帰宅時に母親が「おかえり」と迎えてあげられる世の中にはならないのでしょうか？</p> <p>男女共同参画社会「実行」は必ずさせて頂きたいと思っております。病気の子供を預けられる保育ルームがあると女性の方は仕事を休まず行けるので、いいと思います。パートでも、仕事を休むと連絡すればいい顔はされません。小6年生までを対象に。</p>			
				-	<p>子供を産んでも、預ける所がなければ仕事を続けるのは難しいと思う。環境をもっと整備してほしい。</p> <p>とにかく(龍ヶ崎市)茨城県は保育施設が少ないと思います。特に一人親家庭では本当に子どもが小さい子を抱えている人達は困っていると思います。子供に関する福祉制度も茨城県は負担も多く、小さい子がいる家庭は住みづらいと思いました。遅れているのか？他県は福祉も含め環境的に整っていますが、茨城県は遅れていると思いました。本当に住みづらいし、優しくない県だと痛感しています。</p>		
				50歳代	男性	共働き	<p>少子化対策の一つとして、男女共同参画社会の実現が大きな意義を持つと思う。子供を産むのは、女性しかできない。二人目、三人目の出産時に、一人目、二人目の子供を安心してあずけられる体制、しきみが不十分では、産み・育てることはできない。女性の産休、男女の育休、学童保育など施設の充実。何よりも職場の休暇制度の充実と生活スタイルに合った働く場所の供給による経済的自立が、本当の男女共同参画社会の目的ではないだろうか。</p>
				60歳代	男性	夫のみ就業	<p>・趣味やスポーツ、学習等の活動に参加しやすくしてほしい・介護制度を利用しやすくし、補助金を増やす方向にしてほしい。・育児保育施設をだれでも行ける方向にしてほしい。・育児に対する補助金を増やしてほしい。</p> <p>インターネット等を活用した、企業の業務効率化が大きく進展し、人の価値や評価が相対的に低くなっている時代であり、中間層の平均年収も少なくなっています。若い世代は共働きが基本になって来ていますので、女性が働くための子育て支援策の充実が急務となっています。(特に、保育所の拡充は早期に解決すべき問題だと思います。)龍ヶ崎市としては、保育所受入体制の強化、現在でも実施されている育児相談サービスの拡充、育児手当の拡充等積極的な取組をお願いしたいと思います。</p>
							夫婦とも年金生活者

5. 育児休暇 や育児環境 に関すること	60歳代	女性	共働き	最近赤ちゃんを抱っこしている若いパパや学校行事等に積極的に参加している父親の姿をよく見かけるようになりました。ここ20～30年ぐらいの間で、子育てについての男性の関わりはかなり変化してきているように思えます。市長の育休取得なども後押ししているかも。地域社会や家庭内では依然として男性優位と考えることがあるので、少しずつでも認識が変わっていくように継続した取り組みやアピールが必要だと思います。
			共働き	改めて男女共同参画社会を考える機会を与えて頂きありがとうございました。私はすでに子の教育が終わり、正職員として31年勤務55歳で退職しました。当時は産前産後8週間ですぐ仕事に復帰し、両方の両親の協力で何とか務めてきました。その間子供の病気や親の入院等問題が発生しました。何とか乗り切ったんですね。今は学童保育が出来環境も整いつつあると思いますが、まだまだ子を預ける手段が取れず困っている女性(私の元職場にも)がいる現状です。働きやすい環境は行政と企業の協力なくては実現できません。今後若い若さも暮らしやすい社会を願うばかりです。
			共働き	龍ヶ崎市も人口の減少に伴うと同時に高齢化しており空家の問題も進行しているのではと思われま。人口増加を考えるのに、都市部にも近い龍ヶ崎を先ず活性化しなければならない事を考慮すると若い人達、子育て世代を引き込むのに、子育てしやすい街作りをし、それには子育て先輩である元気なお年寄りの力(有償ボランティアとし)子育て世代の保育士も自分の子供も安心して保育出来る環境整備をすれば、自然も多い龍ヶ崎ならではの老若男女参画の夢が現実化出来るのではと思います。空家利用も加え、お年寄りも大事ではあるが先を見据えられない人口を増やす事が先ず優先事項でそれに伴う就労も増えるし、女性も働ける環境が出来れば外に出て行ける。出たくても出れない現実がまだまだ多いと思います。
			共働き	駅前子供ステーションは共働きの家庭にとって、とても助かりました。これからも続けていただきたいと思っています。ありがとうございました。
			夫のみ就業	男女平等に仕事をするとするのは家庭があると無理だと思います。男性女性はスポーツにおいては特に差があるので、仕事もそれぞれ向き不向きがあると思います。主婦、主夫はそれぞれの家庭で、家事を主に担当する方がいる方がよいと思いますが。子育ては大切です。保育園、幼稚園、学校任せにしないで！3世代同居が一番大切だと思います。昔の日本は子育て家庭の原点。世の中の発展は楽な方向、楽な方向へと進んでいますが、もう一度原点に立ち返る考えが必要ではないでしょうか？孤独死は無くなってほしい!!市では、3～4世代同居の家庭に補助を出しては…
			夫とも年金生活者	育児と仕事の両立が可能になる為に、保育園の受け入れを充実させて、待機児童をなくし、ストレスなく仕事が出来る、保育園の充実を行政に希望致します。仕事を続けたくても、子供をあずけられない現状は、かなり深刻だと思います。育児の為に、止めざるをえない、若い女性達の仕事事情を行政は、早急に改善すべきだと思います。
	70歳以上	女性	夫とも年金生活者	リタイア前はほとんど単身赴任の為、母子家庭状態で2人の子供を育てました。とてもフルタイムで仕事をする事はできず、パートで頑張りましたが。子供夫婦は共働きですが、保育園etc ジイジ、ババの協力が無いと子育ては不可能です。近い将来、安心して若いママも仕事に専念できる社会を期待します。
			夫とも年金生活者	女性が働く場所を多くして、保育所の受入時間を長くして欲しい。男性も育児に協力することが大事。
			-	安心して子育てのできる龍ヶ崎になるよう願っています。
			夫とも年金生活者	子供をしっかり育てる事が大切ではないでしょうか？働く事より子供を育てる事が一番の仕事です。当たり前のように義務教育を受けてますが、日本の皆さんの税金で勉強させて頂いている事を子供に教え、しっかりと勉強させる。母親が働いて疲れて、しっかりとした食事を作っているのでしょうか？食は大事です。男女共同…と言いながら、何か間違っていないですか？子供の教育は地方自治体の責任です。学校を監督して下さい。母親の教育はもっと大事です。親にはなれますが、親らしくなってほしいな～子供を成長させて、資格を活かした仕事につけるようにしたらと思います。なので勉強する時期にしっかりと勉強させ遊ばせ、礼儀を教え(今は親が礼儀を知ら無すぎるから無理か?)これが働いて疲れている母親又父親も家事分担して出来るでしょうか？ちなみに、私は夫には社会で大きく羽ばたいて仕事をしてもらいたいとつとめて来たつもりです。
			夫とも年金生活者	問5どうあるべきと決められるものではないが、子育ては妊娠出産授乳と女性(母親)が行った方が良いと思う。その後、母親に代わって預けられる人、場所等条件が揃えば、女性も社会に参加した方が良い。※子供を育てることも立派な仕事、社会参加である。問18、19については、年齢からして調査対象にあらず。問20理想はない。問7現在リタイアしているのでわからない。
			-	市長さんが育児休暇を取るなど良い事であるが男性自身が育児休暇をとる事を恥ずかしいとかめんどろ等と考える風潮をあらためる事も必要かと思っています。

6. 男女の性 差等に関する こと	20歳未満	男性	-	一般的に世論では男女平等を、やたらとなえているが、実際の所、真の意味での男女というものは絶対に実現はしないものだと思う。回答して思った事だが、やたら女性のみが差別されているんだといった事が伝わってくる質問、回答だった。本アンケートに関しても男女平等とは言えない。様々な対策などを行っても人という生き物にとって男女平等は不可能だろう。
	20歳代	男性	共働き	実際平等なんてありえないと思います。「女性専用列車を作れ」、「何かあればすぐにセクハラ」「男女差別を無くそう」「都合のいい所だけ平等」これでは平等でなく、女性にとっての都合のいい世界になってしまうと思いました。男には男としての責務や適正な生き方があり、女性には女性の責務や適正な生き方があると思います。ともにそれぞれの役割を適切に理解し、助け合い尊重しあうのが男女である。男と女は筋肉、骨格の作りは全然違う。何でもかんでも平等というわけにはいかないとはいいます。
			-	男性と女性とでは身体が違うので、それに対応した、細かいルールが必要。 男女の性的な問題よりも人間の体の構造的に平等には限界があるという事を考慮した上で、活動を進めていくべきだと感じる。やはり完全平等は不可能なのではないでしょうか。 男女ともに、区別なく社会、仕事に参加することは理想的と思う。一方、結果の平等性ばかりがとりあげられ、一部では、行き過ぎている面もあると感じている。私は工業系専門職であり、職場には男性がほとんどである。就職時に男女雇用均等法にのっとり、能力の違いがなければ、女性を優先すると明記してあった。ここまでくると“機会の均等”でもないし男性差別では？とも思った。
		女性	-	女性の方にばかり目を向けるのではなく、男性に対する社会の現状を見直してみることで、女性にとっても男性にとっても暮らしやすい社会になるのではないかと思います。また、生物学的な性差というどうしても差がうめられないものへの理解が十分でない(努力でなんとか埋められるものと考えている人がいるような気がしている)と思われるので、生物学的な性とジェンダーをきちんと理解することができる教育の場があるとよいのではと考えています。女性も男性と同じように働けといわれてしまうと、子どもを産む機会について悩んでしまいますし、女性と男性の評価基準が同じだと子供を産む女性の評価が低くなってしまふのでは？と思うので、そこら辺に上手な評価基準ができるように啓発していったらいいかと、女性としては嬉しいです。
			-	保育士や介護士の労働条件や給料面での見直し。子供を安心してあずけられる場があれば女性の社会進出に繋がると思うので、そのための保育所で働く人の数を増やしていくべきだと思いますが、給料面の理由で保育士志望の人が増えないので、そう思いました。
	30歳代	男性	-	男性と女性の平等という目標は立派なことだと思いますが、そもそも男女で真の平等は実現できないと考えています。男性と女性では身体的、精神的にまったく特徴が違っており、生物的に別物(言葉は悪いですが)ともいえる程だと思います。従って、無理に仕事、労働条件や求められるものを完全に平等化するのではなく、それぞれが得意なこと、不得意なこと、特徴を受け入れ、特に得意な事を行かせるような環境づくりに重点を置くべきだと考えています。その上で不公平感が生まれないように制度、風土などを整えて行くべきかなと考えています。もっと言えば性別だけでなく、人間それぞれが得意な事ややりやすい仕事の進め方が出来る様に、選択肢をより多く用意できる環境や制度づくりが重要かと。企業が率先してそういったアクションを取るとは考えにくいので、これらを企業が率先してアクションを取っていくよう働きかけることを行政に期待しています。なお調査票については、この形式では集計に手間がかかりそうな印象があるので、マークシートやWEBのフォームなど、工夫した方がいいのでは・・・と感じました。 男性と女性では身体機能、精神機能がそもそも違い、同じ様にする(平等)は難しいと思います。女性が働きづらくなっている原因として感じるのは、そもそもの業務時間が長い、休暇が少ないと感じています。その2つが改善されるだけでも、男女共により働きやすくなると思います。男性には男性に合った働き方、女性には女性に合った働き方があると思います。女性には月1回の生理があったりすることもあり、そもそも身体づくりも平等ではないものを働き方は平等にしようとする働き事態に違和感を感じています。平等ではなく、皆が働きやすくなればそれで良いと思います。

6. 男女の性差等に関すること	30歳代	女性	共働き	女性が仕事をしていても、家事、育児を女性がやるのは当たり前！という考えを変えるべき。女性は当たり前であって、男性がやっていたらすごいとか、イクメンとかそれは、平等ではない考えだと思う。海外のように、お互いに助け合って、家事、育児をやって行けば女性も仕事を独身の時の様に続けて行けると思う。ママがやるのは当たり前。パパがやったらすごいこと。というのが昔からの日本の考えのようで、平等ではない。納得いかない。
			-	龍ヶ崎には、仕事、求人が少ないと思う。4月から臨時的に任用で高等学校で職員をする機会に恵まれて、仕事をしているが、その直前まで、販売のパートをしていた時と比べると、現在は金銭的にも休みを取りやすい点でも恵まれている。公務員の待遇は民間に比べて良すぎると思う。(今は有難いのですが。)しかし、やはり女性だから、子供がいるからと、嫌みを言われたり、釘をさされるような発言を受けたりされる同僚の先生方も少なくない。(帰るのが早すぎるとか、週末は来られないとか)若い頃、新卒の頃は、男女平等の会社に就きたいと考えていた事もあるが、実際、結婚出産を経て、ばりばりと総合職で転勤もこなして仕事をするなんてよほどのスーパーウーマンか、夫や実家の協力がなければ無理だと思う。男女は平等になんて生物学的に考えても無理だと思う。違いを認めることで、分担するしかないのだと思う。
			-	男性と女性はそもそも違う。同じ性別の中でも働きたい人と働きたくない人はいる。だけどどちらもあたりまえ。平等と自由とわがままの違いは子供たちにどうやってつたえていったらいい社会になるのだろうか。 男女平等は良いことだが、男女では違いがあるのは当たり前。すべてを平等とはいけないので、男女でわかるしかない。それを差別というのは理解できないフシもある。男女の能力でわかるしかないのでは…?と思います。
	40歳代	男性	共働き	表面的に女性が就労しやすい形や仕組みには問題があると思う。もともと生物学的にも男性女性は異なっているし、それぞれの強み弱み、良い点悪い点、得手不得手がある。従って、全てが男性、女性が同じ条件で働ける生活できるわけではない。男性女性が持っている特性をとらえ、その故互いに補完しあえそれが公平に扱われる社会が必要と考える。例えば、介護が必要な老女性の排泄のお世話に男性が介助したら、老女性はどう思うか?! 工事現場でとても重い物を1人で運ばなければならない場合、女性が男性と同じ様に仕事ができるか? 出来ない場合でも同じ条件として扱っていいのか等)
			妻のみ就業	女性も積極的に社会で活躍すべきである。働く事だけが社会への参加ではなく、家庭の事情で働けない女性は地域活動を通して活躍しても良いと思う。行政もそのような人を評価すべきである。
		女性	共働き	男女平等といいつつも、やはり現実とは異なります。仕事では、男性が優遇されていますし、女性は現状のままです。家庭では女性が家事、育児全般を見て、帰宅時間が遅い父が通勤2時間かけて帰ってきて家事を手伝ってやれる人がやれる事をこなしています。家族が思いやりのある心を持って、笑顔で朝送り出す事が目標です。自分が今、やれる事を行い、みんなで協力していける世の中になる事を望みます。 ①「男女共同参画社会」という問題を取り上げるとき、「女性」の育児・家事と社会生活との「両立」が問題とされるが「男性」において、育児・家事と社会生活の「両立」はあまり問題とされないのはなぜなのでしょう。男性には家庭生活における労働が見えていないのではと感じる。②少子化問題は女性と社会構造の変化の問題なのか。問22は子供に恵まれなかった人に対して、どう回答を求めているのか。なぜ、選択肢を2つ選ぶのか、意味が分からない。「7」が理由の人に更なる選択肢を選ぶ必要ありますか。差別問題というのは、差別あり、差別受けていると感じる側(劣位の側)と優位の側との落差がはげしく、優位の側に相当の想像力が求められるので、なかなか解決しない。難しい問題だと常に感じています。 男女平等はとても大切なことであり、必要なことだと思いますが平等にするために女性の管理職の積極的雇用などということにはいつもいつも違和感を感じます。平等にするから女性を選ぶのではなく、あくまで能力によって決めるべきものだと思います。どうも、文字だけ見ているとそういう気がしてなりません。男性には男性の、女性には女性の役割があると思います。そこをお互いに理解していないのに、男女共同とか実現とか、ちょっと違うのかなと思ってしまいます。(私は女性ですが、今の社会の動きは女性優遇というか、男性の立場を無くしているきがしてなりません)

6. 男女の性差等に関すること	40歳代	女性	-	<p>女性優遇には大反対。女性には女性に向いている仕事があり、そちらを重視すべき。管理職に女性がいると会社が混乱するのを何度も目にし、迷惑かけられた事も多々ある。女性は感情的になりやすく、部下の女性に対して男性の上司より厳しくあたりちらす。女の適は女、これを基本として物事を考えて欲しい。このアンケートは答えが偏っていて不快だった。</p> <p>女性にやさしくない市だと感じる。どこに相談して良いのかよく分からないし、男性がやはり、力もあり強い。パワハラを受けても我慢する世と感じる。警察もすぐには動かないし、行動しない。まず環境作りをしてほしい。駅周辺が暗くて歩きにくい。変質者も出没している。危険を感じるし、外灯も暗い。道も悪く、変な所に行き止まりの歩道があり入口、出口共、人一人分がやっつと意味がない。外灯は樹でかくれてしまっている。女性が身の危険を感じない様に街を実際に歩いて感じてほしい。又、市役所でも良いが行きやすい場所に町の相談窓口を作ったり、コンビニなど逃げ込める場所など考えて欲しい。女性助ける活動があるのか全く感じない。</p>
		男性	妻のみ就業	<p>男女間に平等はない。何故なら違う生物だから！男には子供が生まれないので現在の社会の様子に平等を求めると女性に全てを押し付ける形になるし、管理職については生物学的見地からも女性に統率できるのは少人数であり、海外でも女性管理職を増やして会社の業績が悪くなったところも少なくない！そもそも平等はあり得ない。男女の違いを認めた上で公平を実現させるべき。男女平等なんて言っている限り少子化が進む。このままでは日本の未来がない！聞きごちの悪い事ばかり言っているだけでもだめなのだ！</p>
	50歳代	女性	共働き	<p>・育児、保育施設も大切、働く女性を守る為にも・老人生活介護も男女共同参画社会にも関係あると思います。女性だけが仕事を休んだりやめたりして介護するのは…、その為にある程度の役職ポジションがとれても、介護の為諦めるとい事も多いと思います。老人クラブ的なものも各地域から減っているように思います。日中老人1人ではと…。育児が終われば介護、実に女性は疲労感が多い人生だと最近思います。</p>
				<p>男女平等に育っているのに、社会に出ると、世の中の仕組みは男性優位になっていると思う。それは、女性が出産・育児で仕事を離れる期間があるからだと思う。出産は女性にしかできないことだが、育児は男性でも出来るのだから。出産を機に、育児・家事を女性にまかせることなく、男女で分担し、女性もすぐに仕事復帰できるよう、保育又介護など、女性の労働に頼っていることを男女で分担し、それを社会がサポートし、家庭や子供を持った女性も社会で活躍できるようになってほしい。また、LGBT、性的マイノリティについては、それは個人の個性であり、差別してはいけないことを社会、職場、学校でしっかりと教えるべきだと思う。</p>
				<p>男性も女性もどんな職でも価値があり、個人の生活は職だけに限らず家庭生活も地域活動も含めて多くの人々が参画して理解されるような機会や教育を望む。まずは子供に女性社会で同等と教えられるような社会を。管理職も議会も性差なく同率に等しい数に据えて下さい。また、適切な時間内の仕事であって欲しい。</p>

6. 男女の性差等に関する事	60歳代	男性	共働き	男女共同参画社会の前に、男女の性の違いについて、男女相互に理解することが大事だと思っています。男も女も社会に出て、家事や育児の事は、社会制度にたよるのは間違っていると思います。人間である前に動物として、育児は母親がやるのが基本であり、その延長上に家事もあるのです。女性が社会進出するのはそれなりの事情があって、どうして育児や家事を他に頼らざるを得ない人、又は女性でも特にあることに能力があり、社会から要望されている人は、社会進出すべきでしょう！しかし、多くの女性は特別な事情があるわけでも、求められている訳でもないのに家事や育児を放棄して、社会進出して、金を欲しがります。貧乏しても、家事や育児に専念を放棄して、社会進出して、金を欲しがります。貧乏しても、家事や育児に専念するという基本姿勢を忘れてはいけません。いい生活をしたい。家も建てたい。旨い汁をすする為に子供を他人に任せる。子供にとって、一番母親が大事な時期と一緒にいてあげない。可哀想な話じゃありませんか！？男女共同参画社会という美談にかこつけて、家庭から逃げの正当化している女性が多いと思います。そこに一線を設け、社会進出すべき女性とそうでない方がいい女性と区別して、本当に必要な女性のみが男女共同参画できるようにすべきだと思います。
			夫のみ就業	社会制度等の完備により、男女平等社会が醸成されてきたが、充実している外国に比べ、遅れている。社会保険制度の改正も女性が働きにくくなっているように思う。少子高齢化社会に女性の労働力は欠かせない。真に女性が働きやすく、社会参加できる環境・制度を充実させるべきと考える。
			夫婦とも年金生活者	男と女の違い、個々人の違い、それらを認め合い、その上で、分け隔てなく、能力に応じて働くことのできる社会作りを目差すことが重要と思われる。動物に負けず劣らず、雌雄協力して子を育て死んでいくことの出来る社会でなければなりません。「公」は調整役であって計画(介入)であってはならないと考えます。万人の自由、欲求を調整する事は大変至難ではありますが、人が人として生まれ、人として一生を全うすることのできる社会を維持するために、市長はじめ、市職員の皆様の御健闘と御活躍をお祈りいたしております。
	60歳代	女性	共働き	女性を尊重して、(何%を女性になど)役員に抜擢するなど無意味。能力のある女性を登用していくことは大いに賛成ですが、能力のある男性をさしおいてということとはよくないこと。人をよく理解し、適材適所な配置が望ましい。上に立つ人の研鑽と能力が必要。性差というものは少なからずあるもので、それを無視した取り組みは無理を生じる。自分で選択できる多様性のある社会が望ましい。
			夫のみ就業	男性に男性の特長があり、女性にも女性の特長？特色？があり、ただ単に平等という事はあり得ないと思います。互いに助け合い、補い合うことが大切だと思います。質問の内容で仕事をしていないので答えが分からない事が多々ありました。その場合は想像して答えたので選択肢に「分からない」を入れて欲しかったです。
			夫婦とも年金生活者	「リュウホウ」は毎月2回読んでますが、H.21に取り込まれたことは知りませんでした。なかなか地域的に保守的な土地柄なので女性が積極的に参加する事はムリなので、青年団に女性が参加できるような体制があればと思います。色々な地域の役割を若い世代にするような取り組みをお願いしたい。自治会の役員 etc. シニア世代は若い世代を育てるように。
	70歳以上	男性	夫婦とも年金生活者	女性の肉体的精神的特性を十分理解した上での平等や共同参画を考える事。本来、すべての動物にはメス、オスの役割がある事を良く理解した上で男女共同参画社会を考えていく事。 女性の社会進出については、現在、日本が悩んでいる人手不足を解消する一助になることは間違いないと思われます。その条件として、女性の進出に支障となる事柄が数多く有りますので、そのひとつひとつを取り除くと同時に女性自身の意識を改革をしていく必要がある。その為には、広報を通じて幅広く市民に話しかけて行くことが必要ではないだろうか？ 男女の違いを認めた上での共同参画社会であるべきで男女相互の理解が最も必要であり重要である。
			妻のみ就業	男女とも教育を受けて女性もこれまでは男性が主であった職業に就いている女性が多く見られる時代になった事は大変喜ばしいことです。能力や価値観は各々違いますが女性は男性よりも細かい気づかい等が出来る方が多いのでその特性を重んじた職業につけてもらうことは大変いいと思う。となれば女性自身が今後龍ヶ崎市で社会で活躍できる職場を発掘し環境を整備し、具体策を始めるよう税金の使い道など政策に係ることに能力が発揮できるようにすべきです。市政へも積極的に参加できるよう広報すべきです。女性がやりがいのある市政ができれば、自分は何が出来るかを考え、社会に貢献したいと思われる方は地元にも増えてほしいです。閉鎖的な環境を変えてほしいです。男女共自分の地域の活性を望んでいます。
		夫婦とも年金生活者	常に感ずることはまだまだ男社会と思う日々です。	

7. 行政への 意見・要望に 関すること	30歳代	男性	夫のみ 就業	実状への深い理解に基づいた、上滑りのない議論から制度や取り組みを整えていただきたい。
		女性	夫のみ 就業	男女共同参画を進める上で、・保育所や幼稚園の受入体制・学童保育の時間延長・育児と両立できる支援体制の充実・意識改革・教育、学習支援を進める・給与、労働条件の改善等。これらのような、たくさんの課題を市民の賛同を得て実現することは簡単ではないと思います。ですが、幅広く柔軟に連携することができれば、より暮らしやすい場所になるのではないのでしょうか。
			-	調査するだけでなく、実際自分自身で社会の現実を見て肌で感じてどうしたいのかを考えて良い方向へ改善してほしいと思います。
	40歳代	男性	-	日本人は働き過ぎと言われます。まずは、年次休暇の取得、残業、休日出勤の禁止など、半ば強制的な制度を作らないと、意識を変えろ。と言っても始まらないと思います。もちろん、子供の頃から、男女共同参画についての教育をすることは必要です。女性の管理職も、何%にするとかある程度義務付けることも必要でしょう。言いたいことはまずは「制度」をきちんと作り、それから人々の「意識」がついてくるという形になると思います。歴史を見ても、そういった流で物事は変わっていきます。
		女性	共働き	男女共同参画社会についてみんなが周知されていないように思えます。「りゅーほー」などを通して広めることでみんなに周知されると思います。
	50歳代	男性	夫のみ 就業	意識調査は重要と思いますが、まとめた結果、具体的に優先度、コストを考え住民が無理なく住みやすい龍ヶ崎にしていきたい。
		女性	共働き	茨城に越してから30年程度経ちますが、越してから今日まで少しも改善されないのが、交通の便の悪さです。何か行政の活動を始めたとしても、仕事を探したくても、車が無ければできない事ばかりです。行政をどうという前に、先ずこの地域の活性化を進めるべく、交通の便を良くして欲しいです。何かをする為に、移動手段が無いのですから、皆が移動手段が無い為、車を運転するせいか、少し年輩の方の車の運転事故が心配です。安心して地域活動にも加われるようにして貰いたいです。
			-	是非実現を！
	60歳代	男性	共働き	よくわからないので行政にお任せします。 男女の平等の促進と改善を行政の実現、充実に向けての推進を希望する。
			その他	毎回アンケート用紙を貰う度に感じるのですが、お題目(今回は男女共同…)は立派でも、今まで何の成果が出ているようには思えません。多少は出ているのかもしれませんが末端である私達には届いている様にも見えません。国が主体になって旗振りをしているのですが、その国家が今の様な現状で一体何が出来ますか。政策はご立派でも、毎度毎度の「絵に描いた餅」です。お上がそんな状態なのですが、地方自治体では活動のスイッチも入らないのでは。このようなアンケートは良い事と思いますが、このアンケートを埋めるには結構な労力が必要です。もう少し市民にとって「実」の育てる物にしてもらいたいものです。ところが、アンケートは「無作為」とはありますが、私はすでに4回程貰っているのですが、おかしくないですか？
		女性	共働き	意見を聞いたり、行政の表面的な見直しだけではなく、実際の現場を眺めその場に合った具体的改善の取り組みを望みます。
			夫婦とも 年金生 活者	いろいろな制度があっても、本当に必要としている人に届いていないと思うので、改善してほしいと思う。 いままでと同じやり方ではない、形を考えてほしいと思います。
	70歳以上	男性	共働き	行政の指導力に期待します。
			夫のみ 就業	日本では、十分に女性の人権も職場も認められていると考えます。あえて、このような運動を推進する必要はない。この組織は解散した方が社会の平等に役立つと思う。
		女性	夫婦とも 年金生 活者	市ベースでの取組ではかえって行政をゆがめる恐れがある。国ベースでの取組にするべきで、その中で立地に即した優先事項を決めるべきと思う。
夫婦とも 年金生 活者			龍ヶ崎市の色々なことに関してニュータウンを中心に入れて働いている様な気がします。旧市内又佐貫方面にはこれといった力が入っていない様な気がします。もう少し方向について考えて頂きたいと思います。	

8. 社会全般 に関すること	20歳代	男性	-	女性自身の意識改革も大切であると考えている。男女平等と女性優遇は違う。男性と女性両方が仕事に同等のプライドを持ち、長く続く生涯を生きていくことが重要だと思う。
		女性	-	両親は私の幼い頃に離婚していて母親が病気になり、20代で親を養うも同然のなか高卒だと高収入は難しい社会なのが悲しい。満足な手当が病気の人に出ないのに関わらず男女共同参画社会というものを優先する事に意味があるのか分からないです。少しでも私みたいなつらい思いをする人が減ってほしい。ここに書いて読んでもらえるのなら、こういう市民もいると知って下さい。
	30歳代	男性	-	生活しやすい社会環境づくりを宜しくお願いします。
		女性	共働き	「男女共同参画」というようにすると「男性」「女性」の2分化だけで議論が進められるのはもったいないと感じます。LGBT、障がい者も全て含めての共同参画が理想と思います。又、「女性」といっても男性と一緒にキャリアを望む「バリキャリア」。キャリアそこそこに責任を持って仕事と家庭を両立させたい「ゆるキャリア」で考え方は全く違います。男性も同じかと思えます。どのような価値観でも受け入れられる。チャンスが与えられる「オーダーメイドの働き方」が許される社会であって欲しいし、私もワーキングマザーで日々過ごしながらか社会を創っていきたいと思います。
	40歳代	男性	-	日頃、男女共同参画社会についてあまり考えておりませんでした。今後は、理想とする社会について考えるようにしていきたいと思えます。
		女性	共働き	共働きでも収入はほぼ同額でも扶養控除は主人しか受けられず、子供を産まずに(産めるのに)主婦をしている方もいます。実家にたよりにできる人、できない人などたくさんいらっしゃる色々なパターンで、あらゆる人々がえらべる社会になると良いとおもいます。 調査票の設問が片寄っていると思えます。 あまり男女平等は望みません。でも今の世は、みんなが労働者にしようとしてるんです。だから賃金を下げられ、物価は上がり、おかしいことばかりです。子供は減少高齢化社会そんなの当たり前、男女同じになったら、結婚だつてしないでしょう。他人と生活を合わせるのは大変です。男性も女性子供の生活費を払いたくないだろうし扶養手当等も無くなり、結婚生活の良い所、ないですよ？1人で働いて好きな事してた方が楽しいですから。そんな人が増え相手回りの事など気にしなくなり、みんながバラバラです。つまらない社会です。楽しいのは年金いっぱい貰ってる老人です。私達の時代には貰えません。生活出来ません。恐いです。昔のように子供達が外を走り回っている社会が来ればいいですね。時代は流れてるので、仕方がないです。高齢化に向かって、負けずに頑張っていきます。
	50歳代	男性	共働き	実現するためには、社会全体が当たり前の事であると、認識させる事が出来ないと実現は、出来ないと思えます。 実現させようという取組は、大変良い事かと思えますが、その取組を行っている方は、偽善者扱いされるような気がします。少なくとも、私が生きている間には、実現する事は無いだろうと考えております。
		女性	共働き	男性と同じような給与体系を行い、管理職も男女の区別なく能力で選ばれるようにする。 保育所をふやすより子育て(3才くらいまでは)した後に、会社に戻る制度をきちんとする。育児休業を3年間とれるようにする。(3才までの幼児を長時間保育所に預けるのはどうかと思う。) 大都市、特に東京一局集中により(①政治、経済、企業本社機能、大学など)共働き家族が東京に住むという構造。①を地方にも分散することによってもっと女性と男性が協力しあつて社会参画、子育てがでやすくなるのではないかな？ 労働人口が減少している昨今は女性、特に若い女性や子育て中の女性も働かなければ、社会全体が成り立たないのかもしれませんが、家事や育児に専念したい人もいると思えます。自分で何の不安もない選択できるような社会になると良いですね。

8. 社会全般に関すること	60歳代	男性	妻のみ就業	道の駅、牛久沼開発等を法人とし、市として見本を見せる。良いチャンスではないでしょうか。市で全額出すのではなく、市民から株の様なスポンサーとなっただけ、市がそのNPO等に行政処分を行う。江の島がそれです。良い見本が有るので、良い事は取り込み、良い方向へ町や市や民を導く事。それが政治という事かと考えます。又、法人事の役員等は男女問わず可とし、実務にシルバーを多用すべきと考えます。これを期に龍ヶ崎市が手本となり又市民が年令問わず幸せになる事を願います。
			夫婦とも年金生活者	子供の育成についてはもっと子供は社会全体での見守りが必要であることを知らしめることが大事だと思う。また母親も働くことの、社会的意味や、責任感も良く理解してもらいたい。一人では社会が成立しないこと 協働や他者への思いやりを深める社会づくりを進めてほしい。
		女性	夫のみ就業	国だけでなく、龍ヶ崎市でも男女共同参画社会の実現に向けて、いろいろやっていたのですね。正直知りませんでした。自分自身がもう少し若ければ、もっといろいろと考えられることはあったと思いますが、もう卒業の年齢なので、これからの若い人達のために子育て、仕事が両立しやすい社会になって欲しいと思っています。
			無回答	10代、20代、30代の未来が明るく楽しく、充実した毎日が送っていける社会になり、希望のある生活ができることをこころから願っています。昔の子供のように無邪気に明るい心を持った子供達が沢山育っていくことが希望しています。
			-	男女共同も大切ですが、いろいろな年代の人々が協力して活動ができる様になって欲しいと願っています。
	70歳以上	男性	共働き	男女平等の教育は実っているから問題は少なくなっていると思う。ただ、高齢男性田舎者には無理でしょう。男女平等は女性には大いに仕事をしてもらいたい、最近では専業主婦が楽だという女性もおおくなっているようですが。
			夫婦とも年金生活者	アメリカの文化を受けて核家族中心の生活から従来の日本の文化の再考が必要。介護、保育、人口減少という社会問題の解決のためにも、女性は家庭内という考え方は良い面も悪い面もあり、世の中あらゆる事がバランス良く成り立っておれば現在日本がかかえている諸問題が解決されるのではないかと思います。
		女性	夫婦とも年金生活者	年齢的に高いので、私の時代は男女共同参画などの考え方はありませんでした。現在、少子高齢化の状況では、こういう状況は大いに考える必要があると思います。豊かに生活できる時代がくるのを(あらゆる面で)期待しています。
			その他	どこの集会へ行っても女性が多くもっと男性の方に参加してもらおう努力が必要と思う。平均寿命の関係か？
			-	龍ヶ崎の町全体が高齢化社会に年々増して来て、活気がなくなっているような気がします。もっと、若者が住みやすく、働きやすい街作りを考えて、子供達も住みやすい街を作りたいものです。その為には、私達高齢者も、育児に協力出来るよう常に隣近所と仲良くコンタクトをとって、活気のある、生きがいのある生活が出来ればと思っています。又、隣近所をみまわしても一人暮らしの方が随分いますが、お互いに1日1回気づかかって元気かどうかチェックしたりお話が出来るといいなと思っています。子育て中の方にも協力して差しあげたいとも思っています。 年齢を問わず一緒に社会、環境、町の美意識等…私達が住んでいる、身近な事を取り上げて(テーマにして)わきあいあいで話し合える場所がほしい。

9. 調査票や調査に関すること	20歳未満	女性	-	調査の結果も郵送して欲しいです。協力してもらった方には結果を送ると良いと思います。(りゅうほーではなく)	
	40歳代	男性	-	既婚対象者を前提とした質問が多く、未婚の対象者が回答する意味が不明。	
	50歳代	女性	共働き	この意識調査を龍ヶ崎市で実施して、どこまで、龍ヶ崎で実現できるのか…ほとんどできないのではないかと思います。全体的に考え方が田舎すぎです！！私は都内から龍ヶ崎市に転居してきましたが…20年住んでみて感じた事は、まだまだ回りの方の考え方が古い！！そんな中で、この調査を実施して、何になるのかわからない所があります。☆内容の項目…もう少しくだいた感じの方が選びやすい。あまりにも項目の内容が、かたすぎて選びづらい。この調査に関して、かかった費用が、もったいないと思います。	
			夫のみ就業	調査票全般的に回答が難しく感じました。日頃から「男女共同参画社会」について、あまり考える事がなかったからだと思います。考える機会をあたえていただきありがとうございます。	
	60歳代	女性	男性	-	調査には、当然人件費、印刷代等の費用が掛かる。本当に必要な調査なのか、費用を削減して行う調査のやり方を検討しているか。調査費用が役所の予算を消化する目的でないか。等を考えて調査実施してください。今回かけた費用については、それ以上の成果をあげてください。
			共働き	このような調査は意味が無いと思います。動いている様子が見えない。市議員が地元の代表であるので、議会でなく、直接町にとけこんだらどうか。訴えても行動するもの先頭に立った人がいなければ世の中も変わらないと思う。職場でも同じと思います。 ・＜少子化問題について＞の問がつかかった。簡単な質問なのに、子供ができなかった身としては、しみじみ苦しい。 ・女性管理職の場合、今までの男性管理職の時代を経験しているものとして感じる事なのですが女性の場合どうしても感情があらわになり上下関係が難しくなると思うのでそれなりの人間研修が必要だと思う。	
			夫婦とも年金生活者	とても簡単な質問と難しい質問の差がある。結構時間を取られた。たとえ、100円のカード等の謝礼があると良いと思いました。	
	70歳代	男性	共働き	私は74歳になってますので答えは不十分だと思いますが、余り地域活動も参加してませんが、週2回位のプールも図書館で本を読むぐらいです。ですので主に男女共同参画の問が多かったように思います但し本当のところはよく分かりませんで申し訳ありません。	
			夫婦とも年金生活者	年金生活者にとって既に過ぎ去った問題の質問が多く含まれ、回答に窮する所があった。 主人宛の意識調査でしたが、主人は高齢、入院中なので問に対して、回答がきちんと出来ませんでした。	
			その他	戦中、生まれの私達としては若干環境条件が異なる質問が多くありましたので、苦慮した所もありましたが、思い知らされる内容もありました。大変、活性化が計られました。	
			-	76歳の爺さんに、なんか書けと言われても困る。一応は思ってる所に○を付けました。是でよろしいでしょうか。	
	無回答	無回答	夫婦とも年金生活者	年金生活の為子育てやワーク・ライフ・バランスについてなど分かりませんでした。 内容等が私の年齢から少し離れた物だったので、ピントこなかった。すいません。	
			夫婦とも年金生活者	調査に要する費用に対してアウトプットをどの程度とみているのか？無駄な経費となっているのではないのか？調査によって何をされたのかフィードバックは？	

10. その他	20歳代	女性	-	本アンケートとは関わりのない内容ですが…龍ヶ崎に籍を置く音楽家などアーティストの“仕事”の場をもっと増やして頂きたいです。市のイベントに取り込んで頂けるだけで普段行政や芸術に触れる機会の薄い方々でもそうしたきっかけで興味を持つ方が出て来ると思います。興味を持つための足掛かりを求めている方は多いのではないかと常日頃音楽活動をしていて、肌で感じています。せっかく合唱の文化が根付いている龍ヶ崎なのですからもっと芸術に力を入れた市になって欲しいです。そしてゆくゆくは芸術家が生きて行ける場所になればとても素晴らしいと思います。
	40歳代	男性	夫のみ就業	今件に関しては、本人の自由なところもあるので現状より行政が力を入れる必要は無いように思える。ゆとりがあって幸せな生活がすごせる環境の整備に力を入れて欲しい。(公園の整備やマラソン大会などのイベント) 「男女共同参画社会の実現」という意味が分かりません。どのような状況となれば「～実現」されたとなるのか？そもそも日頃から「男女共同参画社会」について考えるような事はありません。また、その言葉の意味もよくわかりません。だれにでも具体的にわかるような理解が深まるような啓発活動が必要ではないでしょうか！
			-	今迄このような内容について考えたこともなかったので現段階ではわかりません。
	50歳代	男性	-	特にはありませんが、これを機会に男女共同参画社会について、考えてみたいと少し思いました。
		女性	共働き	消費税の値上げはちょっと大変です。時給が最低賃金は会社の事でしょうが茨城県全体がもう少し値上げして頂ければ……愚痴ですかね？
			夫のみ就業	高齢者の介護制度や施設の充実。気軽に相談できる場所(窓口)あっても知らない事が多いので、ピーアール(広報)してほしいです。
			妻のみ就業	老後を不安なく暮らせる社会にしてほしい。
	60歳代	男性	夫のみ就業	余計なことを書いたと思います。申し訳ありませんでした。
			-	今迄男女共同参画社会についてより知らずにいたので、特にありません。
		女性	共働き	2017.10.17に東京ウィメンズプラザ(表参道駅)に立ち寄ったところ、図書室やロビーに大量の資料がありましたので、少し、ピックアップしてまいりました。よろしかったら、ご参考に
			夫のみ就業	・龍ヶ崎市(佐貫駅の駅ビルの建設と充実を希望！)・免許の無い人々の為、バス移動の充実タクシーの値段を下げる。
				老・老介護。2020年に、老人が龍ヶ崎市の人口の何%？
			夫婦とも年金生活者	私は69歳の女性です。結婚して21年間藤代で生活し3人の子供に恵まれました。すごく子育てには長家のような感じ手を差し伸べてくれました。龍ヶ崎の小柴県営住宅で22年間住んでおります。地域的(駅にも近く、買物も便利、日当たりが良く)とても今は暮らしやすいです。松葉コミュニティセンターでは色々な活動がありサークル、牛久で働きながら「キンモクセイ」と言うコーラスに入りました。でも経済的な事と健康が良くなって、旧市内の「コールひまわり」という所に入りました。私は中間点におりますので幸いコミュニティバスを利用して旧市内人優しくて田舎っぺいといっは失礼なんです人情味があります。年金暮らしにこんな幸せなひと時あるなんて龍ヶ崎音祭、合唱祭に向かって、一生懸命です。私用だけをかいてしまいました。(旧の龍ヶ崎、シャンター街もったいないなど)
				課題として提案させていただきます。地域によっては一人暮らしの高齢者が多く、交通の便も悪いため、日常生活用品の調達にも支障が出ているように思われます。また、福祉制度についても、はがきや筆書きで届いても、内容の理解が出来なかったり、申請や手続きの仕方がわからない。その上届けることも出来ない等。地域の民生委員の方だけでは不十分かと思ひます。一つ一つ細かいことでも毎日の生活においては大きな問題となります。何らかの事務的なことについては、行政側から個別に知らせたり、確認をとったりして貰えると助かると思ひます。まとまりがなく申し訳ありません。
		福祉均一の「ディーサービス」が無くなってしまいました。今後再び実現する事はないのでしょうか。老人がどんどん人多くなって行くので再実現を1日も早くお願いしたい。		
	その他	私達60歳以上で年金受給だけでは生活が出来ず働く場所、時間も希望に合う仕事場を探す事がとても難しい。特に65歳以上になると、なおむずかしい。子育ても老後も安心して、生活できる、福祉環境作りを希望します。		
	-	大人ばかりで生活しています。子供会、PTA等の活動からは携わりは全くななくなってしまっています。今は仕事に専念していますが、辞めたら地域の活動にも携われる事から携わっていきたく思っています。		

10. その他	70歳以上	女性	夫のみ 就業	現在、70歳以上の方が多く今、70歳までの仕事ときめつけない。多くの人達が仕事のできる、老後収入も得られる。安定した生活が送れるように働きたい人の為に。
			夫婦とも 年金生 活者	70才以上になっていますので考えや行動が出来ません。申し訳ありません。
			-	既婚でいたが死別をしたら生活が苦しくなったのもう少し余裕のある生活が出来る様な龍ヶ崎にしてほしい。

《男女共同参画社会についてお伺いします》

問1 「男女共同参画社会」について、どのようなイメージをお持ちですか。次の中から3つお選びください。

- | | |
|----------------|--------------------|
| 1 暮らしやすい社会 | 2 活気がある社会 |
| 3 公正な社会 | 4 窮屈（きゅうくつ）な社会 |
| 5 混乱した社会 | 6 男性の権利や尊厳が損なわれる社会 |
| 7 女性だけが優遇される社会 | 8 全ての人が尊重される社会 |
| 9 その他（ | ） |

◆◆◆ 男女共同参画社会とは ◆◆◆

男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会と利益を享受し、共に責任を担うべき社会の事です。

問2 男女共同参画社会の実現について、あなたのお考えに最も近いものを、次の中から1つお選びください。

- 1 男女の違いを認めただけでなら、実現に向けて取り組む必要があると思う
- 2 男女共同参画社会の実現を目指して、ぜひ取り組んでいく必要があると思う
- 3 男女共同参画社会はすでに実現されているので、特に取り組む必要はないと思う
- 4 男女共同参画社会そのものに賛成できないので、特に取り組む必要はないと思う
- 5 わからない
- 6 その他（

問3 次にあげる言葉や取組みの中で、見たり聞いたりしたことがあるものをすべてお選びください。

- 1 男女共同参画社会基本法
- 2 女子差別撤廃条約
- 3 男女雇用機会均等法
- 4 育児・介護休業法
- 5 女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）
- 6 DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）
- 7 社会的・文化的に形成された性別（ジェンダー）
- 8 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
- 9 茨城県男女共同参画推進条例
- 10 龍ヶ崎市男女共同参画推進条例
- 11 龍ヶ崎市役所の育児休業取得率100%
- 12 見たり聞いたりしたものはない

《男女平等意識についてお伺いします》

問7 次にあげる分野において、男女平等になっていると思いますか。
 (1)～(8)のそれぞれの項目ごとに1つずつお選びください。

	男性が優遇 されている	やや男性が 優遇されて いる	平等になっ ている	やや女性が 優遇されて いる	女性が優遇 されている
(1) 家庭生活では	1	2	3	4	5
(2) 職場では	1	2	3	4	5
(3) 教育の場では	1	2	3	4	5
(4) 社会活動の場では	1	2	3	4	5
(5) 法律や制度上では	1	2	3	4	5
(6) 政治の場では	1	2	3	4	5
(7) しきたりや慣習では	1	2	3	4	5
(8) 社会全体としては	1	2	3	4	5

問8 今後、男性と女性が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、重要だと思うことは何ですか。次の中から2つお選びください。

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1 女性の経済力の向上 | 2 女性の政治・行政への参加 |
| 3 女性の自覚と責任感の向上 | 4 男性の理解と協力 |
| 5 法律や制度の改正 | 6 社会経済の仕組みの改正 |
| 7 学校や家庭における男女平等教育の徹底 | 8 しきたりや慣習の改善 |
| 9 特にない | |
| 10 その他 () | |

《人権問題についてお伺いします》

問9 配偶者や恋人からの身体的・精神的な暴力(DV)について、直接被害を受けたことや、身近で見聞きしたことがありますか。(1)(2)の中からそれぞれ1つずつお選びください。

(1) 自分自身について

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 直接被害を受けたことがある | 2 直接被害を受けたことはない |
|-----------------|-----------------|

(2) 友人や知人など自分以外の人について

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 見聞きしたことがある | 2 見聞きしたことはない |
|--------------|--------------|

問9-1 問9の(1)で「1 直接被害を受けたことがある」を選んだ方にお伺いします。
その時、どこかに相談したりしましたか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

- | | | |
|-----------|------------|-----------|
| 1 知人・友人 | 2 家族・親戚 | 3 警察 |
| 4 弁護士 | 5 行政の相談機関 | 6 民間の相談機関 |
| 7 相談しなかった | 8 相談できなかった | |
| 9 その他 (| |) |

問9-2 問9-1で「7 相談しなかった」「8 相談できなかった」と答えた方にお伺いします。
相談しなかったのはなぜですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

- 1 どこ(誰)に相談してよいのかわからなかったから
- 2 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
- 3 相談しても無駄だと思ったから
- 4 相談したことが分かると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
- 5 世間体が悪いから
- 6 他人を巻き込みたくなかったから
- 7 自分さえ我慢すればいいと思ったから
- 8 自分に悪いところがあると思ったから
- 9 その他 (

問10 性的嫌がらせ(セクハラ)について、直接被害を受けたことや、身近で見聞きしたことがありますか。(1)(2)の中からそれぞれ1つずつお選びください。

(1) 自分自身について

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 直接被害を受けたことがある | 2 直接被害を受けたことはない |
|-----------------|-----------------|

(2) 友人や知人など自分以外の人について

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 見聞きしたことがある | 2 見聞きしたことはない |
|--------------|--------------|

問10-1 問10の(1)で「1 直接被害を受けたことがある」を選んだ方にお伺いします。
その時、どこかに相談したりしましたか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

- | | | |
|-----------|-----------|------------|
| 1 知人・友人 | 2 上司・同僚 | 3 家族・親戚 |
| 4 警察 | 5 弁護士 | 6 行政の相談機関 |
| 7 民間の相談機関 | 8 相談しなかった | 9 相談できなかった |
| 10 その他 (| |) |

問10-2 問10-1で「8 相談しなかった」「9 相談できなかった」と答えた方にお伺いします。相談しなかったのはなぜですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

- 1 どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから
- 2 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
- 3 相談しても無駄だと思ったから
- 4 相談したことが分かると、仕返しを受けたり、もっとひどい被害を受けると思ったから
- 5 世間体が悪いから
- 6 他人を巻き込みたくなかったから
- 7 自分さえ我慢すればいいと思ったから
- 8 自分に悪いところがあると思ったから
- 9 その他（)

《就労についてお伺いします》

問11 女性が仕事を持つことについて、理想的だと思うものを次の中から1つお選びください。

- 1 結婚し、子どもが生まれても、仕事を続ける
- 2 結婚するまでは仕事を続けるが、結婚したら仕事をやめる
- 3 子どもが生まれるまでは仕事を続けるが、子どもが生まれたら仕事をやめる
- 4 子どもが生まれたら仕事をやめるが、子どもが成長したら、再び仕事につく
- 5 一生仕事を持たない
- 6 その他（)
- 7 わからない

問12 女性が仕事を続けていくうえで、支障となるものは何だと思えますか。次の中から3つ以内でお選びください。

- 1 家族の理解が得られないこと
- 2 夫が家庭のことに非協力的なこと
- 3 子育てとの両立
- 4 介護との両立
- 5 仕事についての能力を職場で正当に評価されないこと
- 6 中高年の女性に対する退職等の圧力
- 7 結婚や出産を契機として、退職する慣行があること
- 8 遠方への転勤
- 9 わからない
- 10 支障になることは特にない
- 11 その他（)

問 13 男性も女性も働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
次の中から3つお選びください。

- 1 家庭内での家事労働や育児の分担
- 2 働き方の実情に見合った保育所や幼稚園の受入体制の改善
- 3 学童保育における時間延長などの受入体制の改善
- 4 育児休業制度など育児と両立できる支援体制の充実
- 5 介護休暇制度など介護や看護との両立を支援
- 6 ホームヘルパー制度などの家事援助制度の充実
- 7 様々な雇用条件（昇給や昇進）など労働の場における男女平等
- 8 家事の省力化や外部の家事サービスの利用による家事負担の軽減
- 9 労働時間の短縮やフレックスタイム制の導入
- 10 その他（)
- 11 わからない

《ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）についてお伺いします》

問 14 生活の中で、「仕事」「家庭生活」「地域活動」の状況について、理想はどうあるべきだと思いますか。また、実際はどうですか。次の中からそれぞれ1つお選びください。
（現在、仕事を行っていない方は、今後のお考えをお答えください。）

《理想》

- 1 「仕事」に専念したい
- 2 「家庭生活」又は「地域活動」にも携わりつつ、「仕事」を優先したい
- 3 「家庭生活」又は「地域活動」と「仕事」を両立したい
- 4 「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」または「地域活動」を優先したい
- 5 「家庭生活」または「地域活動」に専念したい
- 6 よくわからない

《実際》

- 1 「仕事」に専念している
- 2 「家庭生活」又は「地域活動」にも携わりつつ、「仕事」を優先している
- 3 「家庭生活」又は「地域活動」と「仕事」を両立している
- 4 「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」または「地域活動」を優先している
- 5 「家庭生活」または「地域活動」に専念している
- 6 よくわからない

問 18 育児の必要が生じた場合、育児休暇を取りますか。次の中から1つお選びください。

- 1 積極的に取る
- 2 状況が許せば取るかもしれない
- 3 後々、勤務先の待遇面で不利になる恐れがあるので取りたくない
- 4 短い期間だったら取りたい
- 5 絶対取らない
- 6 わからない

問 19 育児に関わろうとするとき、支障となるものは何だと思えますか。次の中から2つ以内でお選びください。

- 1 育児休暇などの制度が整っていないこと
- 2 育児に参加することに対する周囲の偏見
- 3 自分が育児に参加することへの心理的抵抗
- 4 育児能力の不足
- 5 仕事が忙しい
- 6 その他 ()
- 7 わからない
- 8 特になし

《少子化問題についてお伺いします》

問 20 あなたの理想とする子どもの数は何人ですか。次の中から1つお選びください。

- 1 1人 2 2人 3 3人 4 4人以上 5 0人

問 21 実際の子どもの数(又は子育てできると思う数)は何人ですか。次の中から1つお選びください。

- 1 1人 2 2人 3 3人 4 4人以上 5 0人

問 22 問20の理想とする子どもの数より、問21の実際の子どもの数のほうが少ない方にお伺いします。

子どもの数が少ない理由は何ですか。次の中から2つお選びください。

- 1 子育てのための経済的負担が大きいから
- 2 子どもが将来どう育つか不安になるなど、精神的負担が大きいから
- 3 子育てのための肉体的負担が大きいから
- 4 仕事と子育ての両立が困難だから
- 5 子育てより自分の時間を大切にしたいから
- 6 住宅事情が悪いから
- 7 年齢的あるいは健康上の理由から
- 8 その他 ()

《性的マイノリティについてお伺いします》

問 23 「性的マイノリティ」や「LGBT」といった言葉を聞いたことがありますか。
次の中から1つお選びください。

- 1 聞いたことがある（意味も知っている）
- 2 聞いたことがある（意味は知らない）
- 3 聞いたことがない

◆◆◆ 性的マイノリティとは ◆◆◆

性別違和（「体の性」と「こころの性」が一致しない状態）の人や恋愛感情などの性的な意識が同性や両性に向かう人（同性愛、両性愛）、自分の性別や性的指向に確信が持てない人などの総称。セクシュアル・マイノリティや性的少数者とも言われます。

LGBT（L：レズビアン G：ゲイ B：バイセクシュアル T：トランスジェンダー）もこの中に含まれます。

問 24 「性的マイノリティ」の人たちが暮らしやすい社会をつくるためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。次の中から2つお選びください。

- 1 同性婚を認めるなどの社会制度の見直し（法改正など）
- 2 教育現場での啓発活動（性的マイノリティに関する講演会や授業など）
- 3 行政による啓発活動（広報誌やポスターによる性的マイノリティに関しての発信など）
- 4 性的マイノリティについての専門の相談体制（電話相談や面接相談など）の充実
- 5 性的マイノリティの人たちが安心して集まれる場や機会の充実
- 6 その他（)

《地域活動についてお伺いします》

問 25 今までに次のような地域活動などに参加した経験がありますか。
 (1) ~ (10) のそれぞれの項目ごとに1つずつお選びください。

	・参加して役員をしている ・参加して役員をしたことがある	・参加している ・参加したことがある	参加したことがない
(1) 自治会・町内会など	1	2	3
(2) 子ども会など子ども関連の活動	1	2	3
(3) P T Aや保護者会などの活動	1	2	3
(4) 福祉に関する活動	1	2	3
(5) 環境に関する活動	1	2	3
(6) 男女共同参画に関する活動	1	2	3
(7) まちづくりなどの活動	1	2	3
(8) 趣味やスポーツ、学習などの活動	1	2	3
(9) 行政主催の教室や講座など	1	2	3
(10) その他 ()	1	2	3

《男女共同参画社会の実現のための行政への要望についてお伺いします》

問 26 男女共同参画社会の実現に向けて、今後、行政が特に力を入れるべきだと思う施策を、次の中から3つ以内でお選びください。

- 1 職場における男女平等の促進
- 2 給与・労働条件の改善
- 3 経営者や事業者を対象とした女性活躍のための意識啓発
- 4 就労機会の充実
- 5 行政の政策決定などへの女性の参加促進
- 6 男女共同参画意識を育てる学校教育・社会教育の推進
- 7 男女相互に理解を深めるための学習機会の充実
- 8 職業教育の充実
- 9 育児・保育施設の充実
- 10 高齢者や病人の介護制度や施設の充実
- 11 女性の健康管理体制の充実
- 12 女性問題に関するシンポジウムの開催
- 13 その他 ()

2. 集計結果表

発送数：3,000 件 有効回収数：1100 件 有効回収率：36.7%

- ・ n は回答者数
- ・ %の計算は、「n」を分母とし小数第2位を四捨五入しているため、単数回答でも%の合計が100%にならない場合がある
- ・ 複数回答では、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・ SA：単数回答／MA：複数回答

《あなたご自身の事柄について》

F1 あなたの性別は

(SA)

	項目	件数	%
1	男性	484	44.0
2	女性	609	55.4
	無回答	7	0.6
	不明	0	0.0
	n(回答者数)	1,100	100.0

F2 あなたの年齢は

(SA)

	項目	件数	%
1	20歳未満	20	1.8
2	20～29歳	89	8.1
3	30～39歳	108	9.8
4	40～49歳	172	15.6
5	50～59歳	193	17.5
6	60～69歳	334	30.4
7	70歳以上	179	16.3
	無回答	5	0.5
	不明	0	0.0
	n(回答者数)	1,100	100.0

F3 あなたは、次の小学校区のどこにお住まいですか。

(SA)

項目	件数	%
1 龍ヶ崎小学校区	120	10.9
2 大宮小学校区	45	4.1
3 八原小学校区	135	12.3
4 馴柴小学校区	180	16.4
5 川原代小学校区	66	6.0
6 龍ヶ崎西小学校区	112	10.2
7 松葉小学校区	77	7.0
8 長山小学校区	83	7.5
9 馴馬台小学校区	75	6.8
10 久保台小学校区	91	8.3
11 城ノ内小学校区	102	9.3
上記無回答(地区・町名等記入)	0	0.0
無回答	7	0.6
不明	7	0.6
n(回答者数)	1,100	100.0

F4 あなたの現在の職業は何ですか。

(SA)

項目	件数	%
1 自営業・家族従業	90	8.2
2 経営・管理職	58	5.3
3 事務職	86	7.8
4 専門・技術職	132	12.0
5 労務・サービス業	81	7.4
6 主婦(パート・内職)	155	14.1
7 専業主婦・専業主夫	157	14.3
8 学生	36	3.3
9 無職	234	21.3
10 その他	64	5.8
無回答	7	0.6
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

F5 あなたは、結婚していますか。

(SA)

項目	件数	%
1 既婚(配偶者あり)	810	73.6
2 既婚(離別・死別)	105	9.5
3 未婚	182	16.5
無回答	3	0.3
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

F5-1 F5で、「1 既婚(配偶者あり)」を選んだ方にお伺いします。
あなたは、共働きですか。

(SA)

項目	件数	%
1 共働き家庭(夫婦ともフルタイム)	146	18.0
2 共働き家庭(一方がパートタイマー・内職など)	211	26.0
3 夫のみ就業家庭	159	19.6
4 妻のみ就業家庭	43	5.3
5 夫婦とも年金生活者	222	27.4
6 その他	21	2.6
無回答	8	1.0
不明	0	0.0
n(回答者数)	810	100.0

F6 現在、あなたのお宅の家族構成は、次のどれにあたりますか。

(SA)

項目	件数	%
1 ひとり暮らし	73	6.6
2 夫婦のみの世帯	310	28.2
3 二世帯(親と子(未婚))	500	45.5
4 二世帯(親と子(既婚))	73	6.6
5 三世帯(親と子と孫)	89	8.1
6 その他	37	3.4
無回答	18	1.6
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

《男女共同参画社会について》

問1 「男女共同参画社会」について、どのようなイメージをお持ちですか。次の中から3つお選びください。

(MA)

項目	件数	%
1 暮らしやすい社会	528	48.0
2 活気がある社会	469	42.6
3 公正な社会	714	64.9
4 窮屈(きゆうくつ)な社会	63	5.7
5 混乱した社会	67	6.1
6 男性の権利や尊厳が損なわれる社会	52	4.7
7 女性だけが優遇される社会	47	4.3
8 全ての人が尊重される社会	670	60.9
9 その他	72	6.5
無回答	12	1.1
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	-

問2 男女共同参画社会の実現について、あなたのお考えに最も近いものを、次の中から1つお選びください。

(SA)

項目	件数	%
1 男女の違いを認めたらうでなら、実現に向けて取り組む必要があると思う	599	54.5
2 男女共同参画社会の実現を目指して、ぜひ取り組んでいく必要があると思う	331	30.1
3 男女共同参画社会はすでに実現されているので、特に取り組む必要はないと思う	27	2.5
4 男女共同参画社会そのものに賛成できないので、特に取り組む必要はないと思う	9	0.8
5 わからない	106	9.6
6 その他	14	1.3
無回答	14	1.3
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

問3 次にあげる言葉や取組みの中で、見たり聞いたりしたことがあるものをすべてお選びください。

(MA)

項目	件数	%
1 男女共同参画社会基本法	352	32.0
2 女子差別撤廃条約	240	21.8
3 男女雇用機会均等法	905	82.3
4 育児・介護休業法	776	70.5
5 女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)	239	21.7
6 DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)	743	67.5
7 社会的・文化的に形成された性別(ジェンダー)	295	26.8
8 ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	433	39.4
9 茨城県男女共同参画推進条例	84	7.6
10 龍ヶ崎市男女共同参画推進条例	80	7.3
11 龍ヶ崎市役所の育児休業取得率100%	79	7.2
12 見たり聞いたりしたものはない	58	5.3
無回答	19	1.7
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	-

《家庭生活について》

問4 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。
1つお選びください。

(SA)

項目	件数	%
1 そう思う	57	5.2
2 そうは思わない	693	63.0
3 どちらともいえない	347	31.5
無回答	3	0.3
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

問5 家庭とは、どうあるべきだと思いますか。次の中から1つお選びください。

(SA)

項目	件数	%
1 男性は仕事、女性は家事・育児に役割を分担する	31	2.8
2 男性は仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする	255	23.2
3 男性も女性も仕事をし、家事・育児は主に女性が分担する	27	2.5
4 男性も女性も仕事をし、家事・育児も男性と女性で分担する	608	55.3
5 男性も女性も仕事をし、家事・育児は家族や家政婦(ベビーシッターなど)に協力してもらう	33	3.0
6 女性は仕事、男性は家事・育児に役割を分担する	1	0.1
7 その他	93	8.5
8 わからない	49	4.5
無回答	3	0.3
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

問6 では、実際にあなたの家庭ではどうなっていますか。
またはどうなっていると思いますか。次の中から1つお選びください。

(SA)

項目	件数	%
1 男性は仕事、女性は家事・育児に役割を分担している	210	19.1
2 男性は仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をしている	247	22.5
3 男性も女性も仕事をし、家事・育児は主に女性が分担している	207	18.8
4 男性も女性も仕事をし、家事・育児も男性と女性で分担している	165	15.0
5 男性も女性も仕事をし、家事・育児は家族や家政婦(ベビーシッターなど)に協力してもらっている	7	0.6
6 女性は仕事、男性は家事・育児に役割を分担している	4	0.4
7 その他	165	15.0
8 わからない	63	5.7
無回答	32	2.9
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

《男女平等意識について》

問7 次にあげる分野において、男女平等になっていると思いますか。

(1)～(8)のそれぞれの項目ごとに1つずつお選びください。

(1) 家庭生活では

(SA)

項目	件数	%
1 男性が優遇されている	158	14.4
2 やや男性が優遇されている	456	41.5
3 平等になっている	378	34.4
4 やや女性が優遇されている	63	5.7
5 女性が優遇されている	16	1.5
無回答	29	2.6
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

(2) 職場では

(SA)

項目	件数	%
1 男性が優遇されている	266	24.2
2 やや男性が優遇されている	417	37.9
3 平等になっている	282	25.6
4 やや女性が優遇されている	65	5.9
5 女性が優遇されている	12	1.1
無回答	58	5.3
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

(3) 教育の場では

(SA)

項目	件数	%
1 男性が優遇されている	34	3.1
2 やや男性が優遇されている	180	16.4
3 平等になっている	765	69.5
4 やや女性が優遇されている	44	4.0
5 女性が優遇されている	5	0.5
無回答	72	6.5
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

(4) 社会活動の場では

(SA)

項目	件数	%
1 男性が優遇されている	130	11.8
2 やや男性が優遇されている	461	41.9
3 平等になっている	396	36.0
4 やや女性が優遇されている	57	5.2
5 女性が優遇されている	5	0.5
無回答	51	4.6
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

(5) 法律や制度上では

(SA)

項目	件数	%
1 男性が優遇されている	115	10.5
2 やや男性が優遇されている	384	34.9
3 平等になっている	458	41.6
4 やや女性が優遇されている	67	6.1
5 女性が優遇されている	17	1.5
無回答	59	5.4
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

(6) 政治の場では

(SA)

項目	件数	%
1 男性が優遇されている	354	32.2
2 やや男性が優遇されている	452	41.1
3 平等になっている	221	20.1
4 やや女性が優遇されている	24	2.2
5 女性が優遇されている	6	0.5
無回答	43	3.9
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

(7) しきたりや慣習では

(SA)

項目	件数	%
1 男性が優遇されている	345	31.4
2 やや男性が優遇されている	513	46.6
3 平等になっている	162	14.7
4 やや女性が優遇されている	34	3.1
5 女性が優遇されている	6	0.5
無回答	40	3.6
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

(8) 社会全体としては

(SA)

項目	件数	%
1 男性が優遇されている	171	15.5
2 やや男性が優遇されている	651	59.2
3 平等になっている	191	17.4
4 やや女性が優遇されている	40	3.6
5 女性が優遇されている	7	0.6
無回答	40	3.6
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

問8 今後、男性と女性が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、重要だと思うことは何ですか。次の中から2つお選びください。

(MA)

項目	件数	%
1 女性の経済力の向上	288	26.2
2 女性の政治・行政への参加	137	12.5
3 女性の自覚と責任感の向上	281	25.5
4 男性の理解と協力	532	48.4
5 法律や制度の改正	158	14.4
6 社会経済の仕組みの改正	240	21.8
7 学校や家庭における男女平等教育の徹底	162	14.7
8 しきたりや慣習の改善	252	22.9
9 特にない	38	3.5
10 その他	20	1.8
無回答	5	0.5
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	-

《人権問題について》

問9 配偶者や恋人からの身体的・精神的な暴力(DV)について、直接被害を受けたことや、身近で見聞きしたことがありますか。

(1)(2)の中からそれぞれ1つずつお選びください。

(1)自分自身について

(SA)

項目	件数	%
1 直接被害を受けたことがある	82	7.5
2 直接被害を受けたことはない	1,001	91.0
無回答	17	1.5
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

(2)友人や知人など自分以外の人について

(SA)

項目	件数	%
1 見聞きしたことがある	363	33.0
2 見聞きしたことはない	725	65.9
無回答	12	1.1
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

問9-1 問9の(1)で「1 直接被害を受けたことがある」を選んだ方にお伺いします。その時、どこかに相談したりしましたか。

次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

(MA)

項目	件数	%
1 知人・友人	20	24.4
2 家族・親戚	26	31.7
3 警察	8	9.8
4 弁護士	4	4.9
5 行政の相談機関	8	9.8
6 民間の相談機関	2	2.4
7 相談しなかった	23	28.0
8 相談できなかった	14	17.1
9 その他	3	3.7
無回答	4	4.9
不明	0	0.0
n(回答者数)	82	-

問9-2 問9-1で「7 相談しなかった」「8 相談できなかった」と答えた方にお伺いします。相談しなかったのはなぜですか。
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

(MA)

項目	件数	%
1 どこ(誰)に相談してよいかわからなかったから	9	25.7
2 恥ずかしくて誰にも言えなかったから	9	25.7
3 相談しても無駄だと思ったから	20	57.1
4 相談したことが分かる、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから	6	17.1
5 世間体が悪いから	5	14.3
6 他人を巻き込みたくなかったから	6	17.1
7 自分さえ我慢すればいいと思ったから	14	40.0
8 自分に悪いところがあると思ったから	5	14.3
9 その他	8	22.9
無回答	3	8.6
不明	0	0.0
n(回答者数)	35	-

問10 性的嫌がらせ(セクハラ)について、直接被害を受けたことや、身近で見聞きしたことがありますか。

(1)(2)の中からそれぞれ1つずつお選びください。

(1)自分自身について

(SA)

項目	件数	%
1 直接被害を受けたことがある	78	7.1
2 直接被害を受けたことはない	983	89.4
無回答	39	3.5
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

(2)友人や知人など自分以外の人について

(SA)

項目	件数	%
1 見聞きしたことがある	303	27.5
2 見聞きしたことはない	748	68.0
無回答	49	4.5
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

問10-1 問10の(1)で「1 直接被害を受けたことがある」を選んだ方にお伺いします。その時、どこかに相談したりしましたか。
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

(MA)

項目	件数	%
1 知人・友人	22	28.2
2 上司・同僚	28	35.9
3 家族・親戚	10	12.8
4 警察	2	2.6
5 弁護士	0	0.0
6 行政の相談機関	0	0.0
7 民間の相談機関	0	0.0
8 相談しなかった	27	34.6
9 相談できなかった	12	15.4
10 その他	4	5.1
無回答	3	3.8
不明	0	0.0
n(回答者数)	78	-

問10-2 問10-1で「8 相談しなかった」「9 相談できなかった」と答えた方にお伺いします。相談しなかったのはなぜですか。
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

(MA)

項目	件数	%
1 どこ(誰)に相談してよいのかわからなかったから	9	27.3
2 恥ずかしくて誰にも言えなかったから	9	27.3
3 相談しても無駄だと思ったから	19	57.6
4 相談したことが分かると、仕返しを受けたり、もっとひどい被害を受けると思ったから	5	15.2
5 世間体が悪いから	4	12.1
6 他人を巻き込みたくなかったから	2	6.1
7 自分さえ我慢すればいいと思ったから	9	27.3
8 自分に悪いところがあると思ったから	4	12.1
9 その他	5	15.2
無回答	4	12.1
不明	0	0.0
n(回答者数)	33	-

《就労について》

問11 女性が仕事を持つことについて、理想的だと思うものを次の中から1つお選びください。

(SA)

項目	件数	%
1 結婚し、子どもが生まれても、仕事を続ける	406	36.9
2 結婚するまでは仕事を続けるが、結婚したら仕事をやめる	21	1.9
3 子どもが生まれるまでは仕事を続けるが、子どもが生まれたら仕事をやめる	25	2.3
4 子どもが生まれたら仕事をやめるが、子どもが成長したら、再び仕事につく	542	49.3
5 一生仕事を持たない	5	0.5
6 その他	45	4.1
7 わからない	45	4.1
無回答	11	1.0
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

問12 女性が仕事を続けていくうえで、支障となるものは何だと思いませんか。次の中から3つ以内でお選びください。

(MA)

項目	件数	%
1 家族の理解が得られないこと	322	29.3
2 夫が家庭のことに非協力的なこと	547	49.7
3 子育てとの両立	812	73.8
4 介護との両立	316	28.7
5 仕事についての能力を職場で正當に評価されないこと	187	17.0
6 中高年の女性に対する退職等の圧力	119	10.8
7 結婚や出産を契機として、退職する慣行があること	271	24.6
8 遠方への転勤	155	14.1
9 わからない	28	2.5
10 支障になることは特にない	21	1.9
11 その他	35	3.2
無回答	9	0.8
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	-

問13 男性も女性も働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つお選びください。

(MA)

項目	件数	%
1 家庭内での家事労働や育児の分担	604	54.9
2 働き方の実情に見合った保育所や幼稚園の受入体制の改善	630	57.3
3 学童保育における時間延長などの受入体制の改善	247	22.5
4 育児休業制度など育児と両立できる支援体制の充実	473	43.0
5 介護休暇制度など介護や看護との両立を支援	256	23.3
6 ホームヘルパー制度などの家事援助制度の充実	99	9.0
7 様々な雇用条件(昇給や昇進)など労働の場における男女平等	273	24.8
8 家事の省力化や外部の家事サービスの利用による家事負担の軽減	68	6.2
9 労働時間の短縮やフレックスタイム制の導入	411	37.4
10 その他	23	2.1
11 わからない	33	3.0
無回答	15	1.4
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	-

《ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について》

問14 生活の中で、「仕事」「家庭生活」「地域活動」の状況について、理想はどうあるべきだと思いますか。

また、実際はどうですか。次の中からそれぞれ1つお選びください。
(現在、仕事を行っていない方は、今後のお考えをお答えください。)

《理想》

(SA)

項目	件数	%
1 「仕事」に専念したい	64	5.8
2 「家庭生活」又は「地域活動」にも携わりつつ、「仕事」を優先したい	300	27.3
3 「家庭生活」又は「地域活動」と「仕事」を両立したい	355	32.3
4 「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」または「地域活動」を優先したい	192	17.5
5 「家庭生活」または「地域活動」に専念したい	63	5.7
6 よくわからない	106	9.6
無回答	20	1.8
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

《実際》

(SA)

項目	件数	%
1 「仕事」に専念している	254	23.1
2 「家庭生活」又は「地域活動」にも携わりつつ、「仕事」を優先している	258	23.5
3 「家庭生活」又は「地域活動」と「仕事」を両立している	96	8.7
4 「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」または「地域活動」を優先している	116	10.5
5 「家庭生活」または「地域活動」に専念している	154	14.0
6 よくわからない	164	14.9
無回答	58	5.3
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

問15 ワーク・ライフ・バランスを実現するためには、どんなことが重要だと思いますか。次の中から3つお選びください。

(MA)

項目	件数	%
1 フレックスタイム(出勤・退勤時刻を従業員が決められる制度)	632	57.5
2 半日や時間単位の有給休暇	430	39.1
3 短時間勤務	307	27.9
4 在宅勤務(自宅にいながら、出勤して行うのと同じ仕事をする勤務制度)	409	37.2
5 時間外、残業の免除	321	29.2
6 始業・終業時間の繰り上げ・繰り下げ(労働時間は同じ)	288	26.2
7 休日出勤の免除	246	22.4
8 個人自身の意思啓発	206	18.7
9 その他	32	2.9
10 わからない	80	7.3
無回答	29	2.6
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	-

《女性の活躍推進について》

問16 女性が職業生活で活躍していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から3つお選びください。

(MA)

項目	件数	%
1 女性が働ける場を増やす	491	44.6
2 出産・育児・介護などがあっても、仕事を継続できるようにする	858	78.0
3 労働時間を短縮する	257	23.4
4 管理職は男性という気風を改める	284	25.8
5 女性管理職を増やす	142	12.9
6 女性管理職のための研修等を進める	94	8.5
7 配偶者控除などの税制度の見直し	263	23.9
8 同一労働同一賃金や均等・均衡待遇への取り組み	322	29.3
9 女性自身の意識改革	321	29.2
10 わからない	46	4.2
11 その他	26	2.4
無回答	13	1.2
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	-

《育児休暇と育児について》

問17 男性が育児休暇を取ることにどう思いますか。次の中から1つお選びください。

(SA)

項目	件数	%
1 大いに賛成である	405	36.8
2 まあ賛成である	490	44.5
3 あまり賛成ではない	110	10.0
4 反対である	10	0.9
5 わからない	78	7.1
無回答	7	0.6
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

問18 育児の必要が生じた場合、育児休暇を取りますか。
次の中から1つお選びください。

(SA)

項目	件数	%
1 積極的に取る	326	29.6
2 状況が許せば取るかもしれない	490	44.5
3 後々、勤務先の待遇面で不利になる恐れがあるので取りたくない	33	3.0
4 短い期間だったら取りたい	80	7.3
5 絶対取らない	15	1.4
6 わからない	114	10.4
無回答	42	3.8
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

問19 育児に関わろうとすると、支障となるものは何だと思えますか。
次の中から2つ以内でお選びください。

(MA)

項目	件数	%
1 育児休暇などの制度が整っていないこと	571	51.9
2 育児に参加することに対する周囲の偏見	378	34.4
3 自分が育児に参加することへの心理的抵抗	82	7.5
4 育児能力の不足	175	15.9
5 仕事が忙しい	411	37.4
6 その他	19	1.7
7 わからない	80	7.3
8 特になし	48	4.4
無回答	41	3.7
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	-

《少子化問題について》

問20 あなたの理想とする子どもの数は何人ですか。次の中から1つお選びください。

(SA)

項目	件数	%
1 1人	21	1.9
2 2人	474	43.1
3 3人	532	48.4
4 4人以上	37	3.4
5 0人	17	1.5
無回答	19	1.7
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

問21 実際の子どもの数(又は子育てできると思う数)は何人ですか。
次の中から1つお選びください。

(SA)

項目	件数	%
1 1人	179	16.3
2 2人	588	53.5
3 3人	196	17.8
4 4人以上	16	1.5
5 0人	102	9.3
無回答	19	1.7
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

問22 問20の理想とする子どもの数より、問21の実際の子どもの数のほうが少ない方にお伺いします。子どもの数が少ない理由は何ですか。次の中から2つお選びください。

(MA)

項目	件数	%
1 子育てのための経済的負担が大きいから	319	56.3
2 子どもが将来どう育つか不安になるなど、精神的負担が大きいから	62	10.9
3 子育てのための肉体的負担が大きいから	71	12.5
4 仕事と子育ての両立が困難だから	155	27.3
5 子育てより自分の時間を大切にしたいから	23	4.1
6 住宅事情が悪いから	19	3.4
7 年齢的あるいは健康上の理由から	175	30.9
8 その他	81	14.3
無回答	20	3.5
不明	0	0.0
n(回答者数)	567	-

《性的マイノリティについて》

問23 「性的マイノリティ」や「LGBT」といった言葉を聞いたことがありますか。

(SA)

項目	件数	%
1 聞いたことがある(意味も知っている)	606	55.1
2 聞いたことがある(意味は知らない)	218	19.8
3 聞いたことがない	264	24.0
無回答	12	1.1
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

問24 「性的マイノリティ」の人たちが暮らしやすい社会をつくるためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。次の中から2つお選びください。

(MA)

項目	件数	%
1 同性婚を認めるなどの社会制度の見直し(法改正など)	492	44.7
2 教育現場での啓発活動(性的マイノリティに関する講演会や授業など)	475	43.2
3 行政による啓発活動(広報誌やポスターによる性的マイノリティに関しての発信など)	174	15.8
4 性的マイノリティについての専門の相談体制(電話相談や面接相談など)の充実	359	32.6
5 性的マイノリティの人たちが安心して集まれる場や機会の充実	376	34.2
6 その他	58	5.3
無回答	55	5.0
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	-

《地域活動について》

問25 今までに次のような地域活動などに参加した経験がありますか。

(1)～(10)のそれぞれの項目ごとに1つずつお選びください。

(1) 自治会・町内会など

(SA)

項目	件数	%
1 参加して役員をしている／参加して役員をしたことがある	432	39.3
2 参加している／参加したことがある	388	35.3
3 参加したことがない	252	22.9
無回答	28	2.5
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

(2) 子ども会など子ども関連の活動

(SA)

項目	件数	%
1 参加して役員をしている／参加して役員をしたことがある	242	22.0
2 参加している／参加したことがある	396	36.0
3 参加したことがない	412	37.5
無回答	50	4.5
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

(3) PTAや保護者会などの活動

(SA)

項目	件数	%
1 参加して役員をしている／参加して役員をしたことがある	307	27.9
2 参加している／参加したことがある	288	26.2
3 参加したことがない	452	41.1
無回答	53	4.8
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

(4) 福祉に関する活動

(SA)

項目	件数	%
1 参加して役員をしている／参加して役員をしたことがある	50	4.5
2 参加している／参加したことがある	218	19.8
3 参加したことがない	769	69.9
無回答	63	5.7
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

(5) 環境に関する活動

(SA)

項目	件数	%
1 参加して役員をしている／参加して役員をしたことがある	54	4.9
2 参加している／参加したことがある	406	36.9
3 参加したことがない	577	52.5
無回答	63	5.7
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

(6) 男女共同参画に関する活動

(SA)

項目	件数	%
1 参加して役員をしている／参加して役員をしたことがある	6	0.5
2 参加している／参加したことがある	42	3.8
3 参加したことがない	977	88.8
無回答	75	6.8
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

(7) まちづくりなどの活動

(SA)

項目	件数	%
1 参加して役員をしている／参加して役員をしたことがある	34	3.1
2 参加している／参加したことがある	214	19.5
3 参加したことがない	778	70.7
無回答	74	6.7
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

(8) 趣味やスポーツ、学習などの活動

(SA)

項目	件数	%
1 参加して役員をしている／参加して役員をしたことがある	102	9.3
2 参加している／参加したことがある	450	40.9
3 参加したことがない	497	45.2
無回答	51	4.6
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

(9) 行政主催の教室や講座など

(SA)

項目	件数	%
1 参加して役員をしている／参加して役員をしたことがある	47	4.3
2 参加している／参加したことがある	306	27.8
3 参加したことがない	688	62.5
無回答	59	5.4
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

(10) その他

(SA)

項目	件数	%
1 参加して役員をしている／参加して役員をしたことがある	5	0.5
2 参加している／参加したことがある	14	1.3
3 参加したことがない	215	19.5
無回答	866	78.7
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	100.0

問26 男女共同参画社会の実現に向けて、今後、行政が特に力を入れるべきだと思う施策を、次の中から3つ以内でお選びください。

(MA)

項目	件数	%
1 職場における男女平等の促進	419	38.1
2 給与・労働条件の改善	513	46.6
3 経営者や事業者を対象とした女性活躍のための意識啓発	204	18.5
4 就労機会の充実	260	23.6
5 行政の政策決定などへの女性の参加促進	126	11.5
6 男女共同参画意識を育てる学校教育・社会教育の推進	291	26.5
7 男女相互に理解を深めるための学習機会の充実	112	10.2
8 職業教育の充実	91	8.3
9 育児・保育施設の充実	476	43.3
10 高齢者や病人の介護制度や施設の充実	369	33.5
11 女性の健康管理体制の充実	52	4.7
12 女性問題に関するシンポジウムの開催	23	2.1
13 その他	12	1.1
無回答	33	3.0
不明	0	0.0
n(回答者数)	1,100	-

3. 属性クロス集計表

F1 性別

		n (回答者数)	男性	女性	無回答
全体		1,100	44.0	55.4	0.6
年齢	20歳未満	20	2.3	1.5	0.0
	20～29歳	89	6.4	9.5	0.0
	30～39歳	108	9.3	10.3	0.0
	40～49歳	172	13.8	17.2	0.0
	50～59歳	193	18.2	17.2	0.0
	60～69歳	334	31.8	29.6	0.0
	70歳以上	179	17.8	14.6	57.1
	無回答	5	0.4	0.0	42.9
居住地 (小学校区)	龍ヶ崎小学校区	120	11.0	10.7	28.6
	大宮小学校区	45	3.9	4.1	14.3
	八原小学校区	135	12.0	12.6	0.0
	馴柴小学校区	180	16.9	16.1	0.0
	川原代小学校区	66	5.8	6.2	0.0
	龍ヶ崎西小学校区	112	9.3	11.0	0.0
	松葉小学校区	77	7.4	6.6	14.3
	長山小学校区	83	7.6	7.6	0.0
	馴馬台小学校区	75	7.4	6.4	0.0
	久保台小学校区	91	7.6	8.9	0.0
	城ノ内小学校区	102	9.1	9.4	14.3
	無回答	7	1.0	0.0	28.6
	不明	7	0.8	0.5	0.0
職業	自営業・家族従業	90	9.9	6.9	0.0
	経営・管理職	58	10.3	1.3	0.0
	事務職	86	7.9	7.9	0.0
	専門・技術職	132	16.9	8.2	0.0
	労務・サービス業	81	12.0	3.8	0.0
	主婦(パート・内職)	155	0.6	25.0	0.0
	専業主婦・専業主夫	157	0.6	25.3	0.0
	学生	36	3.7	3.0	0.0
	無職	234	29.8	14.0	71.4
	その他	64	7.6	4.4	0.0
	無回答	7	0.6	0.3	28.6
既婚・未婚	既婚(配偶者あり)	810	75.8	71.9	71.4
	既婚(離別・死別)	105	5.8	12.6	0.0
	未婚	182	18.4	15.3	0.0
	無回答	3	0.0	0.2	28.6
家族構成	ひとり暮らし	73	7.2	6.2	0.0
	夫婦のみの世帯	310	31.0	25.6	57.1
	二世帯(親と子(未婚))	500	43.6	47.5	0.0
	二世帯(親と子(既婚))	73	6.6	6.6	14.3
	三世帯(親と子と孫)	89	6.8	9.2	0.0
	その他	37	2.9	3.8	0.0
	無回答	18	1.9	1.1	28.6

F2 年齢

		n (回答者数)	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	無回答
全体		1,100	1.8	8.1	9.8	15.6	17.5	30.4	16.3	0.5
性別	男性	484	55.0	34.8	41.7	39.0	45.6	46.1	48.0	40.0
	女性	609	45.0	65.2	58.3	61.0	54.4	53.9	49.7	0.0
	無回答	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	60.0
居住地 域（小 学 校 区）	龍ヶ崎小学校区	120	10.0	7.9	10.2	10.5	11.9	11.4	11.7	0.0
	大宮小学校区	45	5.0	1.1	0.9	5.2	3.1	5.1	5.6	0.0
	八原小学校区	135	35.0	14.6	16.7	14.5	14.0	9.0	8.4	0.0
	馴柴小学校区	180	20.0	15.7	15.7	17.4	18.7	15.9	14.0	20.0
	川原代小学校区	66	5.0	6.7	3.7	7.0	5.7	5.1	8.4	0.0
	龍ヶ崎西小学校区	112	0.0	11.2	9.3	3.5	9.3	12.9	14.0	0.0
	松葉小学校区	77	5.0	6.7	7.4	2.3	4.1	9.0	10.6	20.0
	長山小学校区	83	0.0	5.6	8.3	6.4	3.1	10.2	10.1	0.0
	馴馬台小学校区	75	5.0	5.6	4.6	11.0	7.3	6.9	4.5	0.0
	久保台小学校区	91	5.0	9.0	8.3	9.3	11.4	8.4	3.9	0.0
	城ノ内小学校区	102	10.0	13.5	14.8	11.6	10.4	6.0	6.7	0.0
	無回答	7	0.0	0.0	0.0	0.6	1.0	0.0	0.6	60.0
不明	7	0.0	2.2	0.0	0.6	0.0	0.3	1.7	0.0	
職 業	自営業・家族従業	90	0.0	5.6	7.4	8.1	9.3	8.1	10.1	0.0
	経営・管理職	58	0.0	1.1	0.9	5.2	13.0	5.7	1.7	0.0
	事務職	86	5.0	7.9	18.5	15.7	7.8	3.6	1.7	20.0
	専門・技術職	132	5.0	19.1	21.3	22.7	15.5	5.7	1.7	0.0
	労務・サービス業	81	0.0	14.6	19.4	7.0	9.8	4.8	0.0	0.0
	主婦(パート・内職)	155	0.0	6.7	19.4	22.7	23.8	10.8	3.9	0.0
	専業主婦・専業主夫	157	0.0	4.5	5.6	8.1	9.8	24.9	17.3	0.0
	学生	36	0.0	6.7	3.7	4.1	4.1	31.4	57.5	20.0
	無職	234	85.0	20.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
	その他	64	5.0	13.5	3.7	5.8	5.7	4.5	6.1	0.0
	無回答	7	0.0	0.0	0.0	0.6	1.0	0.6	0.0	40.0
既 婚 ・ 未 婚	既婚(配偶者あり)	810	5.0	25.8	65.7	72.1	82.4	83.2	84.9	40.0
	既婚(離別・死別)	105	0.0	1.1	2.8	11.0	9.8	12.3	12.3	0.0
	未婚	182	95.0	73.0	31.5	16.9	7.8	4.2	2.8	20.0
	無回答	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	40.0
家 族 構 成	ひとり暮らし	73	5.0	6.7	4.6	4.7	6.7	8.1	7.3	0.0
	夫婦のみの世帯	310	5.0	7.9	4.6	11.0	17.6	44.9	52.0	20.0
	二世帯(親と子(未婚))	500	75.0	58.4	65.7	64.0	57.5	30.5	20.7	40.0
	二世帯(親と子(既婚))	73	5.0	4.5	8.3	9.3	5.7	5.7	7.3	0.0
	三世帯(親と子と孫)	89	0.0	12.4	9.3	7.6	8.3	8.1	6.7	0.0
	その他	37	5.0	3.4	6.5	3.5	2.1	2.1	5.0	0.0
無回答	18	5.0	6.7	0.9	0.0	2.1	0.6	1.1	40.0	

F3 居住地域(小学校区)

		n (回答者数)	龍ヶ崎 小学校区	大宮 小学校区	八原 小学校区	馴染 小学校区	川原代 小学校区	龍ヶ崎 西小学校区	松葉 小学校区	長山 小学校区	馴染 台小学校区	久保 台小学校区	城ノ内 小学校区	無回答	不明
全体		1,100	10.9	4.1	12.3	16.4	6.0	10.2	7.0	7.5	6.8	8.3	9.3	0.6	0.6
性別	男性	484	44.2	42.2	43.0	45.6	42.4	40.2	46.8	30.8	48.0	40.7	43.1	71.4	57.1
	女性	609	54.2	55.6	57.0	54.4	57.6	59.8	51.9	38.3	52.0	59.3	55.9	0.0	42.9
	無回答	7	1.7	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	1.0	28.6	0.0
年齢	20歳未満	20	1.7	2.2	5.2	2.2	1.5	0.0	1.3	0.0	1.3	1.1	2.0	0.0	0.0
	20～29歳	89	5.8	2.2	9.6	7.8	9.1	8.9	7.8	6.0	6.7	8.8	11.8	0.0	28.6
	30～39歳	108	9.2	2.2	13.3	9.4	6.1	8.9	10.4	10.8	6.7	9.9	15.7	0.0	0.0
	40～49歳	172	15.0	20.0	18.5	16.7	18.2	5.4	5.2	13.3	25.3	17.6	19.6	14.3	14.3
	50～59歳	193	19.2	13.3	20.0	20.0	16.7	16.1	10.4	7.2	18.7	24.2	19.6	28.6	0.0
	60～69歳	334	31.7	37.8	22.2	29.4	25.8	38.4	39.0	41.0	30.7	30.8	19.6	0.0	14.3
	70歳以上	179	17.5	22.2	11.1	13.9	22.7	22.3	24.7	21.7	10.7	7.7	11.8	14.3	42.9
	無回答	5	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	0.0
職業	自営業・家族従業	90	6.7	20.0	5.9	5.6	6.1	16.1	3.9	4.8	4.0	8.8	13.7	14.3	0.0
	経営・管理職	58	2.5	6.7	6.7	5.0	3.0	2.7	6.5	4.8	2.7	9.9	7.8	0.0	14.3
	事務職	86	9.2	4.4	8.9	7.8	10.6	6.3	5.2	4.8	9.3	8.8	8.8	14.3	0.0
	専門・技術職	132	8.3	6.7	12.6	11.7	10.6	9.8	9.1	13.3	21.3	14.3	14.7	0.0	14.3
	労務・サービス業	81	10.0	4.4	9.6	6.7	6.1	6.3	7.8	6.0	10.7	6.6	5.9	0.0	0.0
	主婦(パート・内職)	155	14.2	15.6	17.0	15.6	18.2	8.9	9.1	14.5	13.3	17.6	11.8	0.0	14.3
	専業主婦・専業主夫	157	10.0	11.1	13.3	12.2	13.6	17.9	19.5	20.5	17.3	14.3	11.8	0.0	14.3
	学生	36	3.3	2.2	5.9	5.0	1.5	2.7	0.0	1.2	2.7	2.2	4.9	0.0	0.0
	無職	234	26.7	15.6	15.6	23.9	22.7	28.6	32.5	24.1	12.0	11.0	14.7	28.6	42.9
	その他	64	7.5	13.3	4.4	6.7	7.6	0.9	5.2	6.0	6.7	5.5	5.9	0.0	0.0
	無回答	7	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	1.1	0.0	42.9	0.0
既婚・未婚	既婚(配偶者あり)	810	60.8	82.2	75.6	69.4	69.7	75.0	72.7	80.7	78.7	81.3	79.4	28.6	57.1
	既婚(離別・死別)	105	17.5	11.1	6.7	8.3	13.6	9.8	10.4	10.8	8.0	4.4	5.9	0.0	28.6
	未婚	182	20.8	6.7	17.8	22.2	16.7	15.2	16.9	8.4	13.3	14.3	14.7	42.9	14.3
	無回答	3	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0
家族構成	ひとり暮らし	73	11.7	0.0	7.4	8.9	9.1	6.3	3.9	4.8	2.7	5.5	3.9	14.3	14.3
	夫婦のみの世帯	310	23.3	31.1	21.5	30.0	24.2	30.4	44.2	39.8	24.0	25.3	23.5	14.3	28.6
	二世帯(親と子(未婚))	500	41.7	33.3	51.9	44.4	42.4	33.9	41.6	44.6	61.3	53.8	48.0	42.9	42.9
	二世帯(親と子(既婚))	73	8.3	6.7	7.4	5.0	9.1	9.8	2.6	1.2	4.0	6.6	11.8	0.0	0.0
	三世帯(親と子と孫)	89	8.3	22.2	7.4	5.6	9.1	16.1	3.9	7.2	4.0	5.5	7.8	0.0	0.0
	その他	37	6.7	4.4	2.2	5.0	4.5	1.8	1.3	2.4	2.7	2.2	2.9	0.0	0.0
無回答	18	0.0	2.2	2.2	1.1	1.5	1.8	2.6	0.0	1.3	1.1	2.0	28.6	14.3	

F4 職業

		n (回答者数)	自営業・家族 従業	経営・ 管理職	事務職	専門・ 技術職	労務・ サービス業	主婦 (パート・ 内職)	専業主 婦・専 業主夫	学生	無職	その他	無回答
全体		1,100	8.2	5.3	7.8	12.0	7.4	14.1	14.3	3.3	21.3	5.8	0.6
性別	男性	484	53.3	86.2	44.2	62.1	71.6	1.9	1.9	50.0	61.5	57.8	42.9
	女性	609	46.7	13.8	55.8	37.9	28.4	98.1	98.1	50.0	36.3	42.2	28.6
	無回答	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0	28.6
年齢	20歳未満	20	0.0	0.0	1.2	0.8	0.0	0.0	0.0	47.2	0.0	1.6	0.0
	20～29歳	89	5.6	1.7	8.1	12.9	16.0	3.9	2.5	50.0	2.6	18.8	0.0
	30～39歳	108	8.9	1.7	23.3	17.4	25.9	13.5	3.8	0.0	1.7	6.3	0.0
	40～49歳	172	15.6	15.5	31.4	29.5	14.8	25.2	8.9	0.0	3.0	15.6	14.3
	50～59歳	193	20.0	43.1	17.4	22.7	23.5	29.7	12.1	0.0	3.4	17.2	28.6
	60～69歳	334	30.0	32.8	14.0	14.4	19.8	23.2	52.9	0.0	44.9	23.4	28.6
	70歳以上	179	20.0	5.2	3.5	2.3	0.0	4.5	19.7	0.0	44.0	17.2	0.0
	無回答	5	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	0.4	0.0	28.6
居住地 (小学校区)	龍ヶ崎小学校区	120	8.9	5.2	12.8	7.6	14.8	11.0	7.6	11.1	13.7	14.1	28.6
	大宮小学校区	45	10.0	5.2	2.3	2.3	2.5	4.5	3.2	2.8	3.0	9.4	0.0
	八原小学校区	135	8.9	15.5	14.0	12.9	16.0	14.8	11.5	22.2	9.0	9.4	0.0
	馴染小学校区	180	11.1	15.5	16.3	15.9	14.8	18.1	14.0	25.0	18.4	18.8	0.0
	川原代小学校区	66	4.4	3.4	8.1	5.3	4.9	7.7	5.7	2.8	6.4	7.8	0.0
	龍ヶ崎西小学校区	112	20.0	5.2	8.1	8.3	8.6	6.5	12.7	8.3	13.7	1.6	0.0
	松葉小学校区	77	3.3	8.6	4.7	5.3	7.4	4.5	9.6	0.0	10.7	6.3	14.3
	長山小学校区	83	4.4	6.9	4.7	8.3	6.2	7.7	10.8	2.8	8.5	7.8	0.0
	馴馬台小学校区	75	3.3	3.4	8.1	12.1	9.9	6.5	8.3	5.6	3.8	7.8	0.0
	久保台小学校区	91	8.9	15.5	9.3	9.8	7.4	10.3	8.3	5.6	4.3	7.8	14.3
	城ノ内小学校区	102	15.6	13.8	10.5	11.4	7.4	7.7	7.6	13.9	6.4	9.4	0.0
	無回答	7	1.1	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	42.9
	不明	7	0.0	1.7	0.0	0.8	0.0	0.6	0.6	0.0	1.3	0.0	0.0
既婚・ 未婚	既婚(配偶者あり)	810	84.4	93.1	61.6	70.5	55.6	85.8	96.2	0.0	68.4	67.2	28.6
	既婚(離別・死別)	105	7.8	3.4	7.0	9.8	9.9	11.0	3.2	0.0	17.9	6.3	14.3
	未婚	182	7.8	3.4	31.4	19.7	34.6	3.2	0.0	100.0	13.7	26.6	28.6
	無回答	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	28.6
家族 構成	ひとり暮らし	73	4.4	0.0	4.7	7.6	8.6	5.8	2.5	8.3	12.0	4.7	14.3
	夫婦のみの世帯	310	30.0	36.2	14.0	15.9	16.0	16.1	47.1	0.0	41.0	31.3	14.3
	二世帯(親と子(未婚))	500	33.3	41.4	62.8	57.6	56.8	60.0	34.4	72.2	27.8	46.9	28.6
	二世帯(親と子(既婚))	73	14.4	12.1	7.0	6.1	7.4	5.2	7.0	2.8	3.8	6.3	0.0
	三世帯(親と子と孫)	89	11.1	6.9	7.0	5.3	7.4	9.7	6.4	5.6	11.1	4.7	0.0
	その他	37	4.4	1.7	3.5	5.3	1.2	3.2	2.5	5.6	3.4	1.6	14.3
	無回答	18	2.2	1.7	1.2	2.3	2.5	0.0	0.0	5.6	0.9	4.7	28.6

F5 既婚・未婚

		n (回答者数)	既婚 (配偶者あり)	既婚 (離別・死別)	未婚	無回答
全体		1,100	73.6	9.5	16.5	0.3
性別	男性	484	45.3	26.7	48.9	0.0
	女性	609	54.1	73.3	51.1	33.3
	無回答	7	0.6	0.0	0.0	66.7
年齢	20歳未満	20	0.1	0.0	10.4	0.0
	20～29歳	89	2.8	1.0	35.7	0.0
	30～39歳	108	8.8	2.9	18.7	0.0
	40～49歳	172	15.3	18.1	15.9	0.0
	50～59歳	193	19.6	18.1	8.2	0.0
	60～69歳	334	34.3	39.0	7.7	33.3
	70歳以上	179	18.8	21.0	2.7	0.0
	無回答	5	0.2	0.0	0.5	66.7
居住地 (小学校区)	龍ヶ崎小学校区	120	9.0	20.0	13.7	33.3
	大宮小学校区	45	4.6	4.8	1.6	0.0
	八原小学校区	135	12.6	8.6	13.2	0.0
	馴染小学校区	180	15.4	14.3	22.0	0.0
	川原代小学校区	66	5.7	8.6	6.0	0.0
	龍ヶ崎西小学校区	112	10.4	10.5	9.3	0.0
	松葉小学校区	77	6.9	7.6	7.1	0.0
	長山小学校区	83	8.3	8.6	3.8	0.0
	馴染台小学校区	75	7.3	5.7	5.5	0.0
	久保台小学校区	91	9.1	3.8	7.1	0.0
	城ノ内小学校区	102	10.0	5.7	8.2	0.0
	無回答	7	0.2	0.0	1.6	66.7
	不明	7	0.5	1.9	0.5	0.0
職業	自営業・家族従業	90	9.4	6.7	3.8	0.0
	経営・管理職	58	6.7	1.9	1.1	0.0
	事務職	86	6.5	5.7	14.8	0.0
	専門・技術職	132	11.5	12.4	14.3	0.0
	労務・サービス業	81	5.6	7.6	15.4	0.0
	主婦(パート・内職)	155	16.4	16.2	2.7	0.0
	専業主婦・専業主夫	157	18.6	4.8	0.0	33.3
	学生	36	0.0	0.0	19.8	0.0
	無職	234	19.8	40.0	17.6	0.0
	その他	64	5.3	3.8	9.3	0.0
無回答	7	0.2	1.0	1.1	66.7	
家族構成	ひとり暮らし	73	0.5	30.5	20.3	0.0
	夫婦のみの世帯	310	38.1	1.0	0.0	0.0
	二世帯(親と子(未婚))	500	43.7	37.1	58.2	33.3
	二世帯(親と子(既婚))	73	7.8	8.6	0.5	0.0
	三世帯(親と子と孫)	89	7.7	13.3	7.1	0.0
	その他	37	2.0	6.7	7.7	0.0
無回答	18	0.2	2.9	6.0	66.7	

F5-1 共働きか否か

		n (回答者数)	共働き家庭 (夫婦ともフルタイム)	共働き家庭 (一方がパートタイマー・内職など)	夫のみ 就業家庭	妻のみ 就業家庭	夫婦とも 年金生活者	その他	無回答
全体		1,100	18.0	26.0	19.6	5.3	27.4	2.6	1.0
性別	男性	484	43.2	45.5	49.7	46.5	45.5	28.6	25.0
	女性	609	56.8	54.5	50.3	53.5	52.3	71.4	75.0
	無回答	7	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0
年齢	20歳未満	20	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳	89	7.5	3.8	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0
	30～39歳	108	15.8	11.4	14.5	0.0	0.0	4.8	0.0
	40～49歳	172	26.0	26.5	16.4	4.7	0.0	9.5	0.0
	50～59歳	193	28.1	35.5	17.6	20.9	1.4	9.5	12.5
	60～69歳	334	16.4	18.0	39.0	60.5	50.9	47.6	62.5
	70歳以上	179	6.2	4.3	9.4	14.0	47.3	28.6	25.0
	無回答	5	0.0	0.5	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0
居住地 域(小学校区)	龍ヶ崎小学校区	120	8.9	9.0	5.7	14.0	9.9	9.5	25.0
	大宮小学校区	45	6.8	3.8	1.3	2.3	5.0	14.3	25.0
	八原小学校区	135	15.8	14.7	16.4	4.7	9.0	0.0	0.0
	馴染小学校区	180	16.4	13.3	16.4	20.9	15.3	14.3	12.5
	川原代小学校区	66	4.1	4.3	3.8	16.3	6.3	19.0	0.0
	龍ヶ崎西小学校区	112	10.3	8.5	10.1	11.6	12.6	9.5	0.0
	松葉小学校区	77	2.1	4.3	6.3	9.3	13.1	4.8	0.0
	長山小学校区	83	6.8	5.7	9.4	9.3	11.7	0.0	0.0
	馴馬台小学校区	75	7.5	8.1	10.1	2.3	5.9	0.0	12.5
	久保台小学校区	91	8.2	13.3	11.3	4.7	5.0	9.5	12.5
	城ノ内小学校区	102	13.0	14.2	8.8	4.7	5.0	19.0	12.5
	無回答	7	0.0	0.5	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0
	不明	7	0.0	0.5	0.6	0.0	0.9	0.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	20.5	12.8	6.3	4.7	1.4	14.3	12.5
	経営・管理職	58	13.0	8.1	11.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	事務職	86	17.1	7.1	5.0	9.3	0.0	4.8	0.0
	専門・技術職	132	25.3	14.7	12.6	7.0	0.9	0.0	0.0
	労務・サービス業	81	8.9	8.5	7.5	0.0	0.9	0.0	0.0
	主婦(パート・内職)	155	2.7	44.1	8.8	20.9	3.2	23.8	12.5
	専業主婦・専業主夫	157	0.7	0.9	39.6	11.6	32.9	19.0	37.5
	無職	234	0.0	0.0	2.5	39.5	58.6	28.6	37.5
	その他	64	11.6	3.3	5.7	7.0	2.3	9.5	0.0
	無回答	7	0.0	0.5	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0
家族構成	ひとり暮らし	73	0.7	0.5	0.6	0.0	0.5	0.0	0.0
	夫婦のみの世帯	310	26.0	17.5	36.5	58.1	62.2	52.4	25.0
	二世帯(親と子(未婚))	500	53.4	60.7	46.5	27.9	23.9	23.8	50.0
	二世帯(親と子(既婚))	73	9.6	10.0	8.2	0.0	5.0	9.5	25.0
	三世帯(親と子と孫)	89	8.2	9.5	6.3	9.3	6.3	9.5	0.0
	その他	37	1.4	1.9	1.9	4.7	1.8	4.8	0.0
無回答	18	0.7	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	

F6 家族構成

		n (回答者数)	ひとり暮らし	夫婦のみの世帯	二世世代(親と子(未婚))	二世世代(親と子(既婚))	三世世代(親と子と孫)	その他	無回答
全体		1,100	6.6	28.2	45.5	6.6	8.1	3.4	1.6
性別	男性	484	47.9	48.4	42.2	43.8	37.1	37.8	50.0
	女性	609	52.1	50.3	57.8	54.8	62.9	62.2	38.9
	無回答	7	0.0	1.3	0.0	1.4	0.0	0.0	11.1
年齢	20歳未満	20	1.4	0.3	3.0	1.4	0.0	2.7	5.6
	20～29歳	89	8.2	2.3	10.4	5.5	12.4	8.1	33.3
	30～39歳	108	6.8	1.6	14.2	12.3	11.2	18.9	5.6
	40～49歳	172	11.0	6.1	22.0	21.9	14.6	16.2	0.0
	50～59歳	193	17.8	11.0	22.2	15.1	18.0	10.8	22.2
	60～69歳	334	37.0	48.4	20.4	26.0	30.3	18.9	11.1
	70歳以上	179	17.8	30.0	7.4	17.8	13.5	24.3	11.1
	無回答	5	0.0	0.3	0.4	0.0	0.0	0.0	11.1
居住地域(小学校区)	龍ヶ崎小学校区	120	19.2	9.0	10.0	13.7	11.2	21.6	0.0
	大宮小学校区	45	0.0	4.5	3.0	4.1	11.2	5.4	5.6
	八原小学校区	135	13.7	9.4	14.0	13.7	11.2	8.1	16.7
	馴柴小学校区	180	21.9	17.4	16.0	12.3	11.2	24.3	11.1
	川原代小学校区	66	8.2	5.2	5.6	8.2	6.7	8.1	5.6
	龍ヶ崎西小学校区	112	9.6	11.0	7.6	15.1	20.2	5.4	11.1
	松葉小学校区	77	4.1	11.0	6.4	2.7	3.4	2.7	11.1
	長山小学校区	83	5.5	10.6	7.4	1.4	6.7	5.4	0.0
	馴馬台小学校区	75	2.7	5.8	9.2	4.1	3.4	5.4	5.6
	久保台小学校区	91	6.8	7.4	9.8	8.2	5.6	5.4	5.6
	城ノ内小学校区	102	5.5	7.7	9.8	16.4	9.0	8.1	11.1
	無回答	7	1.4	0.3	0.6	0.0	0.0	0.0	11.1
	不明	7	1.4	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0	5.6
職業	自営業・家族従業	90	5.5	8.7	6.0	17.8	11.2	10.8	11.1
	経営・管理職	58	0.0	6.8	4.8	9.6	4.5	2.7	5.6
	事務職	86	5.5	3.9	10.8	8.2	6.7	8.1	5.6
	専門・技術職	132	13.7	6.8	15.2	11.0	7.9	18.9	16.7
	労務・サービス業	81	9.6	4.2	9.2	8.2	6.7	2.7	11.1
	主婦(パート・内職)	155	12.3	8.1	18.6	11.0	16.9	13.5	0.0
	専業主婦・専業主夫	157	5.5	23.9	10.8	15.1	11.2	10.8	0.0
	学生	36	4.1	0.0	5.2	1.4	2.2	5.4	11.1
	無職	234	38.4	31.0	13.0	12.3	29.2	21.6	11.1
	その他	64	4.1	6.5	6.0	5.5	3.4	2.7	16.7
	無回答	7	1.4	0.3	0.4	0.0	0.0	2.7	11.1
既婚・未婚	既婚(配偶者あり)	810	5.5	99.7	70.8	86.3	69.7	43.2	11.1
	既婚(離別・死別)	105	43.8	0.3	7.8	12.3	15.7	18.9	16.7
	未婚	182	50.7	0.0	21.2	1.4	14.6	37.8	61.1
	無回答	3	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	11.1

問2 男女共同参画社会の実現について、あなたのお考えに最も近いものを、次の中から1つお選びください。

		n (回答者数)	男女の違いを認めたいでなら、実現に向けて取り組む必要があると思う	男女共同参画社会の実現を目指して、ぜひ取り組んでいく必要があると思う	男女共同参画社会はすでに実現されているので、特に取り組む必要はないと思う	男女共同参画社会そのものに賛成できないので、特に取り組む必要はないと思う	わからない	その他	無回答
全体		1,100	54.5	30.1	2.5	0.8	9.6	1.3	1.3
性別	男性	484	54.5	33.7	2.9	1.0	5.0	2.3	0.6
	女性	609	54.5	27.3	2.0	0.7	13.5	0.5	1.6
	無回答	7	42.9	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3
年齢	20歳未満	20	25.0	50.0	5.0	5.0	10.0	5.0	0.0
	20～29歳	89	61.8	20.2	1.1	0.0	15.7	1.1	0.0
	30～39歳	108	63.0	21.3	0.0	1.9	12.0	0.9	0.9
	40～49歳	172	56.4	23.8	2.3	1.7	12.8	2.3	0.6
	50～59歳	193	60.1	28.5	1.0	0.5	7.3	1.6	1.0
	60～69歳	334	51.5	34.4	2.7	0.3	8.4	0.6	2.1
	70歳以上	179	46.9	37.4	5.6	0.6	7.3	1.1	1.1
	無回答	5	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
職業	自営業・家族従業	90	42.2	37.8	5.6	1.1	12.2	0.0	1.1
	経営・管理職	58	69.0	17.2	3.4	0.0	1.7	6.9	1.7
	事務職	86	57.0	27.9	1.2	0.0	11.6	1.2	1.2
	専門・技術職	132	65.2	20.5	1.5	0.0	9.8	3.0	0.0
	労務・サービス業	81	58.0	29.6	0.0	2.5	8.6	1.2	0.0
	主婦(パート・内職)	155	60.6	23.9	0.0	0.6	13.5	0.0	1.3
	専業主婦・専業主夫	157	52.2	32.5	1.9	0.0	10.8	0.0	2.5
	学生	36	44.4	41.7	2.8	2.8	5.6	2.8	0.0
	無職	234	47.0	37.6	3.8	1.7	8.5	0.9	0.4
	その他	64	56.3	26.6	6.3	0.0	6.3	1.6	3.1
	無回答	7	14.3	57.1	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6

問4 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。1つお選びください。

		n (回答者数)	そう思う	そうは思わない	どちらともいえない	無回答
全体		1,100	5.2	63.0	31.5	0.3
性別	男性	484	6.4	60.7	32.9	0.0
	女性	609	4.3	64.7	30.5	0.5
	無回答	7	0.0	71.4	28.6	0.0
年齢	20歳未満	20	5.0	55.0	40.0	0.0
	20～29歳	89	10.1	51.7	38.2	0.0
	30～39歳	108	8.3	59.3	32.4	0.0
	40～49歳	172	4.1	58.7	37.2	0.0
	50～59歳	193	2.1	71.0	26.9	0.0
	60～69歳	334	3.6	67.1	28.4	0.9
	70歳以上	179	8.4	59.8	31.8	0.0
	無回答	5	0.0	60.0	40.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	7.8	61.1	30.0	1.1
	経営・管理職	58	3.4	67.2	29.3	0.0
	事務職	86	4.7	68.6	26.7	0.0
	専門・技術職	132	3.8	62.9	33.3	0.0
	労務・サービス業	81	2.5	64.2	33.3	0.0
	主婦(パート・内職)	155	3.2	67.7	29.0	0.0
	専業主婦・専業主夫	157	4.5	61.8	33.8	0.0
	学生	36	8.3	63.9	27.8	0.0
	無職	234	6.8	61.1	31.2	0.9
	その他	64	7.8	53.1	39.1	0.0
	無回答	7	14.3	42.9	42.9	0.0

問5 家庭とは、どうあるべきだと思いますか。次の中から1つお選びください。

		n (回答者数)	男性は仕事、女性は家事・育児に役割を分担する	男性は仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする	男性も女性も仕事をし、家事・育児は主に女性が分担する	男性も女性も仕事をし、家事・育児も男性と女性で分担する	男性も女性も仕事をし、家事・育児は家族や家政婦(ベビーシッターなど)に協力してもらおう	女性は仕事、男性は家事・育児に役割を分担する	その他	わからない	無回答
全体		1,100	2.8	23.2	2.5	55.3	3.0	0.1	8.5	4.5	0.3
性別	男性	484	4.3	24.2	3.5	53.7	2.5	0.0	7.4	4.1	0.2
	女性	609	1.6	22.3	1.6	56.7	3.4	0.2	9.0	4.8	0.3
	無回答	7	0.0	28.6	0.0	42.9	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0
年齢	20歳未満	20	0.0	0.0	0.0	70.0	0.0	0.0	20.0	10.0	0.0
	20～29歳	89	4.5	19.1	0.0	58.4	4.5	0.0	7.9	5.6	0.0
	30～39歳	108	3.7	19.4	3.7	55.6	3.7	0.0	10.2	2.8	0.9
	40～49歳	172	2.3	22.7	1.2	54.7	1.2	0.0	12.8	5.2	0.0
	50～59歳	193	2.1	18.1	2.1	61.1	3.6	0.0	9.3	3.6	0.0
	60～69歳	334	2.4	25.7	3.6	55.1	3.6	0.0	5.1	3.9	0.6
	70歳以上	179	3.9	31.3	2.8	46.9	2.2	0.6	6.7	5.6	0.0
	無回答	5	0.0	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	6.7	30.0	4.4	44.4	1.1	1.1	6.7	5.6	0.0
	経営・管理職	58	1.7	19.0	1.7	53.4	5.2	0.0	15.5	3.4	0.0
	事務職	86	2.3	15.1	7.0	62.8	4.7	0.0	4.7	3.5	0.0
	専門・技術職	132	0.8	22.7	3.0	55.3	4.5	0.0	8.3	4.5	0.8
	労務・サービス業	81	1.2	21.0	1.2	64.2	2.5	0.0	7.4	2.5	0.0
	主婦(パート・内職)	155	0.6	20.0	1.3	61.3	0.6	0.0	14.2	1.9	0.0
	専業主婦・専業主夫	157	2.5	28.7	0.6	51.0	3.8	0.0	7.0	6.4	0.0
	学生	36	0.0	11.1	0.0	72.2	2.8	0.0	8.3	5.6	0.0
	無職	234	5.6	26.9	2.6	51.3	3.4	0.0	5.1	4.3	0.9
	その他	64	3.1	15.6	3.1	54.7	1.6	0.0	12.5	9.4	0.0
	無回答	7	0.0	57.1	0.0	28.6	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0

問6 では、実際にあなたの家庭ではどうなっていますか。またはどうなっていると思いますか。次の中から1つお選びください。

	n (回答者数)	男性は仕事、女性は家事・育児に役割を分担している	男性は仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をしている	男性も女性も仕事をし、家事・育児は主に女性が担当している	男性も女性も仕事をし、家事・育児も男性と女性で分担している	男性も女性も仕事をし、家事・育児は家族や家政婦(ベビーシッターなど)に協力してもらっている	女性は仕事、男性は家事・育児に役割を分担している	その他	わからない	無回答	
全体	1,100	19.1	22.5	18.8	15.0	0.6	0.4	15.0	5.7	2.9	
性別	男性	484	20.7	21.3	12.8	18.8	0.8	0.4	16.1	6.6	2.5
	女性	609	17.7	23.3	23.5	12.2	0.5	0.3	14.3	5.1	3.1
	無回答	7	28.6	28.6	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
年齢	20歳未満	20	25.0	10.0	35.0	15.0	0.0	0.0	10.0	5.0	0.0
	20～29歳	89	20.2	16.9	16.9	25.8	1.1	0.0	10.1	9.0	0.0
	30～39歳	108	25.0	19.4	23.1	18.5	0.9	0.9	10.2	1.9	0.0
	40～49歳	172	16.3	24.4	26.2	16.3	0.0	0.0	10.5	6.4	0.0
	50～59歳	193	13.0	30.1	18.7	17.1	0.5	1.0	11.4	6.2	2.1
	60～69歳	334	22.8	23.1	14.4	12.6	0.6	0.3	18.0	4.8	3.6
	70歳以上	179	16.2	16.8	16.8	8.9	1.1	0.0	24.0	7.3	8.9
	無回答	5	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	14.4	32.2	33.3	12.2	1.1	0.0	4.4	2.2	0.0
	経営・管理職	58	25.9	20.7	24.1	13.8	1.7	0.0	12.1	0.0	1.7
	事務職	86	11.6	17.4	31.4	18.6	1.2	0.0	12.8	7.0	0.0
	専門・技術職	132	15.9	22.0	22.0	24.2	0.8	0.0	9.8	3.8	1.5
	労務・サービス業	81	19.8	18.5	14.8	25.9	0.0	0.0	12.3	7.4	1.2
	主婦(パート・内職)	155	6.5	41.9	17.4	16.1	0.6	0.6	11.6	3.9	1.3
	専業主婦・専業主夫	157	42.0	21.7	7.6	2.5	0.0	0.6	15.9	4.5	5.1
	学生	36	27.8	13.9	22.2	25.0	0.0	0.0	8.3	2.8	0.0
	無職	234	16.7	12.4	15.0	10.7	0.9	0.9	26.9	9.8	6.8
	その他	64	14.1	15.6	17.2	21.9	0.0	0.0	17.2	10.9	3.1
	無回答	7	14.3	57.1	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問7 次にあげる分野において、男女平等になっていると思いますか。

(1) 家庭生活では

		n (回答者数)	男性が優遇 されている	やや男性が 優遇されて いる	平等になっ ている	やや女性が 優遇されて いる	女性が優遇 されている	無回答
全体		1,100	14.4	41.5	34.4	5.7	1.5	2.6
性別	男性	484	8.5	37.8	41.7	7.4	2.3	2.3
	女性	609	19.0	44.2	28.7	4.3	0.8	3.0
	無回答	7	14.3	57.1	14.3	14.3	0.0	0.0
年齢	20歳未満	20	10.0	15.0	60.0	10.0	5.0	0.0
	20～29歳	89	7.9	33.7	47.2	6.7	3.4	1.1
	30～39歳	108	11.1	41.7	34.3	8.3	1.9	2.8
	40～49歳	172	15.7	39.0	33.7	7.6	1.7	2.3
	50～59歳	193	13.5	39.4	35.2	8.3	1.6	2.1
	60～69歳	334	16.2	45.5	31.4	2.7	1.2	3.0
	70歳以上	179	16.8	44.7	30.2	4.5	0.0	3.9
	無回答	5	0.0	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	14.4	42.2	27.8	10.0	4.4	1.1
	経営・管理職	58	20.7	27.6	43.1	8.6	0.0	0.0
	事務職	86	12.8	45.3	33.7	7.0	1.2	0.0
	専門・技術職	132	7.6	34.1	47.7	6.8	2.3	1.5
	労務・サービス業	81	11.1	40.7	39.5	3.7	1.2	3.7
	主婦(パート・内職)	155	20.0	41.3	29.0	4.5	0.6	4.5
	専業主婦・専業主夫	157	16.6	43.9	33.8	2.5	0.6	2.5
	学生	36	13.9	30.6	44.4	8.3	2.8	0.0
	無職	234	14.5	47.4	26.1	5.6	1.7	4.7
	その他	64	10.9	39.1	43.8	6.3	0.0	0.0
	無回答	7	0.0	71.4	14.3	0.0	0.0	14.3

(2)職場では

		n (回答者数)	男性が優遇 されている	やや男性が 優遇されて いる	平等になっ ている	やや女性が 優遇されて いる	女性が優遇 されている	無回答
全体		1,100	24.2	37.9	25.6	5.9	1.1	5.3
性別	男性	484	19.8	38.6	30.6	6.2	1.0	3.7
	女性	609	27.8	36.9	22.0	5.7	1.1	6.4
	無回答	7	14.3	71.4	0.0	0.0	0.0	14.3
年齢	20歳未満	20	5.0	45.0	35.0	10.0	0.0	5.0
	20～29歳	89	20.2	30.3	30.3	12.4	4.5	2.2
	30～39歳	108	19.4	37.0	32.4	9.3	1.9	0.0
	40～49歳	172	28.5	32.6	30.8	6.4	1.2	0.6
	50～59歳	193	20.2	36.3	34.7	5.2	1.0	2.6
	60～69歳	334	27.5	43.4	18.6	4.5	0.3	5.7
	70歳以上	179	25.1	38.0	16.8	2.8	0.6	16.8
	無回答	5	20.0	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	23.3	35.6	27.8	7.8	0.0	5.6
	経営・管理職	58	25.9	34.5	36.2	3.4	0.0	0.0
	事務職	86	27.9	32.6	27.9	11.6	0.0	0.0
	専門・技術職	132	18.9	38.6	31.1	7.6	3.0	0.8
	労務・サービス業	81	21.0	35.8	28.4	13.6	1.2	0.0
	主婦(パート・内職)	155	22.6	31.0	34.8	4.5	2.6	4.5
	専業主婦・専業主夫	157	33.1	45.9	7.6	3.8	0.0	9.6
	学生	36	11.1	41.7	30.6	8.3	2.8	5.6
	無職	234	27.4	42.7	16.7	2.1	0.0	11.1
	その他	64	14.1	28.1	46.9	6.3	3.1	1.6
	無回答	7	0.0	57.1	28.6	0.0	0.0	14.3

(3)教育の場では

		n (回答者数)	男性が優遇 されている	やや男性が 優遇されて いる	平等になっ ている	やや女性が 優遇されて いる	女性が優遇 されている	無回答
全体		1,100	3.1	16.4	69.5	4.0	0.5	6.5
性別	男性	484	1.7	12.6	77.3	3.5	0.6	4.3
	女性	609	4.1	19.4	63.7	4.3	0.3	8.2
	無回答	7	14.3	14.3	42.9	14.3	0.0	14.3
年齢	20歳未満	20	0.0	5.0	95.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳	89	1.1	13.5	69.7	12.4	1.1	2.2
	30～39歳	108	1.9	8.3	77.8	9.3	0.9	1.9
	40～49歳	172	2.9	15.1	77.3	4.1	0.6	0.0
	50～59歳	193	1.6	14.0	77.2	2.1	0.0	5.2
	60～69歳	334	5.1	21.0	64.4	1.5	0.0	8.1
	70歳以上	179	3.4	19.6	54.7	3.9	1.1	17.3
	無回答	5	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	4.4	15.6	65.6	5.6	1.1	7.8
	経営・管理職	58	3.4	8.6	84.5	1.7	1.7	0.0
	事務職	86	0.0	16.3	80.2	1.2	0.0	2.3
	専門・技術職	132	0.8	12.1	81.1	3.8	0.0	2.3
	労務・サービス業	81	3.7	14.8	70.4	7.4	0.0	3.7
	主婦(パート・内職)	155	1.9	15.5	69.0	4.5	0.0	9.0
	専業主婦・専業主夫	157	6.4	24.2	58.6	2.5	0.6	7.6
	学生	36	0.0	11.1	77.8	8.3	0.0	2.8
	無職	234	3.4	18.8	62.4	3.8	0.9	10.7
	その他	64	4.7	12.5	71.9	4.7	0.0	6.3
	無回答	7	0.0	14.3	71.4	0.0	0.0	14.3

(4)社会活動の場では

		n (回答者数)	男性が優遇 されている	やや男性が 優遇されて いる	平等になっ ている	やや女性が 優遇されて いる	女性が優遇 されている	無回答
全体		1,100	11.8	41.9	36.0	5.2	0.5	4.6
性別	男性	484	7.0	40.3	42.6	6.6	0.4	3.1
	女性	609	15.3	43.5	30.9	4.1	0.3	5.9
	無回答	7	42.9	14.3	28.6	0.0	14.3	0.0
年齢	20歳未満	20	5.0	30.0	60.0	0.0	0.0	5.0
	20～29歳	89	10.1	31.5	48.3	9.0	0.0	1.1
	30～39歳	108	13.0	32.4	38.0	13.0	1.9	1.9
	40～49歳	172	11.6	38.4	40.7	7.6	0.0	1.7
	50～59歳	193	10.9	48.7	31.1	2.6	0.5	6.2
	60～69歳	334	13.8	47.9	31.7	2.7	0.0	3.9
	70歳以上	179	10.6	39.7	34.6	3.9	0.6	10.6
	無回答	5	0.0	20.0	40.0	20.0	20.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	12.2	34.4	38.9	7.8	1.1	5.6
	経営・管理職	58	6.9	46.6	39.7	6.9	0.0	0.0
	事務職	86	12.8	40.7	38.4	5.8	0.0	2.3
	専門・技術職	132	10.6	40.2	37.9	9.1	0.0	2.3
	労務・サービス業	81	14.8	39.5	33.3	9.9	1.2	1.2
	主婦(パート・内職)	155	13.5	43.9	33.5	2.6	0.0	6.5
	専業主婦・専業主夫	157	14.0	50.3	25.5	5.1	0.0	5.1
	学生	36	8.3	33.3	52.8	2.8	0.0	2.8
	無職	234	10.3	44.0	35.0	3.0	0.9	6.8
	その他	64	12.5	29.7	50.0	1.6	0.0	6.3
	無回答	7	0.0	28.6	42.9	0.0	14.3	14.3

(5)法律や制度上では

		n (回答者数)	男性が優遇 されている	やや男性が 優遇されて いる	平等になっ ている	やや女性が 優遇されて いる	女性が優遇 されている	無回答
全体		1,100	10.5	34.9	41.6	6.1	1.5	5.4
性別	男性	484	4.8	29.1	51.4	8.3	2.7	3.7
	女性	609	14.8	39.4	34.2	4.3	0.7	6.7
	無回答	7	28.6	42.9	14.3	14.3	0.0	0.0
年齢	20歳未満	20	5.0	20.0	65.0	5.0	0.0	5.0
	20～29歳	89	9.0	21.3	49.4	16.9	3.4	0.0
	30～39歳	108	9.3	35.2	31.5	15.7	4.6	3.7
	40～49歳	172	15.7	30.2	43.6	6.4	2.3	1.7
	50～59歳	193	7.3	41.5	40.9	2.1	2.1	6.2
	60～69歳	334	11.1	36.5	43.7	3.6	0.3	4.8
	70歳以上	179	10.1	37.4	36.3	3.4	0.0	12.8
	無回答	5	0.0	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	12.2	32.2	40.0	5.6	3.3	6.7
	経営・管理職	58	0.0	25.9	63.8	8.6	0.0	1.7
	事務職	86	8.1	34.9	47.7	5.8	0.0	3.5
	専門・技術職	132	6.8	31.8	43.2	10.6	3.8	3.8
	労務・サービス業	81	13.6	29.6	45.7	8.6	1.2	1.2
	主婦(パート・内職)	155	15.5	43.2	30.3	4.5	1.3	5.2
	専業主婦・専業主夫	157	17.8	41.4	31.8	3.8	0.0	5.1
	学生	36	5.6	22.2	55.6	11.1	2.8	2.8
	無職	234	6.8	34.6	44.0	4.3	1.7	8.5
	その他	64	10.9	31.3	43.8	4.7	1.6	7.8
	無回答	7	0.0	42.9	28.6	14.3	0.0	14.3

(6)政治の場では

		n (回答者数)	男性が優遇 されている	やや男性が 優遇されて いる	平等になっ ている	やや女性が 優遇されて いる	女性が優遇 されている	無回答
全体		1,100	32.2	41.1	20.1	2.2	0.5	3.9
性別	男性	484	24.0	41.7	27.7	3.1	0.8	2.7
	女性	609	38.6	40.6	14.3	1.3	0.3	4.9
	無回答	7	42.9	42.9	0.0	14.3	0.0	0.0
年齢	20歳未満	20	25.0	35.0	35.0	0.0	0.0	5.0
	20～29歳	89	30.3	41.6	23.6	3.4	1.1	0.0
	30～39歳	108	37.0	39.8	16.7	3.7	1.9	0.9
	40～49歳	172	36.6	39.0	21.5	1.7	0.6	0.6
	50～59歳	193	34.2	44.0	16.6	1.0	0.5	3.6
	60～69歳	334	31.1	42.5	19.8	2.4	0.0	4.2
	70歳以上	179	27.4	38.5	21.8	1.1	0.6	10.6
	無回答	5	0.0	40.0	20.0	40.0	0.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	32.2	42.2	17.8	3.3	0.0	4.4
	経営・管理職	58	20.7	41.4	32.8	3.4	0.0	1.7
	事務職	86	30.2	39.5	25.6	2.3	0.0	2.3
	専門・技術職	132	31.1	44.7	20.5	2.3	0.0	1.5
	労務・サービス業	81	33.3	42.0	21.0	0.0	3.7	0.0
	主婦(パート・内職)	155	34.8	47.7	11.6	1.3	0.0	4.5
	専業主婦・専業主夫	157	42.0	39.5	14.0	1.3	0.0	3.2
	学生	36	36.1	36.1	22.2	2.8	0.0	2.8
	無職	234	27.4	38.9	22.2	3.0	1.3	7.3
	その他	64	31.3	32.8	29.7	1.6	0.0	4.7
	無回答	7	28.6	28.6	14.3	14.3	0.0	14.3

(7)しきたりや慣習では

		n (回答者数)	男性が優遇 されている	やや男性が 優遇されて いる	平等になっ ている	やや女性が 優遇されて いる	女性が優遇 されている	無回答
全体		1,100	31.4	46.6	14.7	3.1	0.5	3.6
性別	男性	484	25.8	50.2	16.9	3.1	0.6	3.3
	女性	609	36.1	43.5	13.0	3.1	0.3	3.9
	無回答	7	0.0	71.4	14.3	0.0	14.3	0.0
年齢	20歳未満	20	15.0	30.0	40.0	5.0	5.0	5.0
	20～29歳	89	29.2	28.1	33.7	6.7	0.0	2.2
	30～39歳	108	34.3	47.2	12.0	4.6	1.9	0.0
	40～49歳	172	33.1	41.9	17.4	4.7	1.2	1.7
	50～59歳	193	35.2	49.2	7.8	3.1	0.0	4.7
	60～69歳	334	31.4	53.0	11.7	1.8	0.0	2.1
	70歳以上	179	27.4	46.4	14.5	1.1	0.6	10.1
	無回答	5	0.0	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	26.7	48.9	15.6	4.4	1.1	3.3
	経営・管理職	58	31.0	53.4	13.8	1.7	0.0	0.0
	事務職	86	29.1	50.0	17.4	2.3	0.0	1.2
	専門・技術職	132	34.8	49.2	10.6	4.5	0.0	0.8
	労務・サービス業	81	35.8	34.6	21.0	3.7	2.5	2.5
	主婦(パート・内職)	155	30.3	51.0	10.3	2.6	0.6	5.2
	専業主婦・専業主夫	157	38.9	43.9	13.4	1.9	0.0	1.9
	学生	36	22.2	27.8	36.1	8.3	2.8	2.8
	無職	234	29.9	46.6	13.2	3.0	0.4	6.8
	その他	64	25.0	48.4	20.3	0.0	0.0	6.3
	無回答	7	14.3	57.1	0.0	14.3	0.0	14.3

(8)社会全体としては

		n (回答者数)	男性が優遇 されている	やや男性が 優遇されて いる	平等になっ ている	やや女性が 優遇されて いる	女性が優遇 されている	無回答
全体		1,100	15.5	59.2	17.4	3.6	0.6	3.6
性別	男性	484	10.5	60.7	20.5	4.8	1.0	2.5
	女性	609	19.7	57.6	14.9	2.8	0.3	4.6
	無回答	7	0.0	85.7	14.3	0.0	0.0	0.0
年齢	20歳未満	20	5.0	45.0	35.0	10.0	0.0	5.0
	20～29歳	89	10.1	44.9	30.3	11.2	2.2	1.1
	30～39歳	108	13.9	56.5	17.6	10.2	1.9	0.0
	40～49歳	172	16.9	55.2	22.1	2.9	0.6	2.3
	50～59歳	193	15.0	67.4	11.9	1.6	0.5	3.6
	60～69歳	334	15.9	64.7	13.8	2.1	0.0	3.6
	70歳以上	179	19.6	54.2	16.2	1.1	0.6	8.4
	無回答	5	0.0	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	12.2	51.1	21.1	7.8	2.2	5.6
	経営・管理職	58	6.9	72.4	19.0	1.7	0.0	0.0
	事務職	86	15.1	59.3	17.4	3.5	1.2	3.5
	専門・技術職	132	18.2	57.6	15.9	7.6	0.0	0.8
	労務・サービス業	81	13.6	58.0	19.8	2.5	3.7	2.5
	主婦(パート・内職)	155	14.2	65.2	14.2	2.6	0.0	3.9
	専業主婦・専業主夫	157	21.7	58.6	14.0	2.5	0.0	3.2
	学生	36	8.3	41.7	36.1	11.1	0.0	2.8
	無職	234	17.1	61.5	14.5	1.3	0.4	5.1
	その他	64	14.1	51.6	25.0	3.1	0.0	6.3
	無回答	7	0.0	57.1	28.6	0.0	0.0	14.3

問9 配偶者や恋人からの身体的・精神的な暴力(DV)について、直接被害を受けたことや、身近で見聞きしたことがありますか。

(1) 自分自身について

		n (回答者数)	直接被害を受けたことがある	直接被害を受けたことはない	無回答
全体		1,100	7.5	91.0	1.5
性別	男性	484	2.9	95.0	2.1
	女性	609	11.2	87.8	1.0
	無回答	7	0.0	85.7	14.3
年齢	20歳未満	20	0.0	100.0	0.0
	20～29歳	89	3.4	95.5	1.1
	30～39歳	108	7.4	92.6	0.0
	40～49歳	172	11.6	88.4	0.0
	50～59歳	193	6.7	93.3	0.0
	60～69歳	334	7.5	90.1	2.4
	70歳以上	179	7.3	88.3	4.5
	無回答	5	0.0	100.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	10.0	88.9	1.1
	経営・管理職	58	5.2	94.8	0.0
	事務職	86	3.5	96.5	0.0
	専門・技術職	132	8.3	90.9	0.8
	労務・サービス業	81	4.9	95.1	0.0
	主婦(パート・内職)	155	12.3	87.7	0.0
	専業主婦・専業主夫	157	8.3	91.7	0.0
	学生	36	2.8	97.2	0.0
	無職	234	6.4	88.9	4.7
	その他	64	6.3	87.5	6.3
	無回答	7	0.0	100.0	0.0

(2) 友人や知人など自分以外の人について

		n (回答者数)	見聞きした ことがある	見聞きした ことはない	無回答
全体		1,100	33.0	65.9	1.1
性別	男性	484	28.7	70.2	1.0
	女性	609	36.5	62.4	1.1
	無回答	7	28.6	71.4	0.0
年齢	20歳未満	20	10.0	90.0	0.0
	20～29歳	89	37.1	62.9	0.0
	30～39歳	108	43.5	56.5	0.0
	40～49歳	172	47.7	52.3	0.0
	50～59歳	193	27.5	71.5	1.0
	60～69歳	334	26.9	71.9	1.2
	70歳以上	179	29.6	67.0	3.4
	無回答	5	60.0	40.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	40.0	60.0	0.0
	経営・管理職	58	22.4	77.6	0.0
	事務職	86	39.5	60.5	0.0
	専門・技術職	132	36.4	62.1	1.5
	労務・サービス業	81	33.3	66.7	0.0
	主婦(パート・内職)	155	38.7	59.4	1.9
	専業主婦・専業主夫	157	26.8	73.2	0.0
	学生	36	11.1	88.9	0.0
	無職	234	28.6	68.8	2.6
	その他	64	42.2	56.3	1.6
	無回答	7	71.4	28.6	0.0

問10 性的嫌がらせ(セクハラ)について、直接被害を受けたことや、身近で見聞きしたことがありますか。

(1) 自分自身について

		n (回答者数)	直接被害を受けたことがある	直接被害を受けたことはない	無回答
全体		1,100	7.1	89.4	3.5
性別	男性	484	1.2	93.8	5.0
	女性	609	11.7	86.0	2.3
	無回答	7	14.3	71.4	14.3
年齢	20歳未満	20	5.0	95.0	0.0
	20～29歳	89	9.0	89.9	1.1
	30～39歳	108	10.2	89.8	0.0
	40～49歳	172	16.9	82.6	0.6
	50～59歳	193	7.3	91.2	1.6
	60～69歳	334	3.0	93.7	3.3
	70歳以上	179	2.2	84.9	12.8
	無回答	5	20.0	80.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	4.4	91.1	4.4
	経営・管理職	58	1.7	94.8	3.4
	事務職	86	10.5	89.5	0.0
	専門・技術職	132	6.8	90.9	2.3
	労務・サービス業	81	6.2	92.6	1.2
	主婦(パート・内職)	155	14.2	83.9	1.9
	専業主婦・専業主夫	157	7.0	91.1	1.9
	学生	36	5.6	94.4	0.0
	無職	234	3.4	88.9	7.7
	その他	64	9.4	82.8	7.8
	無回答	7	14.3	85.7	0.0

問10 性的嫌がらせ(セクハラ)について、直接被害を受けたことや、身近で見聞きしたことがありますか。

(2) 友人や知人など自分以外の人について

		n (回答者数)	見聞きしたことがある	見聞きしたことはない	無回答
全体		1,100	27.5	68.0	4.5
性別	男性	484	29.8	66.3	3.9
	女性	609	25.8	69.5	4.8
	無回答	7	28.6	57.1	14.3
年齢	20歳未満	20	10.0	90.0	0.0
	20～29歳	89	27.0	71.9	1.1
	30～39歳	108	37.0	63.0	0.0
	40～49歳	172	41.3	57.6	1.2
	50～59歳	193	26.9	69.4	3.6
	60～69歳	334	23.1	71.6	5.4
	70歳以上	179	19.0	69.3	11.7
	無回答	5	60.0	40.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	32.2	63.3	4.4
	経営・管理職	58	27.6	69.0	3.4
	事務職	86	39.5	60.5	0.0
	専門・技術職	132	36.4	61.4	2.3
	労務・サービス業	81	29.6	66.7	3.7
	主婦(パート・内職)	155	27.7	67.7	4.5
	専業主婦・専業主夫	157	14.6	80.9	4.5
	学生	36	13.9	86.1	0.0
	無職	234	24.8	67.5	7.7
	その他	64	29.7	64.1	6.3
	無回答	7	57.1	28.6	14.3

問11 女性が仕事を持つことについて、理想的だと思うものを次の中から1つお選びください。

		n (回答者数)	結婚し、子どもが生まれても、仕事を続ける	結婚するまでは仕事を続けるが、結婚したら仕事をやめる	子どもが生まれるまでは仕事を続けるが、子どもが生まれたら仕事をやめる	子どもが生まれたら仕事をやめるが、子どもが成長したら、再び仕事につく	一生仕事を持たない	その他	わからない	無回答
全体		1,100	36.9	1.9	2.3	49.3	0.5	4.1	4.1	1.0
性別	男性	484	36.2	1.7	2.5	49.8	0.6	4.1	4.1	1.0
	女性	609	37.6	2.1	2.0	49.3	0.3	3.8	3.9	1.0
	無回答	7	28.6	0.0	14.3	14.3	0.0	28.6	14.3	0.0
年齢	20歳未満	20	35.0	10.0	0.0	35.0	0.0	15.0	5.0	0.0
	20～29歳	89	32.6	3.4	5.6	47.2	0.0	3.4	7.9	0.0
	30～39歳	108	37.0	4.6	0.9	50.9	0.9	4.6	0.9	0.0
	40～49歳	172	38.4	1.2	1.2	43.6	0.0	9.3	6.4	0.0
	50～59歳	193	43.0	1.0	2.1	46.6	0.5	2.6	2.6	1.6
	60～69歳	334	39.8	1.8	3.0	49.7	0.6	2.1	2.4	0.6
	70歳以上	179	26.3	0.6	1.7	59.2	0.6	2.2	6.1	3.4
	無回答	5	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0	20.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	44.4	3.3	2.2	42.2	0.0	2.2	5.6	0.0
	経営・管理職	58	44.8	0.0	1.7	39.7	1.7	8.6	1.7	1.7
	事務職	86	51.2	4.7	2.3	31.4	0.0	7.0	2.3	1.2
	専門・技術職	132	46.2	0.8	3.8	40.2	0.0	4.5	4.5	0.0
	労務・サービス業	81	32.1	1.2	1.2	55.6	1.2	3.7	4.9	0.0
	主婦(パート・内職)	155	29.7	2.6	1.3	55.5	0.6	5.2	4.5	0.6
	専業主婦・専業主夫	157	33.8	0.6	1.9	57.3	0.6	1.9	3.8	0.0
	学生	36	41.7	2.8	0.0	44.4	0.0	5.6	5.6	0.0
	無職	234	30.8	2.6	3.4	54.7	0.4	2.1	4.3	1.7
	その他	64	32.8	0.0	1.6	51.6	0.0	6.3	3.1	4.7
	無回答	7	28.6	0.0	0.0	42.9	0.0	14.3	0.0	14.3

問14 生活の中で、「仕事」「家庭生活」「地域活動」の状況について、理想はどうあるべきだと思いますか。また、実際はどうですか。次の中からそれぞれ1つお選びください。(現在、仕事を行っていない方は、今後のお考えをお答えください。)

《理想》

		n (回答者数)	「仕事」に 専念したい	「家庭生活」又は 「地域活動」にも携 わりつつ、「仕事」を優 先したい	「家庭生活」又は 「地域活動」と「仕 事」を両立 したい	「仕事」にも 携わりつ つ、「家庭 生活」また は「地域活 動」を優先 したい	「家庭生 活」または 「地域活 動」に専念 したい	よくわから ない	無回答
全体		1,100	5.8	27.3	32.3	17.5	5.7	9.6	1.8
性別	男性	484	7.9	35.1	30.4	13.2	3.7	7.6	2.1
	女性	609	4.3	20.9	33.8	21.0	7.4	11.0	1.6
	無回答	7	0.0	42.9	28.6	0.0	0.0	28.6	0.0
年齢	20歳未満	20	10.0	15.0	45.0	15.0	0.0	15.0	0.0
	20～29歳	89	10.1	21.3	27.0	27.0	3.4	11.2	0.0
	30～39歳	108	6.5	19.4	30.6	26.9	5.6	10.2	0.9
	40～49歳	172	5.2	23.3	40.1	21.5	3.5	6.4	0.0
	50～59歳	193	4.7	32.6	38.9	17.6	1.0	4.7	0.5
	60～69歳	334	6.3	28.4	31.7	15.0	6.9	10.2	1.5
	70歳以上	179	3.9	32.4	19.6	8.4	12.8	15.6	7.3
無回答	5	0.0	20.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
職業	自営業・家族従業	90	10.0	41.1	23.3	8.9	4.4	8.9	3.3
	経営・管理職	58	3.4	39.7	39.7	13.8	0.0	0.0	3.4
	事務職	86	4.7	24.4	41.9	20.9	4.7	3.5	0.0
	専門・技術職	132	7.6	25.8	42.4	18.2	0.8	5.3	0.0
	労務・サービス業	81	7.4	32.1	39.5	13.6	0.0	7.4	0.0
	主婦(パート・内職)	155	1.9	21.9	38.1	29.7	1.3	6.5	0.6
	専業主婦・専業主夫	157	4.5	19.1	25.5	19.7	14.6	15.3	1.3
	学生	36	8.3	22.2	38.9	16.7	0.0	13.9	0.0
	無職	234	6.0	28.6	19.2	15.4	10.3	15.8	4.7
	その他	64	7.8	29.7	40.6	6.3	4.7	9.4	1.6
	無回答	7	14.3	14.3	42.9	0.0	28.6	0.0	0.0

《実際》

		n (回答者数)	「仕事」に専念している	「家庭生活」または「地域活動」にも携わりつつ、「仕事」を優先している	「家庭生活」または「地域活動」と「仕事」を両立している	「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」または「地域活動」を優先している	「家庭生活」または「地域活動」に専念している	よくわからない	無回答
全体		1,100	23.1	23.5	8.7	10.5	14.0	14.9	5.3
性別	男性	484	32.0	33.7	8.3	4.1	5.4	11.6	5.0
	女性	609	16.3	15.3	9.0	15.8	20.9	17.2	5.6
	無回答	7	0.0	28.6	14.3	0.0	14.3	42.9	0.0
年齢	20歳未満	20	20.0	30.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	20～29歳	89	42.7	20.2	2.2	4.5	4.5	25.8	0.0
	30～39歳	108	26.9	25.0	10.2	18.5	7.4	9.3	2.8
	40～49歳	172	25.0	25.0	12.8	20.3	7.0	9.9	0.0
	50～59歳	193	27.5	30.1	10.4	15.5	9.3	6.7	0.5
	60～69歳	334	18.3	24.6	8.4	6.0	20.7	14.7	7.5
	70歳以上	179	14.5	12.3	6.7	3.9	24.0	22.3	16.2
	無回答	5	0.0	40.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	35.6	24.4	14.4	13.3	3.3	6.7	2.2
	経営・管理職	58	32.8	41.4	12.1	5.2	0.0	3.4	5.2
	事務職	86	33.7	36.0	15.1	5.8	1.2	8.1	0.0
	専門・技術職	132	34.1	43.2	6.8	11.4	0.8	3.8	0.0
	労務・サービス業	81	43.2	32.1	12.3	1.2	1.2	8.6	1.2
	主婦(パート・内職)	155	11.6	14.8	13.5	39.4	10.3	8.4	1.9
	専業主婦・専業主夫	157	4.5	5.7	3.2	4.5	52.2	22.3	7.6
	学生	36	11.1	30.6	0.0	0.0	2.8	55.6	0.0
	無職	234	17.9	13.7	4.3	2.6	20.5	26.9	14.1
	その他	64	34.4	32.8	10.9	7.8	0.0	7.8	6.3
	無回答	7	14.3	28.6	14.3	14.3	14.3	14.3	0.0

問17 男性が育児休暇を取ることにどう思いますか。次の中から1つお選びください。

		n (回答者数)	大いに賛成である	まあ賛成である	あまり賛成ではない	反対である	わからない	無回答
全体		1,100	36.8	44.5	10.0	0.9	7.1	0.6
性別	男性	484	34.9	47.7	9.7	1.0	6.0	0.6
	女性	609	38.3	42.2	10.0	0.8	8.0	0.7
	無回答	7	42.9	28.6	28.6	0.0	0.0	0.0
年齢	20歳未満	20	55.0	30.0	5.0	0.0	10.0	0.0
	20～29歳	89	48.3	36.0	4.5	2.2	9.0	0.0
	30～39歳	108	46.3	39.8	5.6	1.9	6.5	0.0
	40～49歳	172	40.1	43.0	9.3	1.2	6.4	0.0
	50～59歳	193	29.5	52.8	8.3	1.0	7.3	1.0
	60～69歳	334	34.7	47.0	11.7	0.6	4.8	1.2
	70歳以上	179	30.7	42.5	15.1	0.0	11.2	0.6
	無回答	5	80.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	33.3	41.1	17.8	3.3	4.4	0.0
	経営・管理職	58	25.9	48.3	13.8	0.0	10.3	1.7
	事務職	86	37.2	44.2	9.3	1.2	7.0	1.2
	専門・技術職	132	37.9	47.7	6.1	0.8	7.6	0.0
	労務・サービス業	81	37.0	48.1	7.4	2.5	4.9	0.0
	主婦(パート・内職)	155	38.1	43.2	10.3	1.3	6.5	0.6
	専業主婦・専業主夫	157	36.3	45.9	7.0	0.0	10.2	0.6
	学生	36	58.3	25.0	5.6	0.0	11.1	0.0
	無職	234	34.6	46.2	12.0	0.0	6.0	1.3
	その他	64	40.6	43.8	7.8	1.6	6.3	0.0
	無回答	7	57.1	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0

問18 育児の必要が生じた場合、育児休暇を取りますか。次の中から1つお選びください。

		n (回答者数)	積極的に取る	状況が許せば取るかもしれない	後々、勤務先の待遇面で不利になる恐れがあるので取りたくない	短い期間だったら取りたい	絶対取らない	わからない	無回答
全体		1,100	29.6	44.5	3.0	7.3	1.4	10.4	3.8
性別	男性	484	18.4	52.9	4.3	8.3	2.9	10.3	2.9
	女性	609	38.8	38.1	2.0	6.4	0.2	10.3	4.3
	無回答	7	14.3	28.6	0.0	14.3	0.0	14.3	28.6
年齢	20歳未満	20	30.0	50.0	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0
	20～29歳	89	46.1	32.6	0.0	10.1	2.2	9.0	0.0
	30～39歳	108	35.2	48.1	4.6	5.6	1.9	4.6	0.0
	40～49歳	172	36.6	41.3	5.8	5.2	1.2	9.3	0.6
	50～59歳	193	24.9	53.9	3.1	6.2	1.0	9.3	1.6
	60～69歳	334	26.6	46.7	3.3	7.5	0.6	10.5	4.8
	70歳以上	179	22.9	36.3	0.6	9.5	2.8	16.2	11.7
	無回答	5	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0
職業	自営業・家族従業	90	27.8	43.3	2.2	4.4	5.6	12.2	4.4
	経営・管理職	58	19.0	56.9	3.4	6.9	3.4	8.6	1.7
	事務職	86	29.1	51.2	3.5	8.1	0.0	5.8	2.3
	専門・技術職	132	38.6	40.2	5.3	4.5	1.5	9.1	0.8
	労務・サービス業	81	25.9	55.6	4.9	7.4	0.0	6.2	0.0
	主婦(パート・内職)	155	34.8	42.6	2.6	7.7	0.6	9.0	2.6
	専業主婦・専業主夫	157	35.0	40.1	1.9	5.1	0.0	12.7	5.1
	学生	36	27.8	50.0	0.0	16.7	0.0	5.6	0.0
	無職	234	20.9	43.2	3.4	9.8	1.7	13.7	7.3
	その他	64	35.9	37.5	0.0	6.3	1.6	10.9	7.8
	無回答	7	28.6	57.1	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0

問20 あなたの理想とする子どもの数は何人ですか。次の中から1つお選びください。

		n (回答者数)	1人	2人	3人	4人以上	0人	無回答
全体		1,100	1.9	43.1	48.4	3.4	1.5	1.7
性別	男性	484	2.7	44.0	46.9	2.9	2.1	1.4
	女性	609	1.3	42.4	49.8	3.4	1.1	2.0
	無回答	7	0.0	42.9	28.6	28.6	0.0	0.0
年齢	20歳未満	20	0.0	75.0	20.0	5.0	0.0	0.0
	20～29歳	89	3.4	65.2	24.7	1.1	5.6	0.0
	30～39歳	108	3.7	42.6	46.3	6.5	0.9	0.0
	40～49歳	172	2.9	47.1	42.4	4.7	2.9	0.0
	50～59歳	193	2.6	42.5	48.7	3.6	0.5	2.1
	60～69歳	334	0.9	38.6	55.7	1.8	1.5	1.5
	70歳以上	179	0.6	33.5	57.5	2.8	0.0	5.6
	無回答	5	0.0	60.0	0.0	40.0	0.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	0.0	46.7	48.9	1.1	0.0	3.3
	経営・管理職	58	3.4	37.9	46.6	3.4	5.2	3.4
	事務職	86	3.5	54.7	36.0	3.5	1.2	1.2
	専門・技術職	132	2.3	51.5	40.2	4.5	0.8	0.8
	労務・サービス業	81	2.5	49.4	39.5	3.7	4.9	0.0
	主婦(パート・内職)	155	2.6	35.5	56.8	4.5	0.0	0.6
	専業主婦・専業主夫	157	1.9	38.9	54.1	1.9	0.6	2.5
	学生	36	0.0	72.2	22.2	2.8	2.8	0.0
	無職	234	0.9	38.9	53.8	2.1	1.7	2.6
	その他	64	3.1	29.7	56.3	6.3	3.1	1.6
	無回答	7	0.0	42.9	28.6	28.6	0.0	0.0

問21 実際の子どもの数(又は子育てできると思う数)は何人ですか。次の中から1つお選びください。

		n (回 答 者 数)	1人	2人	3人	4人以上	0人	無回答
全体		1,100	16.3	53.5	17.8	1.5	9.3	1.7
性別	男性	484	17.4	51.4	17.6	1.2	10.5	1.9
	女性	609	15.4	54.8	18.1	1.6	8.4	1.6
	無回答	7	14.3	71.4	14.3	0.0	0.0	0.0
年齢	20歳未満	20	20.0	60.0	10.0	0.0	5.0	5.0
	20～29歳	89	23.6	44.9	9.0	0.0	22.5	0.0
	30～39歳	108	20.4	45.4	16.7	3.7	13.9	0.0
	40～49歳	172	16.3	50.0	12.2	2.3	19.2	0.0
	50～59歳	193	17.1	52.8	20.7	1.0	6.7	1.6
	60～69歳	334	15.0	57.2	19.2	1.2	5.4	2.1
	70歳以上	179	11.2	58.1	24.0	1.1	1.1	4.5
	無回答	5	20.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	17.8	42.2	27.8	1.1	8.9	2.2
	経営・管理職	58	17.2	48.3	15.5	3.4	12.1	3.4
	事務職	86	29.1	44.2	10.5	0.0	15.1	1.2
	専門・技術職	132	22.0	53.8	13.6	0.8	9.8	0.0
	労務・サービス業	81	13.6	44.4	18.5	1.2	22.2	0.0
	主婦(パート・内職)	155	14.2	59.4	19.4	2.6	3.9	0.6
	専業主婦・専業主夫	157	15.9	58.0	18.5	1.3	4.5	1.9
	学生	36	11.1	66.7	8.3	0.0	11.1	2.8
	無職	234	12.4	56.0	19.2	1.7	7.7	3.0
	その他	64	12.5	54.7	18.8	1.6	10.9	1.6
	無回答	7	0.0	57.1	14.3	0.0	14.3	14.3

問23 「性的マイノリティ」や「LGBT」といった言葉を聞いたことがありますか。

		n (回答者数)	聞いたことがある(意味も知っている)	聞いたことがある(意味は知らない)	聞いたことがない	無回答
全体		1,100	55.1	19.8	24.0	1.1
性別	男性	484	55.4	20.7	22.5	1.4
	女性	609	54.7	19.2	25.5	0.7
	無回答	7	71.4	14.3	0.0	14.3
年齢	20歳未満	20	50.0	30.0	20.0	0.0
	20～29歳	89	57.3	16.9	25.8	0.0
	30～39歳	108	54.6	21.3	24.1	0.0
	40～49歳	172	59.9	19.2	20.9	0.0
	50～59歳	193	54.4	19.7	25.4	0.5
	60～69歳	334	58.1	17.7	22.5	1.8
	70歳以上	179	45.3	24.6	27.4	2.8
	無回答	5	60.0	0.0	40.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	48.9	18.9	31.1	1.1
	経営・管理職	58	70.7	15.5	12.1	1.7
	事務職	86	60.5	20.9	17.4	1.2
	専門・技術職	132	53.8	18.9	27.3	0.0
	労務・サービス業	81	56.8	19.8	22.2	1.2
	主婦(パート・内職)	155	49.0	24.5	26.5	0.0
	専業主婦・専業主夫	157	60.5	16.6	22.3	0.6
	学生	36	61.1	19.4	19.4	0.0
	無職	234	50.9	22.2	24.4	2.6
	その他	64	57.8	14.1	26.6	1.6
	無回答	7	42.9	14.3	42.9	0.0

問25 今までに次のような地域活動などに参加した経験がありますか。

(1) 自治会・町内会など

		n (回答者数)	・参加して 役員をしている ・参加して 役員をした ことがある	・参加して いる ・参加したこ とがある	参加したこ とがない	無回答
全体		1,100	39.3	35.3	22.9	0.0
性別	男性	484	40.9	32.4	24.6	2.1
	女性	609	37.4	37.8	21.8	3.0
	無回答	7	85.7	14.3	0.0	0.0
年齢	20歳未満	20	0.0	55.0	40.0	5.0
	20～29歳	89	1.1	27.0	71.9	0.0
	30～39歳	108	12.0	29.6	56.5	1.9
	40～49歳	172	36.0	36.0	26.2	1.7
	50～59歳	193	51.3	36.3	11.4	1.0
	60～69歳	334	52.4	36.5	7.5	3.6
	70歳以上	179	43.6	37.4	14.5	4.5
	無回答	5	80.0	0.0	20.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	37.8	38.9	20.0	3.3
	経営・管理職	58	51.7	25.9	19.0	3.4
	事務職	86	27.9	31.4	38.4	2.3
	専門・技術職	132	39.4	33.3	26.5	0.8
	労務・サービス業	81	24.7	30.9	43.2	1.2
	主婦(パート・内職)	155	47.7	36.8	13.5	1.9
	専業主婦・専業主夫	157	46.5	42.7	8.3	2.5
	学生	36	0.0	38.9	58.3	2.8
	無職	234	41.9	37.2	17.5	3.4
	その他	64	35.9	23.4	35.9	4.7
	無回答	7	57.1	28.6	14.3	0.0

(2) 子ども会など子ども関連の活動

		n (回答者数)	・参加して 役員をしている ・参加して 役員をした ことがある	・参加して いる ・参加したこ とがある	参加したこ とがない	無回答
全体		1,100	22.0	36.0	37.5	4.5
性別	男性	484	10.3	37.8	47.1	4.8
	女性	609	30.9	34.6	30.0	4.4
	無回答	7	57.1	28.6	14.3	0.0
年齢	20歳未満	20	0.0	60.0	40.0	0.0
	20～29歳	89	0.0	42.7	56.2	1.1
	30～39歳	108	7.4	29.6	62.0	0.9
	40～49歳	172	23.8	31.4	43.0	1.7
	50～59歳	193	37.8	33.2	27.5	1.6
	60～69歳	334	26.3	38.0	29.9	5.7
	70歳以上	179	16.8	38.5	31.8	12.8
	無回答	5	40.0	0.0	60.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	20.0	34.4	38.9	6.7
	経営・管理職	58	12.1	44.8	39.7	3.4
	事務職	86	12.8	30.2	54.7	2.3
	専門・技術職	132	15.9	37.9	42.4	3.8
	労務・サービス業	81	12.3	34.6	50.6	2.5
	主婦(パート・内職)	155	43.9	31.6	21.9	2.6
	専業主婦・専業主夫	157	35.7	40.1	22.3	1.9
	学生	36	0.0	58.3	41.7	0.0
	無職	234	16.2	35.5	39.3	9.0
	その他	64	14.1	28.1	50.0	7.8
	無回答	7	57.1	14.3	28.6	0.0

(3) PTAや保護者会などの活動

		n (回答者数)	・参加して 役員をしている ・参加して 役員をした ことがある	・参加して いる ・参加したこ とがある	参加したこ とがない	無回答
全体		1,100	27.9	26.2	41.1	4.8
性別	男性	484	11.6	26.0	57.2	5.2
	女性	609	40.7	26.3	28.4	4.6
	無回答	7	42.9	28.6	28.6	0.0
年齢	20歳未満	20	0.0	20.0	75.0	5.0
	20～29歳	89	1.1	12.4	85.4	1.1
	30～39歳	108	12.0	23.1	63.9	0.9
	40～49歳	172	40.1	17.4	40.1	2.3
	50～59歳	193	44.0	29.5	24.4	2.1
	60～69歳	334	30.5	30.8	33.2	5.4
	70歳以上	179	19.6	32.4	34.6	13.4
	無回答	5	40.0	0.0	60.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	25.6	25.6	43.3	5.6
	経営・管理職	58	19.0	32.8	44.8	3.4
	事務職	86	22.1	20.9	52.3	4.7
	専門・技術職	132	23.5	25.8	48.5	2.3
	労務・サービス業	81	16.0	18.5	63.0	2.5
	主婦(パート・内職)	155	52.3	28.4	15.5	3.9
	専業主婦・専業主夫	157	45.9	34.4	17.8	1.9
	学生	36	0.0	16.7	80.6	2.8
	無職	234	18.4	26.9	46.2	8.5
	その他	64	18.8	17.2	54.7	9.4
	無回答	7	28.6	14.3	42.9	14.3

(4) 福祉に関する活動

		n (回答者数)	・参加して 役員をしている ・参加して 役員をした ことがある	・参加して いる ・参加したこ とがある	参加したこ とがない	無回答
全体		1,100	4.5	19.8	69.9	5.7
性別	男性	484	4.1	18.8	72.1	5.0
	女性	609	4.6	20.5	68.6	6.2
	無回答	7	28.6	28.6	28.6	14.3
年齢	20歳未満	20	0.0	40.0	60.0	0.0
	20～29歳	89	0.0	22.5	77.5	0.0
	30～39歳	108	0.9	12.0	86.1	0.9
	40～49歳	172	4.1	20.3	72.7	2.9
	50～59歳	193	3.1	19.2	73.1	4.7
	60～69歳	334	6.6	20.7	65.6	7.2
	70歳以上	179	7.3	19.6	59.8	13.4
	無回答	5	20.0	20.0	60.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	7.8	16.7	68.9	6.7
	経営・管理職	58	6.9	13.8	72.4	6.9
	事務職	86	0.0	14.0	81.4	4.7
	専門・技術職	132	4.5	22.7	71.2	1.5
	労務・サービス業	81	1.2	22.2	74.1	2.5
	主婦(パート・内職)	155	4.5	16.1	74.2	5.2
	専業主婦・専業主夫	157	3.8	21.0	70.1	5.1
	学生	36	0.0	33.3	66.7	0.0
	無職	234	5.1	20.5	65.0	9.4
	その他	64	7.8	23.4	59.4	9.4
	無回答	7	28.6	28.6	28.6	14.3

(5) 環境に関する活動

		n (回答者数)	・参加して 役員をしている ・参加して 役員をした ことがある	・参加して いる ・参加したこ とがある	参加したこ とがない	無回答
全体		1,100	4.9	36.9	52.5	5.7
性別	男性	484	5.8	39.7	49.6	5.0
	女性	609	3.8	35.0	55.0	6.2
	無回答	7	42.9	14.3	28.6	14.3
年齢	20歳未満	20	0.0	65.0	35.0	0.0
	20～29歳	89	0.0	31.5	67.4	1.1
	30～39歳	108	0.9	25.0	73.1	0.9
	40～49歳	172	4.1	38.4	54.7	2.9
	50～59歳	193	5.2	36.3	54.4	4.1
	60～69歳	334	6.3	40.4	46.4	6.9
	70歳以上	179	7.3	36.9	41.9	14.0
	無回答	5	40.0	20.0	40.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	5.6	36.7	50.0	7.8
	経営・管理職	58	8.6	37.9	48.3	5.2
	事務職	86	0.0	31.4	65.1	3.5
	専門・技術職	132	5.3	37.9	53.8	3.0
	労務・サービス業	81	6.2	33.3	56.8	3.7
	主婦(パート・内職)	155	3.2	38.1	52.9	5.8
	専業主婦・専業主夫	157	4.5	36.9	54.8	3.8
	学生	36	0.0	55.6	44.4	0.0
	無職	234	6.0	37.6	47.9	8.5
	その他	64	6.3	32.8	50.0	10.9
	無回答	7	28.6	14.3	42.9	14.3

(6) 男女共同参画に関する活動

		n (回答者数)	・参加して 役員をしている ・参加して 役員をした ことがある	・参加して いる ・参加したこ とがある	参加したこ とがない	無回答
全体		1,100	0.5	3.8	88.8	6.8
性別	男性	484	0.6	5.0	88.4	6.0
	女性	609	0.2	2.8	89.7	7.4
	無回答	7	28.6	14.3	42.9	14.3
年齢	20歳未満	20	0.0	0.0	95.0	5.0
	20～29歳	89	0.0	1.1	97.8	1.1
	30～39歳	108	0.0	0.9	98.1	0.9
	40～49歳	172	0.6	3.5	93.0	2.9
	50～59歳	193	0.5	3.6	91.7	4.1
	60～69歳	334	0.3	6.0	85.9	7.8
	70歳以上	179	1.1	3.9	76.5	18.4
	無回答	5	20.0	0.0	80.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	0.0	4.4	85.6	10.0
	経営・管理職	58	1.7	10.3	82.8	5.2
	事務職	86	0.0	5.8	89.5	4.7
	専門・技術職	132	0.0	4.5	92.4	3.0
	労務・サービス業	81	0.0	4.9	91.4	3.7
	主婦(パート・内職)	155	0.0	1.3	93.5	5.2
	専業主婦・専業主夫	157	0.0	3.2	91.7	5.1
	学生	36	0.0	0.0	97.2	2.8
	無職	234	1.3	2.6	85.0	11.1
	その他	64	1.6	6.3	79.7	12.5
	無回答	7	14.3	0.0	71.4	14.3

(7) まちづくりなどの活動

		n (回答者数)	・参加して 役員をしている ・参加して 役員をした ことがある	・参加して いる ・参加したこ とがある	参加したこ とがない	無回答
全体		1,100	3.1	19.5	70.7	6.7
性別	男性	484	3.5	24.4	65.9	6.2
	女性	609	2.5	15.6	74.9	7.1
	無回答	7	28.6	14.3	42.9	14.3
年齢	20歳未満	20	0.0	25.0	75.0	0.0
	20～29歳	89	0.0	11.2	86.5	2.2
	30～39歳	108	0.0	14.8	84.3	0.9
	40～49歳	172	1.2	19.8	74.4	4.7
	50～59歳	193	1.0	16.1	78.8	4.1
	60～69歳	334	5.7	21.6	65.6	7.2
	70歳以上	179	5.6	25.1	52.0	17.3
	無回答	5	20.0	20.0	60.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	5.6	18.9	67.8	7.8
	経営・管理職	58	3.4	19.0	72.4	5.2
	事務職	86	1.2	11.6	82.6	4.7
	専門・技術職	132	1.5	20.5	72.0	6.1
	労務・サービス業	81	0.0	22.2	74.1	3.7
	主婦(パート・内職)	155	1.3	14.2	78.7	5.8
	専業主婦・専業主夫	157	3.8	20.4	70.7	5.1
	学生	36	0.0	19.4	77.8	2.8
	無職	234	5.1	24.4	60.7	9.8
	その他	64	4.7	18.8	65.6	10.9
	無回答	7	14.3	14.3	57.1	14.3

(8) 趣味やスポーツ、学習などの活動

		n (回答者数)	・参加して 役員をしている ・参加して 役員をした ことがある	・参加して いる ・参加したこ とがある	参加したこ とがない	無回答
全体		1,100	9.3	40.9	45.2	4.6
性別	男性	484	7.0	38.8	49.8	4.3
	女性	609	10.7	42.9	41.5	4.9
	無回答	7	42.9	14.3	42.9	0.0
年齢	20歳未満	20	0.0	55.0	40.0	5.0
	20～29歳	89	0.0	44.9	52.8	2.2
	30～39歳	108	1.9	35.2	63.0	0.0
	40～49歳	172	5.8	40.7	50.6	2.9
	50～59歳	193	10.9	38.3	47.7	3.1
	60～69歳	334	12.3	43.7	38.6	5.4
	70歳以上	179	14.5	39.1	35.8	10.6
	無回答	5	40.0	20.0	40.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	7.8	42.2	42.2	7.8
	経営・管理職	58	10.3	36.2	50.0	3.4
	事務職	86	9.3	32.6	55.8	2.3
	専門・技術職	132	6.1	40.9	50.0	3.0
	労務・サービス業	81	3.7	40.7	51.9	3.7
	主婦(パート・内職)	155	11.0	46.5	37.4	5.2
	専業主婦・専業主夫	157	12.1	45.9	38.9	3.2
	学生	36	0.0	58.3	38.9	2.8
	無職	234	11.5	38.5	45.7	4.3
	その他	64	7.8	29.7	50.0	12.5
	無回答	7	28.6	28.6	28.6	14.3

(9) 行政主催の教室や講座など

		n (回答者数)	・参加して 役員をしている ・参加して 役員をした ことがある	・参加して いる ・参加したこ とがある	参加したこ とがない	無回答
全体		1,100	4.3	27.8	62.5	5.4
性別	男性	484	2.5	19.8	71.7	6.0
	女性	609	5.4	34.2	55.5	4.9
	無回答	7	28.6	28.6	42.9	0.0
年齢	20歳未満	20	0.0	25.0	70.0	5.0
	20～29歳	89	0.0	10.1	88.8	1.1
	30～39歳	108	0.9	18.5	79.6	0.9
	40～49歳	172	1.2	26.2	70.3	2.3
	50～59歳	193	3.1	31.6	62.2	3.1
	60～69歳	334	6.9	31.1	55.7	6.3
	70歳以上	179	7.8	33.5	44.7	14.0
	無回答	5	20.0	40.0	40.0	0.0
職業	自営業・家族従業	90	4.4	23.3	64.4	7.8
	経営・管理職	58	3.4	20.7	72.4	3.4
	事務職	86	2.3	20.9	69.8	7.0
	専門・技術職	132	1.5	22.7	74.2	1.5
	労務・サービス業	81	1.2	22.2	72.8	3.7
	主婦(パート・内職)	155	4.5	36.8	54.8	3.9
	専業主婦・専業主夫	157	7.0	41.4	49.0	2.5
	学生	36	0.0	13.9	83.3	2.8
	無職	234	6.4	27.8	57.7	8.1
	その他	64	3.1	18.8	65.6	12.5
	無回答	7	14.3	42.9	28.6	14.3

4. 前回調査と今回調査の比較表

	実施時期	名 称	担当課
前回調査	平成19年6月	「男女共同参画社会に関する龍ヶ崎市民意識調査」	環境生活部市民協働課
今回調査	平成29年10月	「男女共同参画社会に関する龍ヶ崎市民意識調査」	市長公室秘書課

今回	問2	男女共同参画社会の実現について、あなたの考えに最も近いもの
前回	問2	男女共同参画社会について、あなたの考えに最も近いもの

		今回	全体	男性	女性
1	男女の違いを認めたくえでなら、実現に向けて取り組む必要があると思う	今回	54.5%	54.5%	54.5%
		前回	60.6%	59.0%	62.1%
2	男女共同参画社会の実現を目指して、ぜひ取り組んでいく必要があると思う	今回	30.1%	33.7%	27.3%
		前回	27.6%	29.8%	26.0%
3	男女共同参画社会はすでに実現されているので、特に取り組む必要はないと思う	今回	2.5%	2.9%	2.0%
		前回	1.9%	3.3%	0.8%
4	男女共同参画社会そのものに賛成できないので、特に取り組む必要はないと思う	今回	0.8%	1.0%	0.7%
		前回	1.3%	1.5%	1.2%
5	わからない	今回	9.6%	5.0%	13.5%
		前回	4.8%	3.0%	5.8%
6	その他	今回	1.3%	2.3%	0.5%
		前回	1.0%	1.3%	0.8%
	無回答【前は「不明」：以下同様】	今回	1.3%	0.6%	1.6%
		前回	2.8%	2.3%	3.3%

今回	問4	あなたは「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。
前回	問4	〃

		今回	全体	男性	女性
1	そう思う	今回	5.2%	6.4%	4.3%
		前回	11.4%	15.0%	8.7%
2	そうは思わない	今回	63.0%	60.7%	64.7%
		前回	48.7%	43.3%	53.0%
3	どちらともいえない	今回	31.5%	32.9%	30.5%
		前回	39.0%	41.0%	37.3%
	無回答	今回	0.3%	0.0%	0.5%
		前回	-	0.8%	1.0%

今回	問5	家庭とは、どうあるべきだと思いますか。
前回	問5	家庭とは本来どうあるべきだと思いますか。

		全体	男性	女性	
1	男性は仕事、女性は家事・育児に役割を分担する	今回	2.8%	4.3%	1.6%
		前回	5.2%	7.0%	3.9%
2	男性は仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする	今回	23.2%	24.2%	22.3%
		前回	33.5%	35.8%	31.7%
3	男性も女性も仕事をし、家事・育児は主に女性が分担する	今回	2.5%	3.5%	1.6%
		前回	2.9%	5.0%	1.2%
4	男性も女性も仕事をし、家事・育児も男性と女性で分担する	今回	55.3%	53.7%	56.7%
		前回	43.9%	41.0%	46.4%
5	男性も女性も仕事をし、家事・育児は家族や家政婦（ベビーシッターなど）に協力してもらおう	今回	3.0%	2.5%	3.4%
		前回	2.1%	1.5%	2.5%
6	女性は仕事、男性は家事・育児に役割を分担する	今回	0.1%	0.0%	0.2%
		前回	-	-	-
7	その他	今回	8.5%	7.4%	9.0%
		前回	8.7%	6.8%	10.1%
8	わからない	今回	4.5%	4.1%	4.8%
		前回	2.1%	2.3%	1.9%
無回答		今回	0.3%	0.2%	0.3%
		前回	-	-	-

今回	問7	次にあげる分野において男女平等になっていると思いますか。
前回	問7	”

(1) 家庭生活では		全体	男性	女性	
1	男性が優遇されている	今回	14.4%	8.5%	19.0%
		前回	18.0%	10.0%	24.1%
2	やや男性が優遇されている	今回	41.5%	37.8%	44.2%
		前回	43.9%	45.3%	43.1%
3	平等になっている	今回	34.4%	41.7%	28.7%
		前回	26.5%	32.8%	21.9%
4	やや女性が優遇されている	今回	5.7%	7.4%	4.3%
		前回	6.4%	7.5%	5.6%
5	女性が優遇されている	今回	1.5%	2.3%	0.8%
		前回	1.3%	1.8%	1.0%
無回答		今回	2.6%	2.3%	3.0%
		前回	-	-	-

(2) 職場では		全体	男性	女性
1 男性が優遇されている	今回	24.2%	19.8%	27.8%
	前回	31.7%	25.5%	36.7%
2 やや男性が優遇されている	今回	37.9%	38.6%	36.9%
	前回	35.8%	35.5%	36.3%
3 平等になっている	今回	25.6%	30.6%	22.0%
	前回	19.2%	25.0%	14.6%
4 やや女性が優遇されている	今回	5.9%	6.2%	5.7%
	前回	6.7%	8.8%	5.2%
5 女性が優遇されている	今回	1.1%	1.0%	1.1%
	前回	0.8%	1.3%	0.4%
無回答	今回	5.3%	3.7%	6.4%
	前回	-	-	-

(3) 教育の場では		全体	男性	女性
1 男性が優遇されている	今回	3.1%	1.7%	4.1%
	前回	2.6%	0.8%	3.9%
2 やや男性が優遇されている	今回	16.4%	12.6%	19.4%
	前回	18.5%	15.5%	21.2%
3 平等になっている	今回	69.5%	77.3%	63.7%
	前回	66.3%	70.5%	63.5%
4 やや女性が優遇されている	今回	4.0%	3.5%	4.3%
	前回	4.5%	6.3%	3.3%
5 女性が優遇されている	今回	0.5%	0.6%	0.3%
	前回	0.9%	1.5%	0.4%
無回答	今回	6.5%	4.3%	8.2%
	前回	-	-	-

(4) 社会活動の場では		全体	男性	女性
1 男性が優遇されている	今回	11.8%	7.0%	15.3%
	前回	13.3%	8.0%	17.3%
2 やや男性が優遇されている	今回	41.9%	40.3%	43.5%
	前回	43.4%	41.0%	45.6%
3 平等になっている	今回	36.0%	42.6%	30.9%
	前回	32.1%	39.8%	26.2%
4 やや女性が優遇されている	今回	5.2%	6.6%	4.1%
	前回	3.9%	4.3%	3.7%
5 女性が優遇されている	今回	0.5%	0.4%	0.3%
	前回	0.4%	1.0%	-
無回答	今回	4.6%	3.1%	5.9%
	前回	-	-	-

(5) 法律や制度上では		全体	男性	女性
1 男性が優遇されている	今回	10.5%	4.8%	14.8%
	前回	13.4%	7.5%	17.9%
2 やや男性が優遇されている	今回	34.9%	29.1%	39.4%
	前回	35.1%	28.5%	40.6%
3 平等になっている	今回	41.6%	51.4%	34.2%
	前回	39.2%	52.3%	29.5%
4 やや女性が優遇されている	今回	6.1%	8.3%	4.3%
	前回	4.8%	5.5%	4.3%
5 女性が優遇されている	今回	1.5%	2.7%	0.7%
	前回	0.4%	0.8%	-
無回答	今回	5.4%	3.7%	6.7%
	前回	-	-	-

(6) 政治の場では		全体	男性	女性
1 男性が優遇されている	今回	32.2%	24.0%	38.6%
	前回	33.5%	23.8%	41.2%
2 やや男性が優遇されている	今回	41.1%	41.7%	40.6%
	前回	38.3%	37.3%	39.4%
3 平等になっている	今回	20.1%	27.7%	14.3%
	前回	19.8%	30.5%	11.7%
4 やや女性が優遇されている	今回	2.2%	3.1%	1.3%
	前回	1.7%	3.0%	0.8%
5 女性が優遇されている	今回	0.5%	0.8%	0.3%
	前回	0.3%	0.5%	-
無回答	今回	3.9%	2.7%	4.9%
	前回	-	-	-

(7) しきたりや慣習では		全体	男性	女性
1 男性が優遇されている	今回	31.4%	25.8%	36.1%
	前回	38.9%	30.5%	45.4%
2 やや男性が優遇されている	今回	46.6%	50.2%	43.5%
	前回	41.9%	49.8%	36.1%
3 平等になっている	今回	14.7%	16.9%	13.0%
	前回	11.4%	13.8%	9.3%
4 やや女性が優遇されている	今回	3.1%	3.1%	3.1%
	前回	2.2%	2.0%	2.3%
5 女性が優遇されている	今回	0.5%	0.6%	0.3%
	前回	0.8%	0.8%	0.8%
無回答	今回	3.6%	3.3%	3.9%
	前回	-	-	-

(8) 社会全体としては【前回：「全体としては」】		全体	男性	女性
1 男性が優遇されている	今回	15.5%	10.5%	19.7%
	前回	15.5%	11.3%	18.6%
2 やや男性が優遇されている	今回	59.2%	60.7%	57.6%
	前回	58.5%	57.5%	60.0%
3 平等になっている	今回	17.4%	20.5%	14.9%
	前回	17.4%	24.5%	12.0%
4 やや女性が優遇されている	今回	3.6%	4.8%	2.8%
	前回	2.3%	2.8%	1.9%
5 女性が優遇されている	今回	0.6%	1.0%	0.3%
	前回	0.5%	0.5%	0.4%
無回答	今回	3.6%	2.5%	4.6%
	前回	-	-	-

今回	問17	男性が育児休暇を取ることにどう思いますか。1つお選びください。
前回	問16	現在、育児休業法が改正され、育児休暇を取りやすくする施策がさまざまなかたちで試みられています。あなたは、男性が育児休暇を取ることにどう思いますか。

		全体	男性	女性
1 大いに賛成である	今回	36.8%	34.9%	38.3%
	前回	35.8%	33.0%	38.1%
2 まあ賛成である	今回	44.5%	47.7%	42.2%
	前回	40.2%	41.3%	39.4%
3 あまり賛成ではない	今回	10.0%	9.7%	10.0%
	前回	15.9%	18.0%	14.6%
4 反対である	今回	0.9%	1.0%	0.8%
	前回	2.2%	3.0%	1.6%
5 わからない	今回	7.1%	6.0%	8.0%
	前回	4.3%	4.3%	4.3%
無回答	今回	0.6%	0.6%	0.7%
	前回	-	4.8%	6.4%

今回	問18	育児の必要が生じた場合、育児休暇を取りますか。
前回	問17	あなたは、必要が生じたら、育児休暇を取りますか。（あなたが0歳から3歳くらいまでの育児期の子どもを持っていると仮定して）

		全体	男性	女性
1	積極的に取る	今回	29.6%	38.8%
		前回	30.5%	42.5%
2	状況が許せば取るかもしれない	今回	44.5%	38.1%
		前回	50.9%	44.3%
3	後々、勤務先の待遇面で不利になる恐れがあるので取りたくない【今回：「勤務先の」追加】	今回	3.0%	2.0%
		前回	4.8%	2.1%
4	短い期間だったら取りたい	今回	7.3%	6.4%
		前回	6.8%	6.2%
5	絶対取らない	今回	1.4%	0.2%
		前回	2.5%	0.4%
6	わからない	今回	10.4%	10.3%
		前回	2.6%	2.1%
無回答		今回	3.8%	4.3%
		前回	-	-

今回	問19	育児に関わろうとすると、支障となるもの何だと思えますか。
前回	問18	あなたが育児に関わろうとすると、特に支障となるものを選んでください。（育児期とは0歳から3歳くらいまでの時期を指すと考えてお答えください。）

		全体	
1	育児などの制度が整っていないこと【前回：「育児時間・育児休業」】	今回	51.9%
		前回	51.8%
2	育児に参加することに対する周囲の偏見	今回	34.4%
		前回	18.1%
3	自分が育児に参加することへの心理的抵抗	今回	7.5%
		前回	7.3%
4	育児能力の不足	今回	15.9%
		前回	16.2%
5	仕事が忙しい	今回	37.4%
		前回	33.2%
6	その他	今回	1.7%
		前回	2.1%
7	わからない	今回	7.3%
		前回	4.9%
8	特にない	今回	4.4%
		前回	8.7%
無回答		今回	3.7%
		前回	-

今回	問20	あなたの理想とする子どもの数は何人ですか。
前回	問19	あなたは何人ぐらいの子どもがいるのがよいと思いますか。

		今回	全体	男性	女性
1	1人	今回	1.9%	2.7%	1.3%
		前回	1.1%	1.0%	1.2%
2	2人	今回	43.1%	44.0%	42.4%
		前回	39.8%	38.0%	41.4%
3	3人	今回	48.4%	46.9%	49.8%
		前回	50.9%	53.3%	49.1%
4	4人以上	今回	3.4%	2.9%	3.4%
		前回	4.3%	3.8%	4.9%
5	0人【前回：「子どもはいらない」】	今回	1.5%	2.1%	1.1%
		前回	1.1%	1.3%	1.0%
無回答		今回	1.7%	1.4%	2.0%
		前回	-	-	-

今回	問22	理想とする子どもの数より、実際の子ども数が少ない方にお伺いします。少ない理由は何ですか。
前回	問20-2	〃

		今回	前回	全体
1	子育てのための経済的負担が大きいから	今回	56.3%	45.4%
		前回	45.4%	
2	子どもが将来どう育つか不安になるなど、精神的負担が大きいから	今回	10.9%	7.9%
		前回	7.9%	
3	子育てのための肉体的負担が大きいから	今回	12.5%	10.3%
		前回	10.3%	
4	仕事と子育ての両立が困難だから	今回	27.3%	16.8%
		前回	16.8%	
5	子育てより自分の時間を大切にしたいから	今回	4.1%	1.4%
		前回	1.4%	
6	住宅事情が悪いから	今回	3.4%	3.9%
		前回	3.9%	
7	年齢的あるいは健康上の理由から	今回	30.9%	24.1%
		前回	24.1%	
8	その他	今回	14.3%	14.6%
		前回	14.6%	
無回答		今回	3.5%	-
		前回	-	

5. 企業意識調査の考察

【平成29年男女共同参画推進状況に関するアンケート調査（事業所対象）】

回収結果：発送件数 29 件・回収数 18 件・回収率 62.1%

（前回調査（H24） 発送件数 23 件・回収数 11 件・回収率 47.8%）

※前回調査は「つくばの里工業団地」内の事業所を対象としたが、今回は「つくばの里工業団地」及び周辺の工業団地の事業所を対象としている。また、回収数が 18 件と少ないため、比率よりも実件数を重視し、分析をしている。

（1）従業員数等について【問1】

今回の調査では、「全従業員数」でみると、18 事業所中 10 事業所が「30 人以上 100 人未満」となっている。また、「全従業員のうち女性の占める割合」では、「20%以上 40%未満」「40%以上 60%未満」がそれぞれ 5 事業所となっている。

「正規雇用者数」でみると、男性が 74%であり、女性が 29.1%である。男性と比べて、女性の正規雇用率が低くなっている。また、前回調査と比較すると、男女共に「非正規雇用」の比率が増加している。

「正規雇用率」を事業所の数でみると、男性では「90%以上」の雇用率を持っている事業所は、18 事業所のうち 9 事業所となっている。女性では「90%が以上」が 6 事業所、「60%以上 80%未満」と「20%未満」が共に 4 事業所となっている。

「事業所における正規雇用のうち女性の占める割合」では、18 事業所のうち「10%以上 20%未満」と「10%未満」が共に 6 事業所で、「20%以上 40%未満」が 5 事業所となっている。前回調査でも、女性の正規雇用率が「10%未満」、「10%以上 20%未満」と「20%以上 40%未満」に集中しており、傾向に変化はない。

①全従業員数

全従業員数	事業所数(件数/%)			
	今回		前回	
100人以上	5	27.8	3	27.3
30人以上100人未満	10	55.6	7	63.6
30人未満	3	16.7	1	9.1
n(回答数)	18	100.0	11	100.0

全従業員のうち女性の占める割合	事業所数(件数/%)			
	今回		前回	
60%以上	1	5.6	0	0.0
40%以上60%未満	5	27.8	3	27.3
20%以上40%未満	5	27.8	4	36.4
10%以上20%未満	3	16.7	2	18.2
10%未満	4	22.2	2	18.2
n(回答数)	18	100.0	11	100.0

②うち正規雇用者数

区分		人数／正規雇用率			
		今回		前回	
男性	正規雇用	960	74.0	557	76.5
	非正規雇用	338	26.0	171	23.5
	計	1,298	100.0	728	100.0
女性	正規雇用	208	29.1	136	37.3
	非正規雇用	506	70.9	229	62.7
	計	714	100.0	365	100.0
全体	正規雇用	1,168	58.1	693	63.4
	非正規雇用	844	41.9	400	36.6
	計	2,012	100.0	1,093	100.0

正規雇用率	事業所数			
	男性		女性	
	今回	前回	今回	前回
90%以上	9	7	6	5
80%以上90%未満	3	2	1	1
60%以上80%未満	3	0	4	2
40%以上60%未満	2	2	2	0
20%以上40%未満	1	0	1	1
20%未満	0	0	4	2
全体(実数)	18	11	18	11

事業所における正規雇用のうち女性の占める割合	事業所数(件数／%)			
	今回		前回	
60%以上	0	0.0	0	0.0
40%以上60%未満	1	5.6	1	9.1
20%以上40%未満	5	27.8	3	27.3
10%以上20%未満	6	33.3	4	36.4
10%未満	6	33.3	3	27.3
n(回答数)	18	100.0	11	100.0

「管理職のうち女性の占める割合」では、18事業所中「10%未満」が14事業所であり、そのうち13事業所は0%である。前回調査でも11事業所中10事業所が「10%未満」となっている。

「新規採用従業員（正規雇用者）」の採用は、18事業所中14事業所、前回調査は11事業所中8事業所が「有」と回答している。

「新規採用有の新規採用従業員（正規雇用者）数の内訳」では、男性が48人に対して女性が18人である。前回調査では、19人の新規採用者のうち男性が16人、女性が3人との実績に比べると、今回女性の雇用が増えている。

③管理職の人数

事業所における管理職のうち女性の占める割合	事業所数(件数/%)			
	今回		前回	
30%以上	0	0.0	0	0.0
20%以上30%未満	0	0.0	0	0.0
10%以上20%未満	4	22.2	1	9.1
10%未満	14	77.8	10	90.9
(うち0%)	13	72.2	-	-
n(回答数)	18	100.0	11	100.0

④-1新規採用従業員（正規雇用者）の雇用有無

新規採用の有無	事業所数(件数/%)			
	今回		前回	
有	14	77.8	8	72.7
無	4	22.2	3	27.3
n(回答数)	18	100.0	11	100.0

④-2新規採用有の新規採用従業員（正規雇用者）数の内訳

区分	内訳(人数/%)			
	今回(14事業所)		前回(8事業所)	
男性	48	72.7	16	84.2
女性	18	27.3	3	15.8
計	66	100.0	19	100.0

(2)女性活躍の推進について【問2、問3：複数回答】

「女性の管理職が少ない理由（女性管理者の割合が30%未満の事業所を対象）」では、「女性従業員が少ない、またはいない」と答えている事業所は18事業所中10事業所で、「管理職としてふさわしい女性従業員が少ない」が5事業所となっている。また、「女性従業員が管理職になることを希望しない」「業務の内容が、女性に任せられない、あるいは女性に向いていない」が3事業所、「女性管理職の育成に取り組んでいない」が1事業所となっている。

「女性活躍を推進するための取組の実施または予定」では、「育児・介護休業や短時間勤務制度など様々な制度の整備」と答えている事業所は18事業所中9事業所となっている。また、「セクハラ・マタハラ・パタハラ防止などの環境の整備」と答えている事業所は8事業所となっている。

①女性の管理職が少ない理由について(女性管理職の割合が30%未満の事業所対象)【問2】

(複数回答)

項目	件数	%
1 女性従業員が少ない、またはいない	10	55.6
2 女性従業員が管理職になることを希望しない	3	16.7
3 女性管理職の育成に取り組んでいない	1	5.6
4 管理職としてふさわしい女性従業員が少ない	5	27.8
5 女性は勤務年数が短く、管理職になるまでに退職してしまう	2	11.1
6 管理職は男性という慣行がある	2	11.1
7 業務の内容が、女性に任せられない、あるいは女性に向いていない	3	16.7
8 その他	2	11.1
無回答	0	0.0
n(回答数)	18	-

②女性活躍を推進するための取組の実施または予定について【問3】

(複数回答)

項目	件数	%
1 女性管理職の目標値の設定	3	16.7
2 女性がいらない部署や業務に積極的に女性を配置する	4	22.2
3 キャリア形成支援・研修の実施	4	22.2
4 育児・介護休業や短時間勤務制度など様々な制度の整備	9	50.0
5 保育・介護サービスの充実	0	0.0
6 ロールモデル(※1)の育成	0	0.0
7 セクハラ・マタハラ・パタハラ(※2)防止などの環境の整備	8	44.4
8 その他	0	0.0
9 女性活躍推進のための取り組みは実施していない	3	16.7
無回答	2	11.1
n(回答数)	18	-

※1 ロールモデル: 行動や考え方の規範となる人物の事

※2 セクハラ(セクシャル・ハラスメント): 性的嫌がらせを意味し、相手の意思に反して不快や不安な状態に追いこむこと

マタハラ(マタニティ・ハラスメント): 妊娠をきっかけとした嫌がらせのこと

パタハラ(パタニティ・ハラスメント): 育児のために休暇や休業をとる男性に対する嫌がらせのこと

(3)ハラスメントについて【問4：複数回答】

「各ハラスメントの防止の取組」について、「各種相談窓口の設置」は18事業所中11事業所が取り組んでいる。また、「ハラスメント防止方針やマニュアル等の策定」と「管理職への研修の実施」では、それぞれ9事業所が取り組んでいる。

①セクシャルハラスメントやパワーハラスメントなど各ハラスメントの防止の取組について【問4】

(複数回答)

項目	件数	%
1 ハラスメント防止方針やマニュアル等の策定	9	50.0
2 管理職への研修の実施	9	50.0
3 管理職以外への研修の実施	5	27.8
4 各種相談窓口の設置	11	61.1
5 意見箱の設置	4	22.2
6 その他	1	5.6
7 取り組んでいない	2	11.1
無回答	0	0.0
n(回答数)	18	-

(4) 育児・介護休業法について【問5】

「育児休業制度について」は、18事業所すべてが「規定(制度)」が「有」と答えている。前回調査でもすべての事業所が「有」と答えている。

「育児休業」の取得者数は、男性が1人で、女性が11人、非正規雇用では女性が2人となっている。育児休業の取得者数は少ない状況といえるが、前回調査と比べると正規雇用で男女共に増えている。

「介護休業制度について」は、「規定(制度)」が「有」と答えている事業所は、18事業所中16事業所である。

「子の看護休暇制度について」は、「規定(制度)」が「有」と答えている事業所は、18事業所中16事業所であり、子の看護休暇の取得状況でみると、「正規雇用」の男性が6人、女性が5人、非正規雇用では男女共に0人となっている。前回調査と比べると「正規雇用」では男女共に増えているが、非正規雇用では前回調査では3人であったが今回は0人である。

① 育児休業制度について

規定(制度)の有無	事業所数(件数/%)			
	今回		前回	
有	18	100.0	11	100.0
無	0	0.0	0	0.0
n(回答数)	18	100.0	11	100.0

取得者数 全従業員数		事業所数					
		男性		女性		計	
		正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規
100人以上	今回	0	0	5	2	5	2
	前回	0	0	6	2	6	2
30人以上100人未満	今回	1	0	3	0	4	0
	前回	0	0	1	0	1	0
30人未満	今回	0	0	3	0	3	0
	前回	0	0	2	0	2	0
計	今回	1	0	11	2	12	2
	前回	0	0	9	2	9	2

②介護休業制度について

規定(制度)の有無	事業所数(件数/%)	
	有	16
無	2	11.1
n(回答数)	18	100.0

取得者数 全従業員数		事業所数					
		男性		女性		計	
		正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規
100人以上		0	0	0	0	0	0
30人以上100人未満		1	0	0	0	1	0
30人未満		0	0	0	0	0	0
計		1	0	0	0	1	0

③子の看護休暇制度について

規定(制度)の有無	事業所数(件数/%)			
	今回		前回	
有	16	88.9	10	90.9
無	2	11.1	1	9.1
n(回答数)	18	100.0	11	100.0

取得者数 全従業員数		事業所数					
		男性		女性		計	
		正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規
100人以上	今回	0	0	0	0	0	0
	前回	0	0	2	3	2	3
30人以上100人未満	今回	4	0	2	0	6	0
	前回	1	0	1	0	2	0
30人未満	今回	2	0	3	0	5	0
	前回	0	0	0	0	0	0
計	今回	6	0	5	0	11	0
	前回	1	0	3	3	4	3

「介護休暇制度について」は、「規定（制度）」が「有」と答えている事業所は18事業所中16事業所であり、介護休暇の取得者数は、「正規雇用者」の男性が2人、女性が1人であり、「非正規雇用者」では0人である。前回調査と比べると、男性2人が増えている。

④介護休暇制度について

規定(制度)の有無	事業所数(件数/%)			
	今回		前回	
有	16	88.9	11	100.0
無	2	11.1	0	0.0
n(回答数)	18	100.0	11	100.0

取得者数 全従業員数		事業所数					
		男性		女性		計	
		正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規
100人以上	今回	0	0	0	0	0	0
	前回	0	0	0	0	0	0
30人以上100人未満	今回	2	0	1	0	3	0
	前回	0	0	1	0	1	0
30人未満	今回	0	0	0	0	0	0
	前回	0	0	0	0	0	0
計	今回	2	0	1	0	3	0
	前回	0	0	1	0	1	0

「所定外労働時間の短縮措置について」は、「規定（制度）」が「有」と答えている事業所は18事業所中16事業所である。正規雇用者の男性にこの制度を適用している事業所は2事業所、女性は6事業所であり、非正規雇用者については0である。前回調査と比べると、正規雇用者の女性にこの制度を適用している事業所が2事業所増加している。

⑥所定外労働時間の短縮措置(短時間勤務制度※2)について

規定(制度)の有無	事業所数(件数/%)			
	今回		前回	
有	16	88.9	9	81.8
無	2	11.1	2	18.2
n(回答数)	18	100.0	11	100.0

実施者数 全従業員数		事業所数					
		男性		女性		計	
		正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規
100人以上	今回	0	0	3	0	3	0
	前回	1	0	3	0	4	0
30人以上100人未満	今回	2	0	2	0	4	0
	前回	1	0	1	0	2	0
30人未満	今回	0	0	1	0	1	0
	前回	0	0	0	0	0	0
計	今回	2	0	6	0	8	0
	前回	2	0	4	0	6	0

※2 短時間勤務制度・・・事業主は、3歳に満たない子を養育する従業員が希望すれば所定労働時間を短縮する措置を講じなければいけない制度(1日の所定労働時間は原則6時間)

(5)ワーク・ライフ・バランスについて【問6：単数回答、問7：複数回答、問8：複数回答】

「ワーク・ライフ・バランスの取組」については、18事業所中9事業所が取り組んでおり、7事業所が取り組んでいないと答えている。半数に近い事業所がワーク・ライフ・バランスの取組をしていない状況である。

①ワーク・ライフ・バランスの取組の有無【問6】

(単数回答)

項目	件数	%
1 取り組んでいる	9	50.0
2 取り組んでいない	7	38.9
無回答	2	11.1
n(回答数)	18	100.0

「ワーク・ライフ・バランスの取組の効果について」は、取り組んでいる9事業所のうち、「仕事の効率化が図られたり業績が向上した」と回答している事業所は4事業所である。

②ワーク・ライフ・バランスの取組の効果について(取り組んでいる事業所を対象)【問7】

(複数回答)

項目	件数	%
1 優秀な人材を確保できるようになった	0	0.0
2 仕事の効率化が図られたり業績が向上した	4	44.4
3 従業員満足度(ES)が向上した	3	33.3
4 企業のイメージアップにつながった	2	22.2
5 従業員のメンタルや身体の不調などによるリスクが減った	2	22.2
6 女性の能力活用につながった	2	22.2
7 その他	1	11.1
無回答	0	0.0
n(回答数)	9	-

「ワーク・ライフ・バランスを推進していく上での課題について」は、「人員配置や業務分担が難しい」と18事業所中6事業所が答えている。他に「日常的に時間外勤務が多い」「有給休暇が取りづらい」と4事業所が答えている。また、「ワーク・ライフ・バランスに関連する各種制度はあるが運用が伴っていない」「ワーク・ライフ・バランスに関連する制度がほとんど無い」とそれぞれ3事業所が答えている。

③今後、ワーク・ライフ・バランスを推進していく上での課題について【問8】

(複数回答)

項目	件数	%
1 日常的に時間外勤務が多い	4	22.2
2 有給休暇が取りづらい	4	22.2
3 育児・介護休業が取りづらい	0	0.0
4 育児・介護休業取得者の代替要員の確保が難しい	2	11.1
5 人員配置や業務分担が難しい	6	33.3
6 ワーク・ライフ・バランスに関連する各種制度はあるが、運用が伴っていない	3	16.7
7 ワーク・ライフ・バランスに関連する制度がほとんど無い	3	16.7
8 事業所の経済的負担が大きい	1	5.6
9 その他	4	22.2
無回答	5	27.8
n(回答数)	18	-

(6) ポジティブアクションについて【問9：複数回答】

「ポジティブアクションの取組の実施または予定について」は、「性別に関係なく、業務に必要な知識や能力、資格取得のための教育や研修を実施する」と18事業所中12事業所が答えている。また、「意欲と能力のある女性の積極的な採用や登用をする」と11事業所が答えている。他に「性別に関係なく、能力主義的な人事管理の徹底や人事考課基準の制度化をする」「仕事と家庭の両立させるための制度を充実させている」「女性用のトイレ・休憩室・更衣室などの設備の充実」については、半数以上の事業所が答えている。

① ポジティブアクションの取組の実施または予定について【問9】

(複数回答)

項目	件数	%
1 女性がいらない部署や業務に、積極的に女性を配置する	5	27.8
2 意欲と能力のある女性の積極的な採用や登用をする	11	61.1
3 女性管理職の登用目標を定めている	3	16.7
4 性別に関係なく、業務に必要な知識や能力、資格取得のための教育や研修を実施する	12	66.7
5 性別に関係なく、能力主義的な人事管理の徹底や人事考課基準の制度化をする	10	55.6
6 女性の能力活用に関する担当者の設置など、推進体制の整備をする	3	16.7
7 仕事と家庭を両立させるための制度を充実させている	10	55.6
8 男女間の賃金格差解消に向けた賃金管理や雇用管理の改善をする	4	22.2
9 全従業員に男女雇用機会均等に関する研修を行い、従業員への意識改革をする	1	5.6
10 男性管理職に対し、女性活用の重要性についての啓発を行っている	2	11.1
11 女性従業員の意見や要望を聴く制度や相談窓口の設置	5	27.8
12 女性用のトイレ・休憩室・更衣室などの設備の充実	9	50.0
13 ポジティブアクションの取組は実施していない	0	0.0
14 その他	0	0.0
無回答	0	0.0
n(回答数)	18	-

ポジティブアクション：社内制度には男女差別的取扱いはないのに「なかなか女性の管理職が増えない」「女性の職域が広がらない」そのために女性の能力が十分に活かされていないといった場合に、このような課題を解決するために、個々の企業が自主的かつ積極的に取り組む、実質的な男女均等取扱いを実現すること

(7) 女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画について【問 10、問 12：単数回答、問 11：複数回答】

「事業主行動計画の策定」では、18 事業所中 7 事業所が策定し、10 事業所が策定していない。

「策定している事業所」では、4 事業所が「女性の採用が増えた」と答えている。また、「女性の昇進が増えた」「出産・子育てを理由とした退職が減った」「男女の部署配置の偏りが減った」とそれぞれ 2 事業所が答えている。

「事業主行動計画未策定事業所」の 10 事業所の今後の策定予定については、8 事業所が「策定する予定はない」と答えている。

①事業主行動計画の策定の有無【問10】

(単数回答)

項目	件数	%
1 策定している	7	38.9
2 策定していない	10	55.6
無回答	1	5.6
n(回答数)	18	100.0

②事業主行動計画を策定したことによる効果について(策定されている事業所を対象)【問11】

(複数回答)

項目	件数	%
1 女性の採用が増えた	4	57.1
2 女性の昇進が増えた	2	28.6
3 女性の管理職が増えた	1	14.3
4 出産・子育てを理由とした女性の退職が減った	2	28.6
5 男女の部署配置の偏りが減った	2	28.6
6 その他	2	28.6
無回答	0	0.0
n(回答数)	7	-

③事業主行動計画の今後の策定予定について(策定されていない事業所を対象)【問12】

(単数回答)

項目	件数	%
1 策定する予定がある	1	10.0
2 策定する予定はない	8	80.0
無回答	1	10.0
n(回答数)	10	100.0

(8) 行政の役割について【問 13：複数回答】

「仕事と生活の両立支援や女性の活躍推進の取組を進めるうえでの行政への期待」では、18 事業所中 12 事業所が「保育や介護などの施設やサービスの充実」と答えており、10 事業所が「取組事業所に対する制度上の優遇措置（財政的支援を含む）」と答えている。また、7 事業所が「社会全体の理解や促進のための広報・啓発」と答えている。

①仕事と生活の両立支援や女性の活躍推進の取組を進めるうえで行政に期待すること【問13】

(複数回答)

項目	件数	%
1 保育や介護などの施設やサービスの充実	12	66.7
2 研修会等の開催(他企業の取組事例など)	5	27.8
3 社会全体の理解の促進のための広報・啓発	7	38.9
4 取組企業に対する制度上の優遇措置(財政的支援を含む)	10	55.6
5 コンサルティング支援	1	5.6
6 取組企業への表彰制度	0	0.0
7 その他	0	0.0
無回答	1	5.6
n(回答数)	18	-

6. 企業意識調査 調査票

《男女共同参画推進状況に関するアンケート調査票》

(平成29年 月 日記入)

貴社名	
所在地	
電話番号	
回答部署名	
ご担当者名	

《従業員数等について》

問1 従業員に関する項目について、各欄に記入してください。

項目	男性	女性
全従業員数	人	人
うち正規雇用者数	人	人
平成28年度中に新規採用した従業員数	人	人
うち正規雇用者数	人	人
管理職の人数	人	人
管理職の中で女性の占める割合		%

(平成 年 月 日現在)

《 女性活躍の推進について 》

問2 問1で女性管理職の割合が30%未満の事業所にお伺いします。

女性の管理職が少ない理由について、あてはまるものをすべてお選びください。

- 1 女性従業員が少ない、またはいない
- 2 女性従業員が管理職になることを希望しない
- 3 女性管理職の育成に取り組んでいない
- 4 管理職としてふさわしい女性従業員が少ない
- 5 女性は勤務年数が短く、管理職になるまでに退職してしまう
- 6 管理職は男性という慣行がある
- 7 業務の内容が、女性に任せられない、あるいは女性に向いていない
- 8 その他 ()

問3 女性活躍を推進するために、どのような取り組みを実施していますか、あるいは予定していますか。あてはまるものをすべてお選びください。

- 1 女性管理職の目標値の設定
- 2 女性がない部署や業務に積極的に女性を配置する
- 3 キャリア形成支援・研修の実施
- 4 育児・介護休業や短時間勤務制度など様々な制度の整備
- 5 保育・介護サービスの充実
- 6 ロールモデル(※1)の育成
- 7 セクハラ・マタハラ・パタハラ(※2)防止などの環境の整備
- 8 その他 ()
- 9 女性活躍推進のための取り組みは実施していない

※1 ロールモデル：行動や考え方の規範となる人物の事

※2 セクハラ（セクシャル・ハラスメント）・・・性的嫌がらせを意味し、相手の意思に反して不快や不安な状態に追いこむこと。

マタハラ（マタニティ・ハラスメント）・・・妊娠をきっかけとした嫌がらせのこと

パタハラ（パタニティ・ハラスメント）・・・育児のために休暇や休業をとる男性に対する嫌がらせのこと

《 ハラスメントについて 》

問4 セクシャルハラスメントやパワーハラスメントをはじめとした各ハラスメントの防止について取り組んでいますか。あてはまるものをすべてお選びください。

- 1 ハラスメント防止方針やマニュアル等の策定
- 2 管理職への研修の実施
- 3 管理職以外への研修の実施
- 4 各種相談窓口の設置
- 5 意見箱の設置
- 6 その他 ()
- 7 取り組んでいない

《 育児・介護休業法について 》

問5 育児・介護休業法に関する状況について、各欄に記入してください。

育児休業制度				
規定の有無	有・無	育児休業取得者数	男性 人	女性 人
		うち正規雇用者数	人	人
介護休業制度				
規定の有無	有・無	介護休業取得者数	男性 人	女性 人
		うち正規雇用者数	人	人
子の看護休暇制度				
規定の有無	有・無	子の看護休暇取得者数	男性 人	女性 人
		うち正規雇用者数	人	人
介護休暇制度				
規定の有無	有・無	介護休暇取得者数	男性 人	女性 人
		うち正規雇用者数	人	人
所定外労働の制限(※1)				
規定の有無	有・無	所定外労働制限実施者数	男性 人	女性 人
		うち正規雇用者数	人	人
所定労働時間の短縮措置(短時間勤務制度(※2))				
規定の有無	有・無	短時間勤務制度実施者数	男性 人	女性 人
		うち正規雇用者数	人	人

※1 所定外労働の制限・・・事業主は、3歳に満たない子を養育する従業員または要介護状態にある家族を介護する従業員が請求した場合、所定労働時間を超えて労働させられない制度

※2 短時間勤務制度・・・事業主は、3歳に満たない子を養育する従業員が希望すれば所定労働時間を短縮する措置を講じなければいけない制度(1日の所定労働時間は原則6時間)

《 ワークライフバランスについて 》

問6 ワークライフバランスに取り組んでいますか。どちらかに○をつけてください。

- | | | |
|---|----------|---------------|
| 1 | 取り組んでいる | ・・・問7へ進んでください |
| 2 | 取り組んでいない | ・・・問8へ進んでください |

問7 ワークライフバランスに取り組んだことでどのような効果がありましたか。

あてはまるものをすべてお選びください。

- | | |
|---|----------------------------|
| 1 | 優秀な人材を確保できるようになった |
| 2 | 仕事の効率化が図られたり業績が向上した |
| 3 | 従業員満足度（E S）が向上した |
| 4 | 企業のイメージアップにつながった |
| 5 | 従業員のメンタルや身体の不調などによるリスクが減った |
| 6 | 女性の能力活用につながった |
| 7 | その他（) |

問8 今後、ワークライフバランスを推進していく上での課題について、あてはまるものをすべてお選びください。

- | | |
|---|-----------------------------------|
| 1 | 日常的に時間外勤務が多い |
| 2 | 有給休暇が取りづらい |
| 3 | 育児・介護休業が取りづらい |
| 4 | 育児・介護休業取得者の代替要員の確保が難しい |
| 5 | 人員配置や業務分担が難しい |
| 6 | ワークライフバランスに関連する各種制度はあるが、運用が伴っていない |
| 7 | ワークライフバランスに関連する制度がほとんど無い |
| 8 | 事業所の経済的負担が大きい |
| 9 | その他（) |

《 ポジティブアクションについて 》

問9 ポジティブアクションについて、どのような取り組みを実施していますか、あるいは予定していますか。あてはまるものをすべてお選びください。

- 1 女性がない部署や業務に、積極的に女性を配置する
- 2 意欲と能力のある女性の積極的な採用や登用をする
- 3 女性管理職の登用目標を定めている
- 4 性別に関係なく、業務に必要な知識や能力、資格取得のための教育や研修を実施する
- 5 性別に関係なく、能力主義的な人事管理の徹底や人事考課基準の制度化をする
- 6 女性の能力活用に関する担当者の設置など、推進体制の整備をする
- 7 仕事と家庭を両立させるための制度を充実させている
- 8 男女間の賃金格差解消に向けた賃金管理や雇用管理の改善をする
- 9 全従業員に男女雇用機会均等に関する研修を行い、従業員への意識改革をする
- 10 男性管理職に対し、女性活用の重要性についての啓発を行っている
- 11 女性従業員の意見や要望を聴く制度や相談窓口の設置
- 12 女性用のトイレ・休憩室・更衣室などの設備の充実
- 13 ポジティブアクションの取り組みは実施していない
- 14 その他 ()

ポジティブアクション・・・社内制度には男女差別的取扱いはないのに「なかなか女性の管理職が増えない」「女性の職域が広がらない」そのために女性の能力が十分に活かされていないといった場合に、このような課題を解決するために、個々の企業が自主的かつ積極的に取り組み、実質的な男女均等取扱いを実現すること

《 女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画について 》

問10 事業主行動計画を策定していますか。どちらかに○をつけてください。

- 1 策定している・・・問11へ進んでください
- 2 策定していない・・・問12へ進んでください

問11 事業主行動計画を策定されている事業所にお伺いします。
事業主行動計画を策定したことで、どのような効果がありましたか。
あてはまるものをすべてお選びください。

- 1 女性の採用が増えた
- 2 女性の昇進が増えた
- 3 女性の管理職が増えた
- 4 出産・子育てを理由とした女性の退職が減った
- 5 男女の部署配置の偏りが減った
- 6 その他 ()

問12 事業主行動計画をまだ策定されていない事業所にお伺いします。
今後、策定予定はありますか。どちらかに○をつけてください。

- | |
|-------------|
| 1 策定する予定がある |
| 2 策定する予定はない |

《 行政の役割について 》

問13 仕事と生活の両立支援や女性の活躍推進の取り組みを進めるうえで、貴事業所が行政に期待することは何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

- | |
|---|
| 1 保育や介護などの施設やサービスの充実 |
| 2 研修会等の開催（他企業の取組事例など） |
| 3 社会全体の理解の促進のための広報・啓発 |
| 4 取組企業に対する制度上の優遇措置（財政的支援を含む） |
| 5 コンサルティング支援 |
| 6 取組企業への表彰制度 |
| 7 その他（ ） |

最後までご協力いただきましてありがとうございました。

